

レタル分量巨額ナルトキハ入市税 (Octroi duties) ト稱スル間税ヲ賦課セラレサルナリ其理由タル他ナン若レ其少量ナルニモ拘ラス之ヲ免税トナストキハ其製造用タルト家内用タルトヲ判別スル能ハサルヲ以テナリ^{*}夫レ斯クノ如クナルヲ以テ貨物ニ課スル租税ハ自然ノ場合上如何ニスルモ常ニ獨占ヲ誘致スルニ至ルヘキナリ、

間税ハ專制政治及貴族政治ニ適スルモノナリ

間税ハ之ヲ賦課スルニ當リ直税ノ如ク人民ヲシテ甚ク不平ノ念ヲ起サレムルヲナク又其徵收方法ニ於テモ直税ノ如ク殊更ニ煩累ナル詮索ヲ爲シテ其收入ヲ減少スルニ至ルヲナカラン何トナレハ一衆多數人ノ如キハ其衣類或ハ諸雜貨類ヲ購求スル度毎ニ

* ロッセル著
『財政學』第
三編第三章

租税ヲ納メ居ルコトヲ覺知セサレハナリ即チ間税ハ一種ノ陰密ナル租税ナリ是故ニ世人多ク間税ヲ以テ專制政治貴族政治ト同一視シ之ト同時ニ賢明ナル民主政ニ於テハ愈々之ヲ排斥スルノ狀勢アルカ如キ蓋モ怪ムニ足ラサルナリ然レトモ此反對タル時アリテ極端ニ走ルハ蓋シ疑ヲ容レス合衆國ニ於テハ國家歳入ハ間税ヨリ生スレトモ州政府及地方政府ニ至テハ殆ント全ク直税ヲ以テ之ヲ維持スルカ如キ宜シク記憶ス可キナリ其國家歳入ノ高ハ州及地方自治體全體ノ歳入總額ト殆ト相同シ故ニ吾人ハ大略我政府ノ總經費ノ一半ヲハ直税ノ收入ヲ以テ之ヲ充タシ又其他ノ一半ヲハ間税ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨スルモノトス若レ夫レ今日洽ク直接合衆國税法ヲ施行スルニ至ラハ或ハ大反對ノ生スルヲアラン何トナレハ合衆國稅徵收吏ノ如キハ決シテ吾諸州人

民ノ歡迎スルモノニ非サレハナリ、勿論今日該收税吏ハ到ル處ニ往來セリ、去レトモ唯吾人ノ多數ハ平生彼等ニ接スルト少キカ故ニ特ニ之ヲ覺知セサルノミ、夫レ直税ニ反對スル感情ヲ稱シテ小兒的思想トナレタルカ如キ寔ニ適切ナリ、其十分道徳心アリ愛國心アリ且賢明ナル人民中ニ在リテハ間税ハ蓋レ之ヲ全廢レ得タリレナラン、然リト雖モ世間ハ愚者多シ、吾人ハ有ノ儘ニ人民ノ標準ヲ立サル可ラス、今日ニ於テハ間税全廢論ノ如キハ到底問題ニ上ラサルナリ、勿論一磅ノ砂糖、少許ノ煙草、或ハ衣服品等ヲ購買スル度毎ニ徐々ニ少額ノ租税ヲ納ムルヲ得セシムルモ亦便法ナルハ固ヨリ疑ヲ容レサルナリ、我國ノ間接合衆國税ニ二種アリ、關稅及内國税是ナリ、前者ハ國內ニ輸入スル貨物ニ課シ、後者ハ國內ニ於テ生産スル貨物ニ課スル者トス、其貨物輸入税ヨリ生スル歳入ニ

付テハ二種特異ノ點アリ、即チ是等ノ租税ハ合衆國ニ於テハ歳入ヲ得ンカ爲ニ之ヲ課スルニ非シテ、全ク他ノ目的ニ出ツルト是ナリ、我關稅ノ目的タル合衆國內ニ貨物ヲ輸入スルヲ愈々困難ナラシメ以テ其貨物ノ生産ニ從事スル人々ヲシテ其競争ヲ免レシムルカ、若シクハ之ヲ以テ其競争ノ勢力ヲ減殺セントスルニ在リ、其歳入ヲ生スルカ如キハ是レ偶然ノ事柄ニ屬スルモノトス、

直税ハ善良ノ公民タルヘキ本分ヲ發揮ス

直税ハ租税負擔者(Tax-bearer)及ヒ納税者(Tax-payer)ノ直ニ之ヲ覺知スルモノナリ、人若シ其所有家屋ノ賣買價格ニ付キ二分ノ租税ヲ要求セラル、トセハ、之カ爲メニ深ク意ヲ政府ノ動靜ニ注クニ至ルヘク、又政府ノ經費増加ハ直接ニ土地、家屋若シクハ所得等ニ於ケル租税負擔ノ追加ヲ意味スルモノナルヲ以テ、人ヲシテ愈々其

*租税負擔者トハ終極ニ其租税ヲ負擔スル人ヲ云ヒ、納税者トハ最初直接ニ之ヲ支拂フ人ヲ云フ、若シ納税者ニシテ更ニ其租税ヲ他ニ轉移

シ得ルハ
又租稅負擔者
トナルモノト
ス、

動靜ニ就テ詮索心ヲ起サシメ、且ツ一層戒慎ヲ加ヘシムルニ至ル
ヘキナリ、

之ニ反レ間稅ハ貨物ノ代價中ニ含蓄セラル、モノナレハ之ヲ負
擔スル通常人ノ如キハ之ヲ覺知スル能ハス、又其常ニ如何ナル租
稅ヲ支拂ヒ居ルヤヲモ確知セサルナリ、時トシテハ或ハ間稅ヲ減
スルモ貨物ノ代價ニ下落ヲ來サ、ルコトナキニ非ス、蓋シ其稅率
ノ變動ニレテ毫モ普通人民ニ影響ヲ及ボサ、ルカ如キハ實ニ稀
有ノ事ナリト雖モ、若シ斯クノ如キ場合アリトセハ彼等ハ愈々租
稅ノ事ニ付キ不注意無頓着トナリ、從テ政府ノ運動ニ對シテ全ク
冷淡ナルニ至ルヘキナリ、抑モ直稅間稅兩者ノ區別中最モ彰著ニ
且ツ最も重要ナルモノ、一ハ即チ前者ハ善良ノ公民タルヘキ本
分ヲ盡ス、トヲ獎勵スレトモ、後者ハ公共ノ事ニ關シテ不注意無頓着

ノ風ヲ養成スルニ至ル、是ナリ、我合衆國政府ノ租稅ハ全ク間稅
ニ屬スルカ如キ、我政府財政上ニ於ケル最モ不幸ナル狀態中ノ一
ナリトス、若シ夫レ合衆國政府ノ歲入大約四億萬弗ヲ八年々直稅
ニ由リテ徵收スル、トシタラシニハ、國會ニ提出セラル、幾多ノ
方案ニ對スル公衆ノ感情モ全ク一變ス可ク、又夫ノ奢侈浪費ノ如
キ今日ニ於テコソ忍容セラルレ、爾後之ヲ再ヒスル、ト能サルニ至
ラント云フモ誤リナカルヘシ、又疎鹵無差別ニ猥リニ恩給年金ヲ
許與シテ國民ヲ貪苦ニ陷ラシムルカ如キ議案ハ再ヒ吾人ヲ勞ス
ル、トナキニ至ルヘキナリ、然レモ又他方ヨリ觀察スレハ若シ右ノ
如クレテ人民ハ果シテ政府ノ必須正當ナル費用ニ應スヘキ充分
ナル重稅ヲ甘受スヘキヤ否ヤ、之ヲ疑フモ固ヨリ理ナキニ非ス、ジ
ヨシ、スチニアート、ミルハ說ヲ爲シテ曰ク、間稅ヲ全廢シ之ニ更フ

* 『經濟學』第五篇第六章

* ロンシエル著

『財政學』第三篇第三章

ルニ直税ヲ以テスルハ危險ノ恐レアルヘレ何トナレハ之カ爲メニ人心ヲ激動スル^{*}甚^{*}ク國債及國家義務ヲ放棄セントスルノ意向抑制^{*}レ難キニ至ルノ虞アレハナリト^{*}夫ノ墨西哥ニ於テ革命ノ騷亂頻繁ナルハ高價ナル直税其一因ヲ爲セリト云ヘリ^{*}

直税間税ヲ巧ニ併用スルヲ得策トス

高價ナル直税ハ南部諸州ニ於ケル公債放棄ノ一因トナリタリ之ト同時ニペンシエルヴエニヤ州内部ノ諸改良事業ハ其人民カ何等ノ直税ヲモ負擔スル^{*}ヲ欲セサルノ故ヲ以テ爲メニ廢絶^{*}レ又メ^{*}ーリーランド州ノ信用ヘ之カ爲ニ毀損セラレタル^{*}ハ已ニ述ヘタル所ナリ是故ニ若^{*}レ實行^{*}レ得ヘクンハ直税ト間税トヲ併用^{*}レ人民ノ智識開ケ愛國心進ムニ比例^{*}ノ政府ノ費用ニ對スル直税負擔ノ割合ヲ増加スル^{*}ヲ可ナリトス我諸州歳入ノ源タル租税ノ大

部分ハ重モニ直税ナレトモ我諸州ニ於ケル直税ハ幾多ノ場合ニ於テハ他ニ轉移セラルカ故ニ租税負擔者ト相區別セル納税者ノ數ハ甚^{*}タ少^{*}キナリ家屋税ノ一部分ハ通例借家人ノ負擔トナルモ是等ノ借家人ハ最初自ラ之ヲ支拂フニ非ス故ニ彼等ハ即時直接ニ其税率變動ノ影響ヲ感セサルナリ是ヲ以テ自然ニ公事ニ關^{*}レ冷淡無頓着ノ風ニ流ル^{*}ヲ免^{*}レヌ夫ノ英國所得税ノ最良性質ト^{*}レテ稱セラル^{*}其一ハ則チ政府須要ノ變動ニ應^{*}レ増減^{*}レ得ヘキ一種不定ノ租税 (Variable tax) ニ^{*}レテ人民能ク其影響ヲ感スルニ至ルニ在リ

合衆國及獨逸ノ如キ聯邦國ノ政府ニ在リテハ政府ノ組織上歳入ノ税源ヲ各州ニ分割^{*}レ而^{*}レテ獨リ間税ノミヲ中央政府ニ保握^{*}レ置クヲ便利トス此事ニ就テハ已ニ述ヘタル理由及ヒ其他ノ理由

ニ付テ説明スヘキト多シト雖モ、本書ハ主トシテ州市ニ關スルモノニシテ、其合衆國政府ノ事ニ論及スルハ必竟偶然ノ結果タルニ過キサルヲ以テ、吾人ハ茲ニ深ク論究セサルヘシ、要スルニ人民ヲシテ深ク其影響ヲ感セシム可キ或種ノ税率不定ノ租税ヲモ含有スル完全ナル合衆國政府ノ租税法ヲ起サント固ヨリ吾人ノ希望スル所ナリ、夫ノ利益多キ鐵道ノ總收入ニ課スル租税ノ如キハ蓋シ此目的ニ適スルモノ、一ナラン、

直税及間税徴收費ノ比較

近年ニ至リ間税徴收ニ關スル行政方法ニ付テハ一般ニ大改良アリ、去レトモ之ニ比シ直税徴收ノ費用ハ更ニ頗ル寡少ナリトス、此點ニ於テモ直税ハ間税ヨリモ一層租税ノ原理ニ適合スルモノナリ、佛國ニ於テハ大革命以前ニ當リ直税徴收ノ費用ハ其割合

六分ニシテ間税ハ一割四分ナリキ、千八百八十一年ニ於ケル貨物税ノ徴收費用ハ都合五分一厘三毛ニシテ千八百七十六年ニ於ケル直税ノ費用ハ三分五厘ナリキ、千八百六十年以前ニハ白耳義諸市ニ於テ間税ヲ徴收スルニ一割四分ノ費用ヲ要シタリ、英國ニ於テハ千八百五十八年ニ於ケル國產税徴收費ハ四分八厘二毛ニシテ關税ハ三分六厘、直税ハ四分九毛ナリキ、去レトモ千八百五十九年ニ於テハ所得税ノ税率ヲ高メタルカ爲メニ直税徴收ノ費用ハ僅ニ二分八厘七毛トナリニキ、普魯西ニ於テハ千八百六十一年ニ於ケル直税ノ費用ハ四分ニシテ間税ハ鹽ノ獨占業ヲ除クノ外ハ一割二分ナリキ、又普魯西ニ於テハ千八百八十三年ヨリ同八十四年ニ至ルノ間ニ直税徴收費ハ七分ニ増シタルニ間税徴收費ハ九分五厘ニ減シタリ、*

我合衆國政府創立以後二十五年間ノ關稅徵收費ノ平均額ハ四分弱ナリレモ今日ニ於テハ殆ント三分トナリ、内國歳入稅徵收費ハ三分乃至四分ナリトス、千七百九十八年ニ於テ家屋ニ直稅ヲ課スルノ法律國會ヲ通過シタレトモ其後忽チ廢止セラレタリ、此租稅ノ徵收費ハ大約九分ナリシカ如シ、然レトモ其行ハレタルハ極メテ短期ノ一ナレハ之ヲ以テ其證據トナスヲ得ス、又決レテ公平ナル試驗ヲ經タルモノニ非サルナリ、

内亂後ノ當時ニ在リテハ合衆國政府全收入ノ徵收費ハ三分乃至四分ナリシモ、所得稅ノ費用ハ僅ニ二分ナリキ、是レ毫モ徵收費ヲ要セサル夫ノ銀行稅ヲ除キテハ其徵收費最モ低廉ナル租稅ナリレナリ、

米國諸州ニ於テハ徵收費トレテ租稅ノ一分乃至二分ヲ出ス、

*
ヘンリー、シ
、アダムス
若シ合衆國ノ
租稅ハ三十五
頁乃至七十頁

通ナリ、固ヨリ右ノ徵收費中ニハ實價査定費ヲモ包含セシムヘキモノトス、

メーリーランド州ハボルチモール市ノ收稅吏ニ對シ該市内ニ於ケル州稅徵收ノ報酬トシテ其一分ヲ支拂ヘリ、

ボルチモール市收稅吏ノ事務所費用ハ其俸給ヲモ包含シテ千八百八十六年ニハ其額四萬七千四百九十弗二仙ナリキ、而シテ同年ニ右收稅吏ノ徵收セル額ハ四百二十五萬四千四百六十五弗二十六仙ニシテ、其徵收費用ハ一分ヲ超ヘタルヘク、大約一分一厘許ナリシナラン、又其他ノ市費モ之ニ附加セサル可ラス、去レトモ又他方ニ於テ殆ント徵收ノ費用ヲ要セサル或種ノ租稅アリトス、市内鐵道馬車ハ總收入ノ九分ヲ市出納長ニ支拂ヒ、又自餘ノ諸會社ハ各自ニ其租稅ヲ州及市ノ出納長ニ送付セリ、去レトモ又州及市ニ

於テハ租税ヲ速納スル時ハ五厘乃至七分ノ割引ヲ許セリ、是レ固ヨリ納税者ノ囊裡ヨリ收納シタル金錢ヲ以テ更ニ拂戻スニハ非サルモ蓋シ徴收費中ニ附加ス可キモノナリ、此種ノ項目ノ如キハ行政機關上ニ於ケル忌ム可キ無用ノ贅物ナリトス、

ニユーヨーク市ノ租税ヨリ生スル収入金額ハ千八百八十六年ノ年度ニ於テハ三千百五十六萬八千九十六弗九十八仙ナリトス、而シテ其内租税及査定局并ニ財政局ノ豫算上其經費ニ要ス可キモノ三十六萬一千九百六十一弗二十一仙ニシテ全収入ノ一分ト六分ノ一弱ニ過キサレヘシ、然レトモ是等ノ諸局ニ於テハ租税徴收ニ關スルモノ、外別ニ諸種ノ費用アルヲ記臆セサル可ラス、米國ノ州及市ニ於ケル直税徴收費ハ其報告甚々不完全ナルヲ以テ之ヲ明説スルヲ能ハス、只推測ヲ以テスルヨリ外ナキナリ、余ノ

究查シ得タル所ニヨリテ推測スルニ大略三分ニ下ラサルヘシ、去レトモ余ハ若シ各都市ニ於テ租税法ヲ整備シ其行政機關ヲ改良スルトキハ其費用ヲ二分以下ニ減スルヲ敢テ難キニ非サルヲ信スルナリ、而シテ右ノ費用タル諸市ニ實行シ得ヘキ何等ノ間税徴收法ヲ用ユルモ間税徴收ノ費用ニ比スレハ遙ニ下位ニ在ルモノトス、又間税ノ間接ニ生セシムル費用ハ其直接ノ費用ニ比シテ一層甚シキ惡結果ヲ生スルヲ如キ更ニ記臆セサル可ラス、此事ハ前段ニ於テ間税ハ商業ヲ障碍スルヲ間税ハ獨占ノ傾向ヲ助長スルヲ及間税ハ各生産者ヲシテ其立換ヘタル租税ヲ附加セシメテ生産費ヲ増加シ以テ消費者タル租税負擔者ニ之ヲ負擔セシムルニ至ルカ故ニ多費ナルモノナルヲ説明スルニ當リ十分論述シタリキ、

若レ徴々タル小産ノ人民ヲシテ政府維持ノ費用ヲ負擔セシメン
トセハ間税ニ依ルノ外ナレ、何トナレハ彼等ハ平生戒慎シテ收税
吏ニ納ム可キ金錢ヲ貯蓄シ置クカ如キナク、又甚々微小ナル財
産及所得ヨリ直税ヲ徴收スルハ間税ヲ徴收スルヨリモ更ニ費用
ヲ要スルノミナラス頗ル難事ナレハナリ、直税ハ從來毎月ニ納メ
ラレタレトモ、一年四期拂ヨリ多キトキハ能ク之ヲ行ヒ難ク、然ル
ニ間税ニ至リテハ貨物ヲ購買スル毎ニ日々之ヲ支拂ヒ得ヘキモ
ノナリ、

第七章 租税ノ書類

租税書類ノ稀乏ナル事

英文ノ租税書類ハ種メテ乏シク、米國ノ如キハ殆ント此題目ニ對
スル書類ナレト云フテ可ナリ、米國ノ州及市ハ年々三億萬弗以上
ヲ費消セリ、而シテ其歳費ハ從來迅速ニ増加シ來リタルモノニシ
テ今後モ亦同様ナルヘシ、是等ノ經費ニ應スヘキ歳入ノ額、之ヲ徵
收スルノ方法、及之ヲ費消スルノ目的等ハ米國人民各自ニ取リテ
至大ノ關係アルモノナリ、然ルニ從來此事ヲ論述シタルモノナク、
本書コソ租税ニ關スル著作ノ嚆矢ナラントハ眞ニ奇異ニ堪サル
ナリ、

租税調査委員會ノ報告

租税調査委員會ノ報告ハ數多刊行セラレタリ、然レトモ是等ノ報

告類ハ皆公共ノ記録ニシテ世人ノ容易ニ之ヲ窺ヒ難キモノナリ、是レ却テ右等ノ記録中ノ或モノニ取リテハ僥倖ナルコトナラン、州税ノ事ヲ調査スル爲メニ設ケラレタル州税特別調査委員會ノ報告中最モ著名ナル者ハニユーヨーク州知事ノ任命セル委員アイヴ井ツト、エー、ウエルズ (David A. Wells) フレウイン、ドッジ (Edwin Dodge) 及ジョー、ルヂ、ダブルユー、キニイラー (George W. Chrysler) 諸氏ノ手ニ成リタル「地方税報告」ニシテ、千八百七十一年ニ成リ同年ニ版刻セラレタリ、此報告ハ自餘ノ出版物ニ比シ米國諸州ニ於ケル租税ノ事ニ付キ世人ノ注意ヲ喚起スルニ最モ與リテカアリシモノナリ、マツサチユーセツト州租税調査委員報告ハ千八百七十五年ニ成リ公共記録トシテ版刻セラレタルモノニシテ、注意周到、専門學者ノ注意ヲ惹クニ足レリ、又右報告ハ我諸州ニ於ケル現行租税制度

ノ大綱ヲ保維センコトヲ主張セリ、千八百八十六年ニ成リタル「イリノイ州歳入調査委員會報告」ハ鐵道課税上ノ諸改良法ヲ説示シ、且ツ其價格量定ニ就テ嶄新簡易ナル方法ヲ細説セリ、又州歳入ノ税源トシテ地方歳入ノ税源トシテ分離セシメテ主張セリ、此事ニ付キテハ後ニ至リ更ニ説ク所アルヘシ、千八百八十六年ニ成リタル「ホルチモール府租税調査委員會報告」ハ市税ノ實價査定ニ於ケル慎重周到ナル行政法ヲ載セタリ、本書中適宜ノ處ニ之ヲ掲出スヘシ、千八百八十八年ニ成リタル「メーリーランド州租税調査委員會報告」ハメーリーランド州現行ノ租税制度ヲ記述セリ、其附録ニハ殖民地時代ヨリ現今ニ至ル同州租税制度ノ沿革大要ヲ載セタリ、右報告中ニ説ク所ニ據レハメーリーランド州内ノ鐵道ヨリ支拂フ

ノ税額ハ各箇人カ其財産ニ比例シテ納ムルモノ、半額ニ及ハスト云ヘリ、

經濟學及財政學諸著作

經濟學上ノ著作ニ於テハ多クハ其二三章ヲ以テ租税ノ論究ニ充ルヲ常トセリ、然レトモ概テ大躰上ノ講究ニ止リ、往々或ハ其歴史的發達ノ沿革、若クハ現行財政制度ノ説明ニ涉ルコトアルモ、其説ク所多クハ皆國家財政ノ事タルニ過キス、ウォーカー(Walker)ノ『經濟學』中ニハ一讀ノ價值アル大躰上ノ概論ヲ載セタリ、又フオーセツト(Fawcett)ノ『經濟學』中ニハ英國地方税論ノ章アリ、然ルニジョーン、スチュアート、ミルハ其大著中ニ於テ深遠ナル思想ヲ以テ一般ノ原理ヲ論究セリ、

獨逸ノ諸大著ハ其論スル所更ニ廣汎ナリトス、ライプツック大學

教授ロツンエム(Roscher)ハ三十年以前ヨリ四卷ヲ以テ完備スヘキ『經濟學全書』ト題スル著作ヲ始メ、獨逸學者ニ特有ナル勵精倦ムナキ探究ヲ以テ今尙ホ怠リナク之ニ從事セリ、近來世間ニ發表シタル其第四卷中ノ第一篇ハ財政ヲ論シタルモノニシテ、殆ント七百頁ノ一書ヲ爲シ、近世諸國、諸州及諸市ノ財政ノ大要ヲハ主トシテ歴史的記述的ニ説明シ、又批評的教示的ニ之ヲ論究シタリ、從來世ニ出タル財政學上ノ最大作ハ柏林ノ教授ワグネル(Wagner)ノ著述ナリトス、是レ又一大大經濟學書中ノ一部ヲ爲セルモノナリ、其財政學ノ二卷ハ既ニ出タリ、其後卷モ相踵テ出ツ可キナリ、ワグネルハ右ノ著作中ニ於テ其周到ナル探究、其法學上ノ修養、其政治上ニ於ケル實驗、及其驚ク可キ深遠、獨創ノ思想ノ結果ヲ示セリ、然レモ同書ハ其排列悉ク宜ヲ得サルニ似タリ、又獨逸語ニ自在ナル

者ニ非サレハ之ヲ解スルコト容易ナラサルナリ、又氏ハ鐵道及山林上ノ事ニ關シ稍々本論ノ外ニ走リタリトテ非難ヲ受ケタレトモ、余ノ見ル所ヲ以テスレハ是レ自ラ理由ナキニ非ス、若シ經濟學及財政學ニシテ夫ノ博物學中ノ或種ニ於ケルカ如ク十分ニ發達シ居ルモノナランニハ、以上ノ如キ事柄ハ讀者ノ既ニ通熟セルモノト見做シ去ルヲ得ヘク、或ハ讀者ヲシテ他書ニ就テ之レヲ研究セシムルモ可ナラン、然レトモ經濟學財政學ニ於テハ實際論述ノ際或事柄ノ如キハ他書ニ於テ之ヲ論究スルノ至當ナルニ拘ラズ説明ノ必要上ヨリ自然ニ之ヲ詳述セサルヲ得サルニ至ルモノトス、要スルニワグネルノ財政篇ハ其論旨如何ニ拘ハラズ、現今財政專門學者ノ必ス一讀ヲ怠ル能ハサルモノナリ、
 現今經濟學書トシテ最モ完全ナルハチニユービンゲン大學教授

*經濟學教科書
 第五卷第六卷

*一八八六年チユービンゲン發刊第二版

グスタフ、シュョエンベルグ (Gustav Schönberg) 編纂主任トナリ獨逸第一流ノ諸大家二十五名ノ協同ノ著セルモノナリトス、其第三卷ハ財政及行政ヲ論シタリ、此書ハ獨逸ノ著作中机上ノ寶典トシテ蓋シ最モ有用ナルモノナラン、兎ニ角一部以上ノ財政書ヲ購フ能ハサル學生ニ在リテハ必ス本書ヲ求メサル可ラス、第三卷中ニ網羅セル單篇中最モ重要ナルモノハ顧フニヘルフェリヒ (Helferich) ノ「租税ノ原理」、フォン、シフェール (von Scheel) ノ「收利事業收入論」及「バロン、フオン、ライツェンスタイン (Baron von Reitzenstein) ノ「地方稅論」ナラン、其組織完全整備セル財政學書ノ先鞭ヲ着タルモノ、一ハ維納大學ノ教授ローレンツ、フオン、スタイン (Lorenz von Stein) ノ著ニシテ、余思フニ是レ最先ノ典範書ナラン、氏ハ行政學上ニ於ケル第一流大家ノ一人ニシテ其行政學ノ著ハ實ニ獨立ナル一科學トシテ之ヲ

論述ノタルモノ、嚆矢ナリ、氏ノ「財政學教科書」ハ行政學ノ一部トシテ財政ニ關スル法律ヲ論述シ、此點ニ於テ著名ナリ、氏ハ又英國、佛國、獨逸、澳西利、及伊太利ニ於ケル租稅書類及其法制ノ比較的論評ヲ載セタリ、

蓋シ米人ハポール、レロア、ポリユーノ明亮ナル著作「財政學」ヲ以テ解シ易ク且ツ更ニ興味アルモノト爲スナラン、其文辭ハ固ヨリ豫期セラル、如ク獨逸ノ著書ヨリモ美ナリ、又レロア、ポリユーノ思想ハ獨逸ノ著者ノ深邃ナルニ及ハサルヲ以テ之ヲ會得スルニ一層容易ナリ、氏ハ創見ノ點ニ於テハワグチルニ如カス、又周到ナル歴史家トシテハロツシエルニ及ハス、去レトモ右ノ著述ハ秩序整然排列宜ヲ得、且ツ況ク現今諸國ノ財政制度ニ關スル實際上ノ材料ニ富シ、財政學ニ潛心スルノ士ニハ欠ク可ラサル著作ナリト

*一八八三年巴里第三版二卷

ス、

特別一科ノ著書

米國ハ漸ク近世財政上ノ事ニ關シ以上ニ舉ケタル諸著作ト比肩シテ耻チサル一著書ヲ得タリ、是レ即チ「國債論」ト題スルミンガン大學教授ヘンリー、シー、アダムス(Henry C. Adams)ノ著ニシテ思想豊富行文甚タ佳ナルモノナリ、其第三篇ハ州及地方公債ノ事ヲ論シタリ、抑モ公債ノ事タル何等ノ財政學書中ニ於テモ其主要ノ部分ヲ占ムヘキモノナルハ固ヨリ言ヲ待タス、同書ハ其論法歴史的、敘述的、評論的及教示的ニシテ、何ツレノ點ニ於テモ甚タ賞讃スルニ足レリ、

グーリー著「租稅論」ニ於テハ合衆國、州及市府等ノ租稅法ヲ明白ニ説述シタリ、又同書ハ法理的ニ租稅ヲ論シタル著述ノ典範タルヘ

キモノナリトス、

テ、ケ、ウオルンントン (F. K. Worthington) 氏ノ「メンルヴェニヤ州財政沿革概覽」ハ米國內一州ノ財政ヲ慎重ニ論述シタルモノ、嚆矢ナリ、又同書ハ「メンルヴェニヤ州ノ財政沿革ヲ説キモノナルカ故ニ特ニ價值アリ、何トナレハ該州ノ財政制度ハ他ノ諸州ニ比レ一層特異ノ情態ヲ有シタルハナリ、ウオルンントン氏ハ該州ノ公共工事及之ヨリ生シタル失敗ニ就テ娓娓々論スル所アリタリ、

*一八八七年五月
月ボルチモ
ル米國經濟
協會」發刊
一八七六一七
七年巴里發刊

ブーダ、ベスト統計局長ジョーゼフ、コロシ (Joseph Korosi) ノ「萬國市府統計」ハ其第二節ニ於テブーダ、ベスト、維納、トリエスト、ライプジツク、ストエツトガルト、ミューニヒ、フランクフルト、オン、ゼ、メイン、羅馬、チエーリン、グエニス、パレルモ、リーヂ、ストックホルム、クリスチヤニヤ、コーペンハーゲン、ア

ンウエルフ、ブカレスト、ブレスロー、ゼノア、フロレンス、ボストン、セント、ルイ、サンフランシスコ、倫敦、伯林及巴里等ニ於ケル財政上ノ分析的及統計的説明ヲ載セタリ、

*一八八六年巴
里再版

エー、ド、パリュエー (E. de Parieu) ノ「租税論」ハ一部四卷ノ著作ニシテ、沿革的評論的ニ租税ノ事ヲ考究セリ、同書ニ於テハ佛國及其他外國ノ租税書類ヲ論查シ、又佛國及其他重モナル諸國ノ法律及習慣ヲモ載セタリ、特ニ國稅及地方稅ノ事ニ就テハ丁寧ニ之ヲ論セリ、元來同書ハ久シキ以前ニ出タル者ニシテ近來ノ新事實及新説ハ多ク之ヲ參考スル能ハサリ、モノナレトモ、ウオーカーハ其著「經濟學」中ニ於テ同書ヲ以テ租税上ニ於ケル佛國著書中ノ最上乘ナリト説ケリ、

*一八八二年倫
敦發刊

「合衆王國內ニ於ケル地方政府及其租税」ハ「コブデン俱樂部」ヨリ

發行セル論文集ノ題號ニシテ「ジョージ・ダブリン・プロブム」(J. W. Probyn)之ヲ編輯セリ、俊拔ナル英國財政家及政治家「ジョー・ルヂ、ジョー、ゴッペン」(George J. Goschen)ノ「地方税報告及演説」ハ蓋シ更ニ一層重要ナルモノナリ、

「エー、ジョー、ウヰルソン」(A. J. Wilson)ノ「國家豫算國債、租税及救貧費論」ナル書ハ「英國公民叢書」中ノ一卷ニシテ、唯大要ヲ約述セル者ナレトモ、其英國租税法ヲ説クヤ、排列宜シキヲ得ス、且ツ外國ノ讀者ニ取リテハ説明不充分ノ點多シ、余思フニ英國ノ讀者ニ取リテモ亦或ハ然ラン、

「ラスボーン」(Rathbone)「ペル」(Pell)及「モンテーグ」(Montague)諸氏ノ合著「地方行政論」ハ「帝國議院叢書」中ノ一篇ニシテ、地方政府及租税ノ事ニ關シ英國ニ現存セル實際并ニ著者等ノ宜シク「スクアール」可シ

*一八七二年倫
敦發刊

ト爲セル理論ヲ簡略ニ叙述セルモノナリ、

内國歳入税局助訟師「スティーブン・ドーウエル」(Stephen Dowell)ノ「上

古ヨリ現時ニ至ル英國租税法及租税沿革」ハ一部四卷ノ著述ニシ

テ、現存セル英國租税法ヲ最モ精細完全ニ説明シタルモノナリ、同

書ハ米國并ニ英國ノ學者ニ取リテ特ニ貴重ナル者ニシテ、其立案

モ亦可ナリ、其最初ノ二卷ハ租税一般ノ沿革ヲ舉ケ、其第三卷及第

四卷ハ特殊ナル租税ノ沿革ヲ叙セリ、第一卷ハ上古ヨリ「スチユア

ート」朝時代及内亂ノ終リニ至ル租税ノ沿革ヲ舉ケ、第二卷ハ共和

政「クロムウエル」ノ國政ヲ握レル時ノ當時、即チ著者カ今日租税制

度ノ濫觴ト爲セル時代ヨリ説キ起セリ、第三卷ハ直税及ヒ印紙税

ノ沿革ヲ載セ、第四卷ハ消費品ニ課スル間税ノ沿革ヲ説キタリ、

以上ハ固ヨリ完全ナル書目ヲ作ラントニハ非ス、只租税ノ事ヲ修

*一八八四年倫
敦發刊

ムル者ノ爲メニ最モ著名ナルモノ數種ヲ舉ケタルニ過キス、即チ云ハ、是等ハ高等ナル労働者學校若シクハ高等專門學校等ノ圖書室内ニ必ス備ヘ置カサル可ラサルモノナリ、若シ夫レ專門學者ヲラント欲スル人ハ以上ニ舉ケタル諸書中ニ於テ更ニ自餘夥多ノ参考書ヲ搜リ得ヘキナリ、

自餘ノ研究材料

自餘ノ研究材料ハ州市ノ公記録ナリ、其記録中ノ主要ナルモノニ至テハ各州ニ於テ其名稱區々ナリ、或ハ「會計検査官報告」ヲ以テ州市ノ財政記録中ノ稱首ト爲スコトアレトモ、多クハ「監督官報告」ヲ以テ其主要ノ記録トス、會計官報告、知事及ヒ市長ノ公報ノ如キモ亦往々貴重ナルコトアリ、又夫ノ大藏卿ノ教書等ノ如キ中央官衙ヨリ發スル教書モ貴重ナルモノトス、租税法律ハ米國州市ニ於ケ

ル種々ナル租税制度ノ根本ナリ、是等ハ時ニ由リ或ハ小冊子トシテ發行セラル、コアリ、去レトモ往々諸州ノ「改正律」ニ就テ之ヲ質スノ必要アリトス、而レテ是等ノ法律書類ハ各高等專門學校及研究所ノ圖書室内ニ備ヘ置ク可キモノナリ、諸學校及諸高等專門學校ハ通例州ノ首府ナル當該有司ニ請願シ、若シクハ州立法部内ニ於ケル同區ノ代議士ノ手ヲ經テ其學校ノ存在セル州ノ記録ヲ領受スルヲ得ヘシ、他州ノ記録類モ時ニ依リ國務卿、州出納長、若シクハ州會計検査官ニ請願シテ之ヲ獲ル、コト難カラズ、去レトモ是等ハ高等學生ノ外ハ何人ニ取リテモ重要ナラサルナリ、

第二編

本編ハ專ラ米國各州市ニ於ケル租税ノ實際ヲ説キタルモノナル
ヲ以テ凡例ニ掲ケタル理由ニヨリ姑ラク之ヲ省ク、

第三編 租税ノ理論

第一章 租税新制度ノ基礎タル可キ原則

凡ソ道理ニ適ヘル租税制度ヲ組織セント欲セハ先ツ避ク可ラサル種類ノ租税ヲ索メ而シテ我米國ノ動産税ノ如キ其負擔ノ能力愈々減少スルニ從ヒ其負擔却テ比較的ニ増加スル逆進税ハ之ヲ排除スルヲ務メサル可ラス、

斯クノ如キ事情ヲ觀察シ以テ之ヲ考フルニ租税制度ハ果シテ如何ニシテ可ナルヤ抑モ吾人カ租税トシテ要スル所ハ則チ已ニ數世ノ試験ニ由リテ其善良ナルヲ證シ且ツ現今ノ時世ニ適合スヘキモノニ在リ此種ノ租税ハ常識ノ最モ見易キ道理ニ由リテ維持セラル、モノナラサル可ラス而シテ其負擔タル宜シク人民全體ニ歸セムヘク各人ヲシテ及フ可キ限り平等ナル喜捐ヲ爲サシ

メサル可ラス、所謂喜捐ノ平等(Equality of sacrifice)ト云フ一ハ吾人
カ租税制度ヲ組織スルニ當リ常ニ銘記シ置カサル可ラサル要件
ナリトス、

右ニ述ヘタル原則ハ租税制度ノ根本タルヘキモノナリ、而シテ課
税ノ性質タル世間能ク之ヲ了解スル者寡ナキヲ以テ、余ハ茲ニシ
ヨシ、スチユアト、ミルカ此問題ニ關シテ述ヘタル明快ナル論文
ヲ引用スヘシ*

抑モ何故ニ平等ヲ以テ課税ノ通規ト爲サ、ル可カラサル乎、即
チ他ナレ、凡ソ政治ノ事タル皆平等ヲ主トセサル可カラサル理
由アルヲ以テナリ、政府ハ其須要ヲ人民ニ求ムルニ當リ人若シ
クハ階級ノ區別ヲ立ツ可カラサルト同シク、人民ヲシテ喜捐ヲ
爲サレムルニ當リテモ亦及フ可キ限リ其負擔ヲ均一ニシ、以テ

*
シヨシ、スチ
ユアト、ミ
ルカ此問題
ニ關シテ述
ヘタル明快
ナル論文
ヲ引用スヘ
シ

悉ク同一ノ苦痛ヲ感セシメサル可ラス、即チ是レ取モ直サス其
喜捐ヲシテ最モ輕カラシムルノ方便ナルヲ知ラサル可ラス、
若シ夫レ或一人ノ受クル所ノ負擔ニシテ其正當ニ受ク可キモ
ノヨリモ輕カラシムル歟、或他ノ人ハ必ス之レカ爲ノ一層重キ負擔
ヲ受ケサルヲ得サルニ至ラン、而シテ其利害ヲ照較スルニ其過
輕ノ爲メ一方ノ受クル利益ノ如キハ其過重ヨリ生スル他方ノ
大害ニ比スレハ固ヨリ其少ナキヲ知ルヘシ、此故ニ課税ノ平等
ハ政治ノ格則トシテ見レハ則チ喜捐ノ平等ト云フノ意ニ外ナ
ラス、則チ政府ノ費用ニ對スル各人ノ負擔ヲ配當スルニ當リ、其
納税ノ爲メニ生スル不便利ハ各人ヲシテ悉ク平等ニ之ヲ感セ
シメ、一人ハ他人ヨリモ重ク若シクハ輕キカ如キヲアル可カラ
スト云フニアリ、蓋シ何事ニ於テモ完全ハ期シ難キモノナレハ

此標準ト雖モ固ヨリ完全ニ之ヲ實行スル能ハサル可シ然レトモ凡テ實際上ノ論究ヲ爲スニ當リテハ先ツ最初ニ其完全圓滿ノ點ハ那邊ニ在テ存スルカヲ確知セサル可ラサルナリ、然リト雖モ世間或ハ正理ノ原則ヲ以テ財政規則ノ基礎ト爲ス₁ヲ喜ハサル人士アリ、唱説ステク財政ノ如キ問題ニ付テハ正理ヲ以テ之ヲ律セサルモ別ニ一層之ニ適當ナルモノアラント、蓋シ是等ノ人士ノ最モ満足スヘキハ則チ租税ヲ以テ社會ノ各員カ其社會ヨリ受ケタル利益ノ價格ニ對シ其報酬トシテ支拂フモノナリトスルニアリ、而シテ彼等ハ資産ノ高ニ比例シテ租税ヲ配當スルノ正理ナル₁ヲ主張セリ、其論據タル他ナシ、即チ二倍ノ財産ヲ有スル人ハ之ヲ精算スルニ必ス二倍ノ保護ヲ受クヘシ、故ニ賣買ノ原則ニ遵ヒ二倍ノ租税ヲ支拂フ可キモノナリ

ト云フニ外ナラス、然リト雖モ夫ノ政府ハ單ニ財産保護ノ爲メニ存スルモノナリトノ説ノ如キハ少シク熟慮スル者ノ服スル能ハサル所ナリ、故ニ首尾一轍ナル租税報價論(Quid pro quo principle)主張者ハ更ニ進シテ論シテ曰ク、保護ノ必要アルハ身軀并ニ財産ナリ、而シテ各人ノ身軀ハ皆同量ノ保護ヲ受クルカ故ニ人々ヲシテ定額ノ人頭税ヲ納メシムルヲ以テ政府カ與フル便益ノ一部ニ對スル適當ノ報價トス、之ト同時ニ其他ノ部分即チ財産ノ保護ニ對シテハ其財産額ニ比例シテ支拂ハサル可ラスト、此説タル牽強附會ニ巧ミナルヲ以テ或ハ人心ヲ惑シ易シト雖モ其謬妄ナルハ蔽フ可ラス、請フ之ヲ論セン、先ツ第一ニ許容ス可ラサルハ身軀及財産ノ保護ハ政府唯一ノ目的ナリト云ヘル₁是ナリ、蓋シ政府ノ目的ノ廣汎ナルハ社會ノ目的ト異ナル

所ナレ、而レテ其目的タル政府ノ直接間接ニ及ホシ得ヘキ勢力ヲ以テ萬善ヲ舉ケ萬害ヲ除カントスルニアリ、第二ニ其本質ノ漠然タル事物ニ向テ強テ確定ノ價格ヲ付レ以テ實務ヲ斷スルノ基礎トナスカ如キハ社會問題上ノ謬論ニ於テ特ニ多ク見ル所ニ非スヤ、十倍ノ財産所有ヲ保護セラル、一トハ是レ決レテ十倍ノ保護ヲ受クルニ同ント云フ能ハサルヘシ、尙又一千磅ノ財産ノ保護ハ國家ニ取リテ百磅ノ財産ヨリモ十倍ノ費用ヲ要スト云フカ如キハ決レテ其眞ヲ得タルモノニ非ス、寧ロ或ハ其二倍若レクハ同額ナリト云フヲ當レリトス可キナリ、一人ヲ保護スルノ司法官、兵士、水兵等ハ亦同シク他人ヲモ保護スヘシ、多額ノ所得ヲ保護センカ爲メ時ニ依リ或ハ更ニ多數ノ警察官ヲ要スルトナント云フ可ラスト雖モ、是レ必スシモ常ニ然ルニ非ス、其

比例ノ標準ニ至テハ或ハ其保護ノ勞力費用ヲ以テスルモ、或ハ被保護者ノ感情ヲ以テスルモ、將タ又如何ナル確定ノ事物ヲ以テスルモ決レテ論者ノ想像セルカ如キ比例ヲ立ツル能ハサルナリ、若シ夫レ各人カ政府ノ保護ヨリ享クル便益ノ多少ヲ計量セント欲セハ、吾人ハ先ツ若シ其保護ナカリセハ何人カ最も困難ヲ感スヘキヤヲ考察セサル可ラス、此疑問ニ對シテ解答ヲ與ヘンニ、則チ之カ爲メニ最も困難ヲ感スルハ天然上若シクハ社會ノ地位上最も薄弱ナル者ニアリト云ハサルヲ得ス、夫レ然リ夫ノ奴隸ノ如キハ實ニ其最タルモノナラン、此故ニ以上考究シ來タル論者ノ所謂正理說ニシテ果シテ正理ニ適セリトセン歟、自助自立ノ能力最モ乏シキ者ハ取リモ直サス最モ政府ノ保護ヲ要スルモノナレハ、是等ノ人々ヲシテ政府費用ノ最大部分ヲ

負擔セシメサル可テサルニ至ラン、即チ是レ天然ノ不平等ヲ矯正ス可キ所謂分配的正理(Distributive Justice)ノ眞理想ニ逆行スルモノナリ、抑モ政府ハ人民全體ニ平等ノ關係ヲ有スルモノト見做スヘク、其何人カ政府ニ對シテ最モ深キ利害ヲ有スルヤ等ヲ定ムルハ實際重要ナラサルトセサル可ラス、若レ夫レ或一人又ハ或一階級ニシテ其政府ヨリ受クル便益割合ニ少ナク之カ爲メニ政府ニ難問スヘキノ必要アラハ須ラク課說以外ノ事ニ付テ之ヲ論争ス可シ、是時ニ當リテハ宜ク課說以外ノ點ニ於テ其欠遺ヲ補フヲ努ムヘク、之ヲ以テ減稅請求ノ理由トナス可テサルナリ、夫レ社會全體ノ利害ニ關スル一目的ニ對シテ隨意的出金ヲ爲スノ場合ニ於ケルカ如ク、各人皆其資力ニ應シテ之ヲ負擔スル時ハ人々皆公平ニ其本分ヲ盡シタルモノト見做サ

ル、モノトス、即チ共同ノ目的ニ對シテ平等ノ喜捐ヲ爲シタルモノト見做サル、ナリ、強制的負擔即チ租稅ノ如キモ亦同シク之ヲ以テ其原則ト爲スヘキナリ、夫ノ更ラニ巧奇深遠ナル原則ヲ索メントスルカ如キハ寧ろ是レ無用ノミ、

抑モ喜捐ノ平等ノ眞義如何ヲ精確ニ明言スルハ實ニ容易ノ業ニ非サルヘシ、即チ是レ主觀的一觀念ナリトス、去レトモ吾人ハ喜捐ノ平等ナル一理想ヲ腦裡ニ喚起シ、而シテ及フ可キ限り之ニ近接スルヲ努ムルヲ得ヘキナリ、蓋シ正理ナル概念ハ自ラ變動アルヲ免レシ、然レトモ吾人ハ時々刻々我良智ノ教示スル所ニ從ヒ飽マテ正理ニ達センコトヲ努メサル可ラス、公平ナル物價(Fair price)及公平ナル地代(Fair rent)等ノ如キハ主觀的觀念ニ屬スレトモ科學、法學及神學等ハ尙且ツ是等ノ觀念ヲ論究シ、愛蘭土地方裁判所ハ

今日尙ホ所謂公平ナル地代ヲ判定スルナリ、而シテ其ノ所謂公平(Fairness)ハ社會ノ須要、習慣、傳說、又ハ時ト場所トニ於ケル千差萬別ノ事情ト相關聯スルモノニシテ、所謂自ラ立ち人ヲモ立タシメヨ(Jive and let live)トノ格言ニ基セリ、棄捐ノ平等ナルモノモ亦自ラ社會ノ各員、及各階級ノ正當ナル須要ト相關聯シテ定マルモノナリ、而シテ立法ノ當局者ニ對シテ希望ス可キハ要スルニ其道徳上智識上ノ知覺ヲ以テ之ヲ應用スルト是ナリ、

租税ノ第二典則ハ則チ凡ソ租税ハ其賦課額、支拂ノ時期及支拂ノ方法上ニ於テ確定ナラサル可ラサルト是ナリ、若シ是等ノ條々ニ於テ不確定ノ點存スル時ハ課税ニ避ク可ラサル弊害ヲ愈々増長シ、一方ニ於テハ抑壓偏頗ノ弊ニ陥リ、他方ニ於テハ敗徳汚行ノ害ヲ醸スニ至ルヘキナリ、去レハ何事ト雖モ十分ノ理由アルニ非ス

シハ租税査定官若シクハ徵稅官ノ專斷ニ一任シ去ルカ如キトアル可ラス、何トナレハ右等ノ官吏ニ於テハ權力濫用ノ誘因頗ル多キヲ以テナリ、

租税ノ第三典則ハ則チ納稅者ノ便利ヲ酌量スルヲ以テ頗ル重要ナルト爲スニアリ、若シ斯ノ如クスル時ハ實際租税ノ負擔ヲ寬和スルニ至ルヘシ、夫ノ間税ノ利ヲ主張スル實際論中ニ於テ其最モ強固ナル理由ノ一ハ間税ノ場合ニ於テハ納稅者カ自己ノ便利ニ從テ貨物ヲ購買スル度毎ニ少額宛ノ租税ヲ納ムルヲ得ルト云フニ在リトス、直税ハ正理及ビ公安ノ點ヨリ考察スルニ固ヨリ其善良ナル間税ノ上ニ出ル者ニシテ、輿論公德ノ許ス限リハ須ラク間税ヲ廢シ之ニ更フルニ直税ヲ以テスヘキモノナリ、此故ニ直税ヲ實施スルニ當リ及フ可キ限リ間税固有ノ便益ヲ兼有セシムル

トヲ謀ラサルヘカラス、去レトモ此點ニ付テハ未タ曾テ十分ノ注意ヲ加ヘタル者ナキナリ、余思フニ地主ニ課スル租税ハ宜ク彼等カ通例地代ヲ收納スル期節若シ之ニ關スル地方ノ習慣存スルトキハ其時期ニ從ヒニ於テ之ヲ徵收スヘク、農夫若シクハ耕作者ニ課スル租税ハ彼等カ毎年其生産物ニ對スル金錢ノ報酬ヲ得ヘキ時ニ於テ之ヲ支拂ハシメサル可ラス、又毎週若クハ毎月徐々ニ其所得ヲ得ルノ人民ニ對シテハ四期分納法ニ由リテ其租税ヲ支拂フトヲ許サハ彼等カ國庫ニ對スル義務ヲ盡スニ一層ノ便利ヲ見ルナラン、

租税ノ四大典則ニ於ケル最後ノ一典則ハ租税行政ノ經濟ニ關スルモノニシテ、即チ租税トシテ人民ノ囊中ヨリ取り去ル金額ト其實際國庫内ニ入ル金額トノ差違ヲシテ及フ可キ限り寡少ナラン

メサル可ラスト云フニ在リ、

抑モ以上ノ四典則タル頗ル簡單ナレトモ從來常ニ一二ノ違背アルヲ免レサリキ、而シテ之カ爲メニ容易ニ判知シ難キ害毒ヲ社會公安上ニ及ホスニ至リシナリ、

余ハ又更ニ根本的原則トシテ左ノ一條ヲ加ヘントス、即チ課税スヘキ事物ハ及フ可キ限り少數ナルヘキヲ及課税ノ物躰ヲ撰擇スルニ當リテハ深ク注意シテ其商業及職業ニ對スル干涉ヲ最下度ニ止ムルヲ主トスヘキヲ是ナリ、夫ノ間税カ獨占ノ弊ヲ醸シ以テ害毒ヲ社會多數ニ及ホス所以ノモノ必竟其營業ニ干涉スルカ故ニ外ナラス、即チ少資ノ人ヲ妨害シ其營業ニ從事スルニハ一層多額ノ資本ヲ要センメ、遂ニ小仕掛ノ事業ヲ壓倒シテ大仕掛ニ經營セル營業ニノミ其利益ヲ擧ゲシムルニ至ルヲ以テナリ、合衆國ニ

於テ「マツチ」製造ノ獨占起リ或ハ煙草製造等ノ大半概テ少數者ノ掌握ニ歸スルニ至リタルカ如キ皆此手段ニ依ラサルハナレ、又一時ニ多數ヲ以テスルニ非サレハ外國ヨリ貨物ヲ輸入スルノ困難ナルカ如キ、或ハ此種ノ營業モ亦少數者ノ掌握ニ歸スルニ至リタルカ如キ、要スルニ間税ノ結果ニ外ナラサルナリ、課税スヘキ事物ハ及フ可キ限リ少數ナルヘントハ所得稅若シクハ地價稅ヲ以テ唯一ノ租稅ト爲スヲ可トスルノ意トシテ解ス可カラス、又右ノ外租稅ノ一原則ト見做スヘキハ苟モ極貧者ニ非限リハ各人皆或方法ニヨリテ政府ノ費用ヲ負擔セサル可ラサルヲ是ナリ、即チ是レ租稅ノ普及(Universality of taxation)トモ稱スヘキモノトス、若シ夫レ租稅ハ及フ可キ限リ少數ノ事物ニ賦課スヘント説クニ當リテヤ其意タル他ナレ、何等ノ貨物若シクハ財産ノ種

類ヲ問ハズ自餘ノ原則ニ觸ル、トナクシテ之ヲ免稅スルノ好機アラハ之レヲ免稅スルヲ大利トスト云フニ外ナラス、例セハ夫ノ保護主義可否ノ論究ハ姑テ措キ、貨物ノ輸入稅ヨリ生スル歲入ノ如キハ僅ニ十餘種ノ物品ヨリ之ヲ徵收スルモ、其百千種ヨリ之ヲ徵收スルト同一般ニ能ク行ハレ且ツ公平ナルヲ得ルコト已ニ明白トナレリ、是レ即チ租稅ノ行政ヲ簡捷ナラシムルコト顯著ナルノミナラス、私事ニ對スル政府ノ干渉ヲシテ最適度ニ止ラシムルモノナリ、産業上ニ及ホス租稅ノ結果ニ就テハ留意シテ考究セサル可ラス、何トナレハ現在ノ産業ハ實ニ租稅ノ本源ナレハナリ、若シ現在ノ産業ニシテ租稅ノ爲メニ實際ノ損害ヲ蒙ルカ如キトアラハ其結果人民ヲシテ窮乏ニ陥ラシムルニ至ルヘキナリ、今ヤ試ミニ租

稅ハ悉皆土地其物ヨリ一轉シテ土地ニ加ヘタル改良ノ上ニ課セラル可シト假想セヨ、之カ爲メニ人民ハ投機ノ目的ノ爲メニ土地ヲ所有シ其改良ノ如キハ棄テ願ミサルニ至ルベシ、又改良地ニ課シタル租稅ハ悉皆廢止セラレ、更ニ未タ改良ヲ加ヘサル土地ニ課セラレタリト假定セヨ、此場合ニ於テハ必ス自ラ産業ヲ振起センムルニ至ルヘシ、去レトモ斯ノ如キ方策ヲ採用スルハ他ノ理由ヨリシテ固ヨリ望ムヘキトニハ非サルナリ、

財産ノ移動及ビ其移動ニ關スル原則ハ租稅立法官タル者ノ須ラク熟知セサル可シサルモノナリ、此事タル前述ノ論旨ト密接ノ關係アリトス、曾テ市内馬車鐵道發起者ノ一人アリテ八萬餘ノ住民アル隣市ニ赴キ市内馬車鐵道特許權ヲ得タリ、是レ實ニ意外ノ僥倖ナリキ、而レテ該市ノ市會カ右ノ特許ニ對シテ或種ノ條件ヲ提

出スルヤ、彼發起者ハ陽ニ憤リ且ツ曰ク、斯クノ如キ諸條件ヲ以テ制肘セラレ、モノトセハ吾等ハ去テ他所ニ赴キ以テ我資本ヲ投ス可シト、勿論是レ虛言タルニ過キス、然ルニ該市會ハ斯クノ如キ營業ノ性質ニ通曉セサリシヲ以テ遂ニ彼カ爲メニ瞞着セラレ、ニ至リタリ、願フニ該市會ハ後ニ至リ市内馬車鐵道ノ價值アルモノハ一市内ニ於テハ一線ニ過キサルヲ及ヒ是等ノ特許權ハ世人ノ熱望スル所ナレハ若シ適當ニ公告シテ競賣ニ付スルハ其營業總收人ノ好割合ヲ徵收スルヲ得テ納稅者ノ補助トナスニ足ルヘキモノナルヲ悟リタルナラン、昨冬メーリーラメド州ノ諸鐵道會社ハ其財産額ニ比例シテ各私人ト同額ノ租稅ヲ出ス可シト云ヘル租稅調査委員會ノ提案ニ對シ、若シ斯クノ如クシハ之カ爲ニ諸鐵道ハ該州ヨリ驅逐セラレ、ニ至ルヘシトノ理由ヲ以テ

現ニ之ニ抗言シタリ、實ニ奇ト云フ可シ、彼等ノ資本ハ已ニ固定シテ特別ノ形ヲ爲シ如何トモスヘキナシ、若シ其課稅ノ爲メニ其利益僅ニ二分ニ上ラサルニ至ルモ、尙ホ其利益ノ絶無ニ勝ル可キナリ、彼等諸鐵道會社ハ以テ社會ヲ恐嚇センコトヲ試ムルヲ得ヘキモ、豈ニ自ラ走リ去ルヲ得ンヤ、勿論彼等諸鐵道會社ハ正理ノ要スルヨリモ多額ノ租稅ヲ支拂フヘント云フニ非ズ、唯是レメリリラシト州立法部カ自ラ甘シテ彼等ノ爲メニ瞞着セラレタルノ不可ヲ證スルノミ、

我國租稅全體ヲ論スルニ當リテハ單ニ一種ノ租稅ノミヲ舉テ考究スヘキニ非ス、宜シク我合衆國稅、州稅、郡稅及地方稅等ノ租稅ヲ悉皆集合ノ一ノ租稅制度ト看做シ以テ之ヲ考究スヘキナリ、而シテ立法者ノ目的トスヘキハ則チ租稅負擔ノ輕重ヲ整理シ、各人ヲシ

テ其義務ヲ負ヘル悉皆ノ租稅ニ付キ公平ナル分擔ヲ爲サシムルニ在リ、例セハ我合衆國稅ノ如キハ貧民及中等社會ニ對シテハ其負擔不相當ニ重シトス、而シテ吾人ハ一ニハ米國公民タルト同時ニ又一ニハ我諸州ノ公民タリ、且ツ諸州ハ租稅ノ事ニ關シテハ中央政府ト相分立セルモノニ非サルヲ以テ州稅及地方稅ハ富有社會ニ比較シテ貧民及中等社會ノ負擔ヲ輕減スルヲ主トスルヲ公平トス、夫ノ所得稅ニ於テ六百弗以下ノ所得ヲ免稅トスルカ如キ或ハ或額以下ノ動産ノ免稅即チ例セハ千八百八十七年三月二十六日ノテンチソシ州新租稅法ニ於ケル價格千弗ノ動産免稅ノ如キ、凡テ右ノ論旨ニ由リテ十分ノ是認ヲ與フヘキモノナリ、以上細說シタル諸原則ヲ銘記セハ米國諸州、市、並ニ其他ノ諸政治區ニ於ケル租稅制度ヲ組織スルニ當リ敢テ深ク困難ヲ感セサル

ス

第二章 不動産稅

抑モ租稅制度ハ皆不動産ヲ以テ其基礎トセサル可ラス其理由タル寔ニ見易キモノナリ今其一ニヲ舉ケンニ第一ニ不動産ハ古來富ノ根本タリシモノニシテ富裕及特權等ハ要スルニ不動産ノ所有ヨリ生シタルモノトス貴族社會ナル一種ノ階級ノ如キモ其根源ハ廣大ナル土地ノ所有ニ在リトス往時ノ租稅制度ヲ觀察スルニ其主部ヲ占ムルモノハ皆土地及其改良ニ關スルモノニ外ナラスト云フヘシ何トナレハ近時ニ至ル迄ハ土地ノ外ニ課稅スヘキ事物甚タ少カリシヲ以テナリ、

是ヲ以テ地租ハ近代諸國ノ法律上經濟上ニ於ケル常例ノ一部ヲ爲シ世人モ亦努メテ之ニ適合センコトヲ計ルニ至リタリ、

我共和國ノ祖先輩中ニモ其名ヲ知ラレタル佛國ノ學者余ハカナ

ト(Career)ヲ指ス曾テ謂ヘルコトアリ、曰ク「舊税ハ總テ良税ニシテ新税ハ總テ惡税ナリ」ト、若レ夫レ此誇張ヲ極メタル一語中果シテ一片ノ眞理アリトセハ是レ特ニ地租ニ對シテ適用スヘキモノナラン、

抑モ地價税ハ其變動比較的ニ渺ナク且ツ一定不動ノ事物トシテ之レヲ計算スルヲ得ルモノトセンカ、果シテ然ラハ地價税ハ土地料ノ性質ヲ帶フルモノトナルヘク、即チ取リモ直サス其土地ニ於ケル一部ノ公有權ハ社會ニ屬スルモノト云フヲ得ヘシ、例セハ茲ニ一農夫アリテ實價一萬弗ナル百エーカーノ土地ヲ購入セリトセンニ、該農夫ハ其購入代價ノ半額ノ外ハ直ニ之ヲ支拂フ能ハサルヲ以テ其殘額五千弗ニ對シテハ其土地ヲ抵當トシテ之ヲ負債トセリ、然ルニ彼ハ其租税ノ負擔ニ苦ミ頻リニ不平ヲ鳴セリ、然

レトモ彼若シ少シク熟考セハ其土地ニシテ曾テ課税セラレサルモ自己ニ取テハ更ニ利ナキヲ悟ルヘキナリ、何トナレハ若シ無税ノ場合ニ於テハ其土地一層高價ナルヘク、其負債モ五千弗ニ止ラスシテ或ハ七千弗トナリシヤモ知ル可ラサレハナリ、又余ハ近來一家屋ヲ購入セリ、初メ余ハ之ニ對シテ幾許ノ代金ヲ出スヘキヤヲ決スルニ當リ先ツ其家屋ニ課セラル、租税如何ヲ考察シタリ、若シ右家屋ニシテ租税ヲ賦課セラレサランニハ一層多額ノ代價ヲ請求セラレタルナルヘク、余モ亦喜テ相應ノ増金ヲ爲シタルナラン、夫レ然リ已ニ之ヲ購入シタル後余ハ右ノ土地ニ關シテ實際何等ノ負擔ヲモ爲シ居ルモノニ非ス、其地租ノ如キハ要スルニ只余ノ財産ニ於ケル政府ノ權利ニ對スル年々ノ支拂タルニ過キサルノミ、若シ其權利ニシテ解除セラレ、トアラハ是レ余ニ取リ

テハ一ノ贈遺ヲ受クルニ異ナラサルヘシ、勿論若シ右ノ税率ニシテ増加セラル、カ如キアテハ即チ是レ余ノ財産ニ於ケル政府ノ權利ノ増加ニシテ余ノ財産中ニ於テ政府ノ所有スル部分ノ價格騰貴シタルニ外ナラス、以上ニ述ヘタル原則ハ租税ノ性質不動永久ナルニ從ヒ愈々能ク之ヲ適用スルヲ得ヘシ、抑モ他種類ノ富即チ吾人ノ所謂動産ナルモノモ既往五十年間ニ於テ頗ル迅速ノ増加ヲ爲シタリ、去レトモ不動産ハ尙ホ且ツ財産全躰中ノ大部分ヲ占ムルモノナレハ租税制度ヲ編制スルニ當リテハ必ス先ツ地租ヲ以テ其基礎トナサ、ル可ラサルハ勿論ナリトス、而シテ農民モ宜シク是レ其所有ノ不動産ノミニニ關係スルニ非スレテ夫ノ手足ヲ勞セスレテ價格愈々騰貴スルノ傾向アル市府内ノ不動産モ亦同然ナルヲ記慮セサル可ラス、

以上ノ理由ノ外土地ハ有形物ニシテ其價格ヲ定ルテ殊ニ容易ナルノミナラス其位置永久ニシテ變動ナキモノナレハ課税ニハ特ニ適當ナル性質ヲ有スルモノトス、又以下ノ各理由ノ如キモ不動産税特ニ地租ニ對シテ舉ケラレタルモノナリ、即チ第一ノ理由ハ凡ツ土地ハ公安ノ保持ト公共工事トノ結果ニ由リテ益、其價格ノ増加ヲ來スモノニシテ租税ハ主トシテ是等二種ノ目的ニ供セラレ、モノナリト云フニ在リ、此事タル我米國ノ諸市ニ於テ土地所有者ノ請願ニ應シテ費用ヲ投シテ諸改良工事ヲ起シ爲メニ困難ヲ生シタル場合ニ徴シテ其然ルヲ知ルヘシ、是等ノ工事タル世人ノ想像セルカ如ク決シテ囊中無一物ナル無賴漢ノ企望ニ出テタルモノニ非サルナリ、近來ハツフアロー府ニ於テモ其一例アリタリ、即チ同府ニ於テ不動産所有者ノ主唱ニ由リ勞働者中ノ一部分カ

抗言シタルニ拘ラス巨額ノ經費ヲ諸工事ニ費消シタリ第二ノ理由ハ凡ソ土地所有權ハ社會カ曾テ其共有財産タリシモノヲ各人ニ附與セルヨリ起リタルニ外ナラサルヲ以テ地租ハ則チ其附與セラレタル權利ニ對シ社會ニ呈スル報酬ト見做スヘキモノナリト云フニ在リ、

抑モ投機ノ目的ヲ以テ所有セル不動産ノ如キハ特ニ法律ニ依リ租税査定官ヲシテ寸毫モ假借スル所ナク嚴ニ其眞價格ヲ査定セシメサル可ラス、余カ租税研究ノ際ニ觀察シタル所ヲ以テスレハ、諸所ニ於テ單ニ地價騰貴ノ機ヲ待タンカ爲ニ所有セル土地、若シクハ全ク使用セサル土地、或ハ之ヲ使用スルモ市内地ヲ牧牛用ニ供スルカ如キ自然ニ反セル或種ノ目的ニ供シタル土地ニ對シテハ之ヲ査定スルニ當リテ其價格ヲ低減スルノ一種普通ナル不正

ノ處置アルカ如シ、即チ右等ノ如キ土地ハ實際往々耕地トシテ其價格ヲ査定スルナリ、夫レ斯クノ如クシテ是等ノ土地ヲ有スル人々ハ一舉手一投足ノ勞ナク又間接ニ其市府ノ自然ノ發達ヲ害シナカラ自己ノ財産ハ日ニ益、其價格ノ増加スルヲ見ルニ至ル、而シテ是レ迄モ彼等自身ノ力ニ依ルニ非シテ全ク彼等カ同朋社會ノ勤儉ノ餘澤ニ基ツカサルハナシ、余ハクリーヴランド府ニ於テモ此種ノ大弊害存セリトノ報告ニ接セリ、又余ノ聞ク所ニ據レハチヨールヂヤ州サヴァナニ於テハ土地ノ査定價格ハ其土地ノ改良ト共ニ眞ニ増加シタリト云ヘリ、該市ニ於ケル土地ハ其賣買實價ノ六割ニテ査定セラル、カ如シ、然ルニ未タ改良ヲ加ヘサル土地ニ至テハ比較的僅少ノ割合ヲ以テ査定セラル、ナリ、是ヲ以テ其結果投機上ノ利便ヲ與フルニ至ルナリ、或士人ノ余ニ告ケタル處

ニ據レハ近來四千二百弗ヲ以テ賣買セラレタル四個ノ土地ハ其
 査定價格僅ニ一千百弗ニ過キサリシト云フ、又該士人カ改良ヲ加
 ヘタル土地ニ接セル一地ハ其査定價格僅ニ一千三百弗ナルモ三
 千五百弗以上ニ非サレハ之ヲ購買スル能ハスト云ヘリ、右ノ士人
 ハ九百弗ニテ該市内ニ於ケル一個ノ土地ヲ購入シタルニ暫時ニ
 シテ其課稅價格一千五百弗ニ増加セラレ、又右ノ土地ニ家屋ヲ建
 ツルヤ直ニ一千九百弗ニ増加セラレタリト云ヘリ、斯クノ如キ處
 置ハ自然ニ土地改良ヲ妨害スルニ至ルカ如シ、農夫ニ課稅價格
 ノ増加ヲ恐レテ耕地及家屋ノ改良ニ從事セサルノ例證ハ其報道
 ニ接スルニ實ニ尠シトセサルナリ、是ヲ以テ租稅ヲ實施スルニ當
 リテハ必スヤ恰モ改良ニ對スル罰金タルカ如ク又ハ事業振起ノ
 妨害物タルカ如キノ觀アラシム可カラサルナリ、夫ノ土地新改良

ニハ三ヶ年間租稅ヲ免除スルカ如キ已ニ前例ナキニ非ス、二年若
 シクハ三年間即チ改良ヲ加ヘタル當初ヨリ第三回ノ徵稅期ニ至
 ルノ間之ヲ免稅トスルノ一策ハ宜シク採用スヘキモノナルヲ
 獎說セサルヲ得ス、

第三章 不動産ノ州税免除

不動産ノ州税免除ニ對スル行政上ノ理由

余ノ租税策中ニ於ケル第二ノ要點ハ不動産ヲシテ悉ク州税ヲ免
レシムルト是ナリ、此免税ニ對シテハ種々ナル確實ノ理由アリ、而
シテ是等ノ理由タルメーリーランド州ト同一般ノ地位ニ立テル
諸州郡ノ實驗ニ基クモノナリ、
吾人ハ先ツ第一ニ各所ニ於テ州用ノ爲ニ不動産ノ實價ヲ査定ス
ルニ當リ之ニ伴隨スル諸困難ヲ觀察セサル可ラス、其土地ノ範圍
ハ頗ル廣漠タレハ固ヨリ一局ノ査定官ヲ以テ悉ク之ヲ査定シ了
ル能ハス、去レハ更ニ各地方吏員ニ委任シテ之ヲ査定セシメサル
ヲ得サルヘシ、其結果早晚各地ノ吏員間ニ競争起リ各吏員競テ其
部内ニ於ケル不動産ノ價格ヲ低減シ以テ其地方ノ州税負擔ヲ輕

減シ、他地方ヲシテ一層多額ノ負擔ヲ爲サシメントテ計ルニ至ルヘシ、夫レ斯クノ如キ競争ハ只不公不正ノ結果ヲ生スルヨリ外ナシ、何トナレハ州内ノ一地方ニ於ケル不動産ハ其他地方ニ比シニ二倍、三倍乃至四倍ノ價格ヲ以テ査定セラレ、カ如キコトアル可ケレハナリ、此事ニ關スルオハヨク州ノ例證ハ已ニ參照シタリ、余ハ實ニ我合衆國中右ノ如キ不公平ノ弊害ヲ見サル州アルコトヲ知ラサルナリ、若シ夫レメーリーランド租税調査委員會譯者云ク著者イリーモ右委員ノ一人ナリキ)ノ一部ノ委員カ主張セル如ク是等ノ不公平ハ敢テ意アリテ爲セルモノ、即チ故意貪慾ノ結果ニ非ストノ意見彼等ノ意見ハ或ハ余ヨリモ着實ナラン)ニシテ果シテ全ク誤謬ナレトスルモ、其不公平ノ事實ハ此故ヲ以テ消滅シ去ルモノニ非ス又若シメーリーランド州ニシテ他州ニ於テ實行セル方

法ニ違フ以上ハ其覆轍ニ陷ルヲ免レンコトヲ想像シ得ヘキ理由アルヲ見サルナリ、

抑モ此弊害ヲ矯正セントスルノ方案ハ往々提出セラレタリ、其得意ノ一策ハ各郡ニ於ケル評價ヲ増減修正スルノ權限ヲ有スル地價平均局ヲ設クルニ在リ、顧フニニューヨーク州ニ存セル地價平均局ハ其組織最モ完整セルモノナラン、右局員中ノ三名ハ則チ巡廻州税査定官ニシテ親シク實況ヲ觀察シテ其正鵠ニ達シ以テ各郡ヲシテ其適當ナル租税ヲ分擔セシムルヲ努ムルモノトス、去レトモ要スルニ地價平均局ノ如キハ其最モ完整セルモノト雖モ頗ル拙手段タルヲ免レス、到底満足ニ其事務ヲ舉行スルヲ得サルナリ、右ノ如キ局ニ於テ爲シ得ヘキモノ、上乘ハ唯夫レ巧妙ナル空中ノ樓閣ナランノミ、何トナレハ其事業ノ如キハ到底人力ノ及フ所

ニ非サレハナリ、然リト雖モ事實上ヨリ之ヲ觀察スルニ一郡内ニ於ケル大小各種ノ不動産ヲ一々評價スルハ其困難比較的ニ尠少ナリトス、又若シ適當ナル行政機關已ニ存在シ少クモ三年毎ニ一回新評價ヲ行フヲ得ルトスレハ道理上殆ント均一ナル割合ヲ以テ其價格ヲ査定シ以テ之ニ課税シ得サルノ理ナキナリ、此點ニ關シ郡ト州トノ差別自ラ明瞭ナルヘシ、一郡内ニ於テ其不動産全躰ヲ評價スルニ當リテハ之ヲ一監督ノ下ニ歸セシムルヲ得ヘク、各査定官ハ屢々其長官ノ事務所ニ會合シテ其方法結果等ヲ協議シ、又納税者ヲ以テ査定官會ニ訴フ可キ權利ヲ有セシメ、或ハ場合ニ由リテハ上告ヲ爲スノ權利ヲモ許シ以テ悉ク殆ト同一ノ割合ヲ以テ各不動産ヲ査定スルヲ得ヘシ、即チ郡内一部ノ財産ニシテ其實價ノ五割ヲ以

テ査定セラル、時ハ同郡内ニ於ケル不動産ハ皆同シク其實價ノ五割ヲ以テ査定スヘキナリ、抑モ其適當ナル唯一ノ方法ハ只市場ニ於ケル不動産ノ賣買實價ヲ基礎トシテ査定スルニ在ルノミ、其賣買實價タル固ヨリ強制的ナル可カス、去レモ若シ一部ノ財産ニシテ其實價以下ヲ以テ査定セラル、カ如キコトアラハ其他ノ財産モ悉ク皆同一ノ割合ニ依リ實價以下ノ査定ヲ受ケレメサル可ラス、而シテ不動産ニ對スル州税ナキ限リハ其差違比較的ニ少クナル可シ、若シ夫レ査定價格ニシテ低下ナシランニハ税率ハ之ニ應シテ高騰セサルヲ得ス、之ニ反シテ若シ査定價格高價ナルトキハ其税率ハ之ヲ低減スヘシ、即チ千八百三十六年ニボルチモール府ニ於テ現ニ起リタル場合ノ如キ是ナリ、同年該府ノ財産全躰ノ査定價格三百七十八萬七千七百六十二弗ヨリ四千二百九十三萬一千

九百六十弗ニ増加スルヤ、其稅率ハ百弗ニ付キ四弗七十七仙六分ノ五ノ割合ヨリ六十六仙六分ノ五ノ割合ニ減セラル、ニ至リタ夫ノ地價平均局ニ對スル幾多ノ大困難ノ如キハ不動産ノ州稅ヲ廢止スルトキハ忽チ自ラ消散スヘク、又不動産ニ對スル負擔モ之カ爲ニ輕減セラルヘキナリ、

州歲入ノ財源ト地方歲入ノ財源トヲ分離スヘキ他ノ理由

以上論レ來リタル理由ノ外州歲入ノ財源ト地方歲入ノ財源トヲ分離レ而レテ不動産ハ獨リ地方歲入ノ目的ニ供セシムルヲ得策トスル所以ノモノ他ナレ、即チ地方諸政治區ノ經費ハ州政府ノ經費ニ比レ其増加ノ勢一層迅速ナルヲ以テナリ、吾人ハ近來中央集

權ノ說ヲ喋々スル者アルヲ聞ケリ、蓋レ一二ノ人士カ確然タル定見モナク漫リニ斯クノ如キ驚聲ヲ發スルヤ多數ノ人々ハ何等ノ思慮モナク忽チ附和雷同スルモノニレテ、恰モ是レ夫ノ群羊カ其先導者タル懸鈴羊ノ何事モナキニ驚クヲ見テ忽チ將ニ害惡ノ來ラントスルカ如ク奔躍スルニ異ナラス、

抑モ其眞義タル要スルニ諸州内ノ地方政治區ノ事務ハ年々其州ノ事務ヨリモ一層迅速ニ増加レ來ルヲ以テ、是等ノ事務ヲ處理スルカ爲メニ地方費ハ自然ニ州費ニ比レ一層迅速ニ増加セリト云フニ外ナラス、即チ市街ノ鋪石及街燈ハ從前ヨリモ改良セサルヲ得ス、慈善事業ハ愈々擴張セラレタリ、種々ノ權力ヲ有スル衛生局ヲ設ケテ疾病ヲ豫防スルノ手段ノ如キ、其他衛生上ニ於ケル諸市ノ計畫ノ如キ、其現狀ヨリ察スルニ稍新事業ニ屬セリ、公園ノ設置

其他清潔飾美ノ諸事業ノ如キ巨額ノ費用ヲ要セサルハナク、又多費ナル我無謝儀小學教育制度ノ創始ノ如キモ亦今人ノ記憶スル所ナラン、夫レ斯クノ如クニシテ從來市民カ各自ニ負擔シタル事項モ多クハ市自治躰ノ管掌スル所トナレリ、獨逸ノ古諺ニ謂ヘルアリ曰ク、人々各其門前ヲ掃除セヨト、去レトスル煩累ナル古代ノ市街掃除法ハ今日殆ント到ル處ニ於テ廢止セラレ、市街ハ市府ニ於テ之ヲ掃除セリ、然ルニホルチモール市ニ於テハ舊習尙存セリ、同市ニ於テハ各人ヲシテ市街ノ路側ヨリ其中路ニ至ル間ヲ掃除セシメ其家屋ノ前面ナル街路ニ撒水セシム、是レカ爲ニ往々一個ノ奴隸ヲ要スルコトアリテ近來ノ新方法ニ比スレハ其勞力ヲ費スコト蓋シ二十倍ニ達セリ、又路側ノ雪掃除ノ如キモ亦他ノ一例ナリトス、然レトモ以上ニ述ヘタルカ如キ趨勢ハ特ニ或一國ニノミ

限ラス世界ニ普通ナルモノニシテ且ツ已ムヲ得サルモノトス、抑モ心ヲ事物ノ大躰ニ注クノ士カ右ノ如キ趨勢ノ永續ヲ豫期スル所以ノ理由固ヨリ舉ケテ數フ可ラス、一例ヲ舉ケンニ公立小學校費ノ如キハ非常ニ増加スルノ勢アルノミナラス非常ニ増加セサル可ラサルモノナリ、産業上ニ於ケル變動ノ爲ニ古風ノ徒弟仕組ハ將ニ廢絶ニ歸セントセリ、蓋シ是等ノ煩累ナル仕組ハ雇主及被雇者双方ニ取リテ實際上素ヨリ比較的ニ利益少キモノナリ、去レハ社會ノ多數者ハ愈々其立身ノ豫備ヲ小學校ニ望マサルヲ得サルニ至ルヘシ、世人多クハ選カラスシテ産業上ノ修練カ小學校ノ一科トナリ且ツ強制的ニ之ヲ受ケシメ、童男童女各有用ナル技藝ヲ習得スルノ時來ルヘキコトヲ想望セリ、若シ斯クノ如キニ至ラハ結局其利益ハ甚タ大ナルヘシ、何トナレハ一國ノ眞富ハ是等ノ

男女ノ中ニ存スルニ外ナラサレハナリ、夫ノボストンノ如キ一市ノ富裕ナル所以ノモノ其公立小學校ニ對スル巨額ノ費用ト相關係スル所少カラサルハ何人モ之ヲ疑ハサルヘシ、我國人民ニシテ能ク此理ヲ解セハ夫ノ小學教員ノ現時ニ於ケル憐ムヘキ少額ノ俸給ヲ増加シ、教員ノ業ヲシテ諸職業ト同等ノ位地ニ立タシメ以テ小學校ノ便益ヲ擴張スルコトヲ望ムニ至ルヘキナリ、去レハメリーランド州ニ於テ今日吾人カ小學校ノ爲メニ消費スル金額ハ須ラク之ヲ二倍ニ増加ス可ク、斯クノ如クセハ結局メリーランド州ノ税源タルヘキ富財ヘ之カ爲メニ間接ニ増加シ其經費ハ最モ利益アル者トナルヘント論スルモ謬ナキニ庶幾ランカ、蓋シ政府ノ費用ノ増加ハ其職務ノ増加ヲ示スヘキ好尺度ナル可シ、然ルニ戰爭アリタルカ爲メニ我合衆國經費ヲシテ頗ル複雑ナ

ラシメタリ、去レハ若シ政府ノ職務ノ増加如何ヲ計ラント欲セハ或一時ニ於ケル其政費全額ト他ノ一時ニ於ケル同費全額トヲ比較スルヨリモ寧ロ或一時期ニ於ケル經常費全額ト他ノ一時期ニ於ケル同費全額トヲ比較スルヲ得策トスルナリ、今ヤ二三ノ統計表ヲ擧ケテ讀者ニ示サハ以上説キ來レル世界ニ亘レル新趨勢ノ性質自ラ躍如タラン、世界中ノ大市ニシテ其行政ノ最モ整備セル處ハ伯林府ナリトハ世人ノ能ク口ニスル所ニシテ願フニ其行政ノ確實ナル未タ曾テ一點ノ疑訝ヲ受ケタルコトナカラシ、然リト雖モ千八百六十一年ヨリ千八百七十六年ニ至ルノ間其人口ノ増加二倍ニ過キサルニ其經費ノ増加ハ四倍ニ及ヘリ、巴里府ノ經費ハ千七百九十九年ニ於テハ七百五十萬フランクナリシモ千八百八十三年ニ於テハ二億五千三百六十六萬三千三百

四十「フレンク」ニ増加シ、而シテ其人頭割額ハ六倍以上ニ昇レリ、
 一「デン國」ノ經費ハ千八百六十年ヨリ千八百七十一年ニ至ルノ間
 ニ殆ント四割一分ノ増加ヲ爲シタルニ「グマインテン」(市)ト稱スル地
 方政治區ノ經費ハ八割一分ノ増加ヲ爲セリ、普魯西ニ於テハ其中
 中央政府經費ハ千八百四十九年ヨリ千八百六十七年ニ至ルノ間ニ
 二割五分強ノ増加ヲ爲シタルニ過キサ、ルモ其地方政治區ノ經費
 ハ一倍ト三割以上ノ増加ヲ爲セリ、是等ノ例證ハ舉ケテ數フ可カ
 ラサルモ其必要ナキヲ以テ茲ニ喋々セス、合衆國ニ於テハ政治ノ
 兩端即チ地方政治區ト合衆國政府トノ二者共ニ益々重大ヲ加フ
 ルト同時ニ州政府ハ其勢力稍々萎微スルノ感アリ、ニ「ニューヨーク」
 州ニ於テハ千八百六十二年ヨリ千八百六十六年ニ至ルノ間ニ州
 税ハ十六割八分増加シ、郡税ハ二十割八分増加シ、而シテ市府税ハ

三十五割増加シタリ、

次表ニ於テ合衆國ノ中央政府費、州費及地方費ノ増加ニ關スルニ
 三ノ事實ヲ示セリ、二三ノ場合ニ於テ或一州ノ豫算上ニ於ケル費
 用ノ項目ハ前後各時期ニ通シテ常ニ同一ナリシヤ否ヤヲ明カニ
 スル能ハサリキ、去レトモ努メテ其分析上ニ意ヲ注キタレハ想フ
 ニ其結果殆ント正鵠ニ近カルヘシ、又之ニ據リテ見ルニ大躰上比
 較的增加ヲ示セリ、若シ此表中ニ誤謬アリトスレハ是レ恐ラクハ
 後年ノ豫算中ニ包含セルモノヲ初年ノ豫算中ヨリ除去シタル故
 ナラン、諸州ニ就テハ左表中ノ時期ニ於ケル報告ヲ蒐集シ得タル
 モノ、ミヲ掲ケタリ、又特ニ千八百二十八年、千八百四十四年、千八
 百六十年及千八百八十七年ヲ擇ヒタルハ他ノ年度ニ於テハ同一
 年間若シクハ同一年間ニ稍相近キ時期ニ對スル完全ノ報告ヲ得

不動産ノ州税免除

二百四十八

ル能ハサリニ由レリ、

合衆國政府費

年次	行政費	總費額(國債利子ヲ除ク)	經常總費額(國債利子ヲ含ム但シ國債設置買収費ヲ除ク)
一八二八年	三、六七六、〇五三	一三、二九六、〇四一	一六、三九四、八四二
一八四四年	五、六四五、一八四	二〇、六五〇、一〇八	二二、四八三、五六〇
一八六〇年	二七、九七七、九七八	六〇、〇五六、七五四	六三、二〇〇、八七五
一八八七年	八五、二六四、八二五	二二〇、一九〇、六〇三	二六七、九三二、一八〇

州費

州名	一八二八年	一八四四年	一八六〇年	一八八七年
州	一八二八年	一八四四年	一八六〇年	一八八七年
コンチカット	一四七、一一七	二〇八、九四七	七二三、八五五	一、五一一、六九七
チヨールヂヤ	一八六、九二九	二六七、七六四	一、一七九、一〇〇	四、四五三、二九三

メーイ	一三七、三五二	三六三、〇五八	三九四、〇〇八	一、二四五、〇一五
メーリーランド	二六八、八七二	六三五、五二四	一、三〇六、六四三	二、一二五、一一〇
マフサチユーセツツ	四四七、七六九	四六一、〇九七	一、三〇三、七八四	九、三一七、六〇九
ニュー、ハンブシ	八〇、八九〇	一三八、八五五	一八四、四四五	九五一、七八二
ヤイヤ				
ニューヨーク	一、九八八、八〇四	三、二〇〇、〇〇〇	一四、一四八、六六七	一五、八二九、一二五
ペンシルウエニヤ	三、一〇七、五五二	三、八八二、三九八	三、六三七、一四七	七、二六二、八〇五
ヴェルモント	五一、六八二	九〇、〇五四	二三〇、四八九	三八〇、六四六
ヴァーヂニヤ		一、五二六、三五八	四、二二二、五三一	二、六二六、七一三

以上ノ表ニ依リ千八百八十七年ニ於ケル費額ハ千八百二十八年ニ於ケル費額ヨリモ多キヲ殆ント左ノ如キ割合ナルヲ知ルヘシ、
合衆國政府行政費ハ 二十三倍
國債利子ヲ除ケル同上費ハ 十六倍

不動産ノ州税免除

二百四十九

合衆國政府總費ハ

十六倍

コンチカット州費ハ

十倍

デヨールヂヤ州費ハ

二十三倍

同州州債消却費ヲ控除セハ殆ント

八倍

メイン州費ハ

九倍

メーリーランド州費ハ

八倍

マツサチユーク州費ハ

二十一倍

ニューハンプンアイヤ州費ハ

十二倍

ニューヨーク州費ハ

八倍

ペンシルヴァニア州費ハ

二倍

ヴェルモント州費ハ

七倍

ヴァージニア州費ハ

二倍

即チ千八百八十七年ニ於ケル以上ノ諸州費總額ハ千八百二十八年ニ比シ殆ント十倍ナリトス、前表ニ舉ケタル費額中ニハ大抵州債費及學校費ヲモ包含センメタリト知ルヘシ、

諸州ノ通常費ハ州債費及學校費ヲ除クハ千八百四十年ヨリ千八百六十年ニ至ルノ間ニ於テ總躰上敢テ著シキ増加ナカリキ、何トナレハ或州ノ州費ハ千八百四十年ニ於テ殆ント二倍ニ増加シタルモ他ノ或州ニ於テハ却テ同一ノ比例ニテ減少シタルヲ以テナリ、蓋シ右等ノ年度ノ外ハ州費ノ數額ヲ明知シ得サルナリ、然レトモ現時ニ至ル間ト雖モ其増加比較的ニ少額ナリト稱セラレ、ナリ、

次表ハ第二篇第二章中ニ舉ケタル千七百九十六年ニ於ケル合衆國費及州費ノ比較ヲ示シ、同時ニ千八百八十七年ニ於ケル右等ノ

費額ヲ示シ、又同年ニ於ケル合衆國費ト全州費トノ比較ヲモ表記セリ、即チ左ノ如シ、

費目	一七九六年	一八八七年
合衆國費	五、七九〇、六五一	二六七、九三二、一八〇
特示セル諸州ノ政費	一、〇〇〇、〇〇〇	六五、〇〇〇、〇〇〇
合衆國費	五、七九〇、六五一	二六七、九三二、一八〇
全州費	一、〇〇〇、〇〇〇	一〇一、五三四、五二三

諸州總費額ハ千八百七十八年ヨリ千八百八十七年ニ至ルノ間ニ於テ二千五百四十六萬二千九百二十九弗(千八百七十八年ニ於ケル費額ハ七千六百七萬四千二百九十四弗ニシテ千八百八十七年ニハ一億百五十三萬四千五百二十三弗トナレリ)即チ殆ント三割三分

三厘餘ノ増加ヲ爲セリ、然ルニ合衆國政費ハ同年期間ニ六割ノ増加ヲ爲シ、國債利子ヲ除ケル合衆國費ハ六割増加シ、其總費額ハ一割三分ノ増加ヲナセリ、又右同年期間ニ於テ租稅徵收額ハ五千萬弗ヨリ六千五百萬弗ニ増加シタリ、

オハヨ一州ニ於ケル州稅ハ千八百二十六年ヨリ千八百八十六年ニ至ルノ間ニ於テ殆ント四十六倍ニ昇リ、其地方稅ハ百倍以上ニ増加シタルニモ關セス合衆國歲入ハ僅ニ十三倍ノ増加ヲ見タルニ過キサリキ、

ニユーヨーク州ニ於テハ千八百二十七年ヨリ千八百八十七年ニ至ルノ間ニ於テ其地方稅ハ十四倍ノ増加ヲ爲シタルニ州歲入總額ハ僅ニ七倍ノ増加ニ過サリキ、而シテ聯邦全歲入ハ同年期間ニ於テ大約十四倍ノ増加ヲナセリ、千八百四十六年ヨリ千八百八十

七年ニ至ルノ間ニ於テ市税、郡税、學校税ハ大約十三倍、州税ハ十四倍、合衆國税ハ大約十二倍ノ増加ヲナセリ、千八百六十八年ヨリ千八百八十七年ニ至ルノ間ニハ州税ハ大約半額ノ減少ヲ來シ、市税、郡税、及學校税ハ半額ノ増加ヲ爲シ、而シテ合衆國税ハ其減額極メテ尠少ナリキ、

千八百八十八年ニ於テメーリーランド州立法部ハ州税税率一弗ニ對シ一分ノ輕減ヲ行ヒ十八仙四分ノ三ヨリ十七仙四分ノ三ニ減少シタルニ、ホルチモール市會ノ豫算委員ハ千八百八十八年ニ於ケル市税税率一弗ニ對シ三十仙ノ増加若シクハ一弗六十仙ヨリ一弗九十仙ニ増加スルノ得策ナルヲ報告シタルカ如キ宜ク注目スヘキモノナリ、メーリーランド州ニ於テ財産税ヲ徵收スルハ其目的唯學校及公債費ニ供セントスルニ外ナラス、而シテ其公債

ノ如キハ次第ニ消滅ニ歸セントセリ、
左表ハ州吏、郡吏、及學區吏ノ徵收セル租税總計ノ比例ヲ示セリ、

地方別	州	郡	市	學區	總計
合衆國	一六・六六	二二・二五	四八・六〇	一一・四九	一〇〇
ニュー・イングランド諸州	一〇・一一	四・九九	八二・六八	二・二二	一〇〇
中部諸州	一一・八一	一四・六四	六二・四七	一一・〇八	一〇〇
南部諸州	三六・六一	三五・五八	二四・九二	二・八九	一〇〇
西部諸州	一六・六八	二九・一一	三四・三五	一九・八六	一〇〇
諸「テリトリ」	二三・四〇	六五・二九	五・三三	五・九八	一〇〇

是ニ由リテ之レヲ觀レハ合衆國各部中其州ノ成立古クシテ其發達ノ度高キ處ニ從ヒ其州費ハ比較的ニ最少ニシテ其地方費ハ比

較的ニ最多ナルト明白ナリ、去レハ將來ニ於テ次第ニ發達完備セ
 レムルノ目的ヲ以テ道理ニ適セル租税制度ヲ組織スルハ主トシ
 テ地方政治區ニ對シテ最モ必要ナルト固ヨリ深ク論辯セサルモ
 頗ル明白ナリト云ハサルヲ得ス、此故ニ余ハ是等ノ事實及ヒ既ニ
 陳述シタル自餘ノ事實ヲ考察シテ不動産ハ須ラク州税ヲ全免ス
 可キトヲ獎說スルモノナリ、余ノ判斷スル所ヲ以テスレハ此獎說
 タル最モ有爲ナル財政學者ノ論斷ト相符合スルノミナラス合衆
 國ニ於テ已ニ歴然タル大勢ニ適應スルモノナルヲ信スルナリ、
 アラウエーヤ、ペンシルヴェニア、及ヴェルモント等ノ諸州ニ於テハ毫モ不
 動産ニ州税ヲ課セス、之ト同時ニウヰスコネン州及同州ニ徵テ
 鐵道徵税法ヲ採用セル諸州ニ於テハ或ハ已ニ不動産ニ對スル州
 税ヲ免除シ或ハ近々ノ内ニ之ヲ免除セントヲ期セリ、

米國歲計案ノ如キハ幾多ノ錯雜ナル事情混入セルヲ以テ其意義
 ヲ解釋スルニ多少ノ困難ヲ覺ユルナリ、蓋シ我國前内亂南北戦争
 ハ實ニ異常ノ變事ニシテ今後再ヒ斯ノ如キ厄難ノ爲メニ國家ノ
 財政ヲ擾亂セラル、トナカルヘキハ吾人ノ或ハ期レ得ル所ナラ
 シ、夫レ已ニ一言シタルカ如ク余ノ見ル所ヲ以テスレハ中央政府
 ノ職務ノ増加ヲ測知スヘキ眞標準ハ其行政費ノ増減如何ニアリ、
 然ルニ夫ノ内亂戦争ハ獨リ我中央政府ノミナラス州及市ノ財政
 ヲモ亦著シク擾亂シタルモノトス、又從來漫リニ内部改良ノ事業
 ヲ急ニシテ爲メニ財政ノ紛亂ヲ來シタルコトアリ、去レトモ是レ
 等ノ困難タル通例只一時ニ過キサリシノミ、但シ或州ニ於ケル事
 業ニ至テハ一般ノ想像ニ反シ却テ世間ニ誇示スヘキモノナキニ
 非ス、ニユーヨーク州ニ於ケルイーリー運河ハ已ニ數倍ノ收利ア

リ、又チヨールチヤ州ニ於テハ其一鐵道ノ收入ヲ以テ其州費中ノ巨額ヲ支辨セリ、自餘ノ事實ハ已ニ之ヲ述ヘタリ、尙其他ノ事實ニ至テハ本著ノ第四編ニ於テ之ヲ知ルヘシ、然ルニ爾來州ノ事業經營ヘ一般ニ廢止セラレ、更ニ公事業ト私事業トヲ結合セル所謂混合法ナル者起レリ、此法タル實ニ公事業及私事業ノ最惡ナル諸點ヲ結合シテ其最良ナル諸點ハ多クハ之ヲ排除セルモノト云フヘシ、即チ我諸州及地方諸政治區并ニ中央政府ハ鐵道會社ニ對シテ補給金ヲ附與スルノ法ヲ採用セリ、而シテ其之ヲ附與スルヤ其私立會社ニ對スル適當ナル權利ヲ把握シ置カサルヲ以テ是レ必竟一種ノ贈與ニ異ナラス、^{*}是カ爲メ亦財政上ノ紛亂ヲ生シメ、^{*}リランド州ノ如キハ遂ニ其公債ヲ放棄スルニ至レリ、凡ツ是等ノ事實ハ深ク念頭ニ銘記シ置カサルヘカラサルモノナリ、夫レ然リ以

^{*}米國經濟協會
發行論文第二
卷第三號
一ムス若シ
道問題
ヲ省

上ノ如ク其狀態紛々錯々タルニモ拘ラス、尙一事實ノ明確爭フ可カラサルモノアリテ存セリ、即チ他ナシ、凡ツ地方政府ノ職務及ヒ經費カ中央政府ニ比シテ一層迅速ニ増加シ來ルハ世界一般ノ大勢ニシテ特ニ合衆國ニ於テハ其地方政府ニ於ケル増加ハ其州政府若シクハ中央政府ニ於ケルヨリモ更ニ一層迅速ナルコト是レナリ、蓋シ中央政府ノ職務ハ州政府ヨリモ一層迅速ニ増加シ州政府ハ將ニ比較的ニ其勢力ヲ失ハントスルノ狀アルカ如シ、州ノ初メテ創立セララル、ヤ其費用ハ一時迅速ニ増加スヘキニ次第ニ停滯不動トナリ或ハ却テ減少ノ實ヲ見ルニ至リキ、若シ夫レ更ニ良策ヲ施シテ其回復ヲ謀ラハ我諸州ヲシテ米國社會ニ於テ一層重要ノ地位ヲ占ムルニ至ラシムルヲ得ヘシ、是レ何レノ點ヨリ觀察スルモ大ニ望ムヘキ所ナリトス、^{*}然ルニ我諸州ハ已ニ其職務ノ大

^{*}ヘンリー、
アダムス

部分ヲ私立會社ニ委レ去リ、又其内部ノ事柄ニ就テモ合衆國諸官
衙ノ干涉ヲ受ケ、其勢力微弱ニシテ威嚴ナク、愛國者ノ徒カ立テ公務
ニ盡レ以テ功勳ヲ擧ケ名譽ヲ博スルノ地タルニ適セサルニ至レ
リ、之ニ反シテ私立會社ノ如キハ蓋シ才能アル者ノ最モ熱望スル
處ニシテ中央政府ノ公務モ亦全ク誘引力ナキニ非ス、之ト同時ニ
一大市ノ市長ノ地位ハ遠カラステ米國一州ノ知事ヨリモ一層
羨望スヘキモノトナルニ至ルヤ未タ知ル可ラサルナリ、州ノ地位
モ亦墜落セル哉、

現時ニ於テハ我諸州ハ社會ニ對シテ偉功ヲ立ツル能ハサルト同
時ニ種々ノ弊害ヲ有セリ、特ニ其地方事務ニ於ケル有害ナル干涉
ノ如キ最モ然リトナス、今日地方政府ハ吾等一個人ト同シテ法律
明文ノ許ス所ノ外ハ其自由ニ行ヒ得ヘキモノ極メテ少シ、吾人ハ

今日地方自治ニ就テ嘆々スルモ財政上ニ關シテハ其自治ノ那邊
ニ存スルヤヲ知ラサルナリ、吾人ハ敢テ善治ノ名アル獨逸諸市ノ
有スルカ如キ地方自治權ヲ有セント欲スルニ非ス、吾人カ以上ノ
說ヲ爲ス所以ノモノハ他ナシ、要スルニ州歳入ノ財源ト地方歳入
ノ財源トヲ分離センムヘキ一理由ハ夫ノ地方事務ニ關シテ腐敗
ノ弊多キ州立法部ノ干涉ヲ制限シ以テ地方政府自治ノ範圍ヲ擴
張シ其獨立ヲ助長セントスルニ在リ、

第四章 社會ヲシテ州市ニ於ケル不動産價格

増加ノ利益ヲ享有セシムルノ方案

此事ニ關シテハサウアナ市ニ行ハル、一慣習ノ如キ以テ例證ト爲スヘシ、該市ハ其新開地ノ全部若シクハ其大部分ヲ市有ニ歸セシメタルニヨリ初メテ其擴張ヲ見ルニ至リタルカ如シ、是等ノ土地ヲ買收スルニハ皆「エーカー」ノ數ヲ以テシタリ、蓋シ之ヲ開墾シタル後ニ非サレハ小地區ニ分チテ賣買スルコト能ハサルヲ以テナリ、該市ハ右等ノ土地ヲ開墾シテ改良ヲ加ヘタル上更ニ之ヲ各小地區ニ分チ競賣ニ附シテ拂ヒ下ケタリ、該市ハ此方法ニ依リテ利益セルト多ク其結果自ラ納稅者ノ便益ニ歸セリ、而シテ曩キニ是等ノ各小地區ヲ拂ヒ下ルヤ直ニ其代價ヲ納メシムルニ非スレテ唯其競定價額ニ對スル利子ヲ納メシムルニアリキ、即チ換言ス

レハ同市ニ對スル一定不變ノ借地料ヲ確定シ置キ再ヒ其土地ヲ買收スルヲ得ヘキモノトシタルナリ、久レキ以前ニ拂ヒ下ケラレタル土地中最モ價格アル地區ヲ所有スル者ハ今日一年二十弗乃至三十弗ノ借地料ヲ市會計庫ヘ支拂ヘリ、右ノ方案ニハ素ヨリ判然タル缺點アリ、若レ二十五年間ノ定期借地料ヲ定メ其期限盡クルトキハ之ヲ修正シ、若レクハ更ニ是等ノ地區ヲ競賣ニ附スルノ權力ヲ市ニ保存シ置キ其購買者ニハ既成ノ改良ニ應レテ鑑定代價ヲ出サシムルトト定ムルトキハ社會ヲシテ社會一般ノ勸勉儉約ニ淵源スル地價増加ノ利益ヲ享受セシムルヲ得ヘキナリ、此方案タル容易ニ實行シ得ヘキ者ナリ、若レ諸市ニ於テ當初ヨリ此方案ヲ適用シタリシナラニハ今日ニ於テ租稅徵收ノ必要ナカリシナルヘク、從テ商工業振作ノ一大動力ト

ナリシナラニ、蓋シ遊民ノ數ヲ減スルハ社會ノ利益ナリ、是ヲ以テ投機獲利ノ機會愈々尠キニ至ラハ人々皆舊時ノ如ク勸勉勞作以テ其生計ヲ立ツルニ至ルヘキナリ、此方案ノ詳細ハ容易ニ了解シ得ヘク、又之ヲ實行スルコト敢テ困難ニ非サルナリ、加奈陀ナルトロント市ハ諸建物ヲ建設シタル土地ヲ所有シ之ヨリ莫大ノ收入ヲ生セリ、千八百八十五年ニ於テ其市有財産ノ借地料ヨリ生シタル額五萬六千三百六弗四仙ニ達セリ、是レ實ニコロシヤ高等學校又ハ各私人間ニ於テ行ハル、方案ニシテ唯零碎ノ點ニ於テ多少ノ差異アルニ過キス、即ハチ概テ市内各小地區ヲハ二十五年前後ノ期限ヲ以テ貸付シ其期限盡クルトキハ其地主ハ更ニ新借地料ヲ定ムルヲ常トセリ、此際ニ當リ是

等ノ土地ニ加ヘタル諸改良物ノ所有者ハ更ニ新借地料ヲ支拂フテ次ノ期限ニ至ルマテ之ヲ持續スルカ若シクハ鑑定代價ヲ以テ之ヲ地主ニ譲リ渡スカ何レカ其一方ヲ撰擇スルヲ得ヘン去レトモ此方案ハ米國ノ市ニ於テ之ヲ實行スルニハ稍複雑ニ過クルノ恐レアリ、メーリーランド州ケント郡チエスターオン市ナル一高等學校ニ於テ採用スル方案ニ至テハ毫モ異議ヲ容ルヘキ點ナレ、其方案ニヨレハ土地ヲ對手人ニ貸付シ其期限謀クルニ及ンテ之ヲ競争ニ付スルナリ若シ其借地權ニシテ從前ノ借地者ニ落札スルトキハ其借地者ハ固ヨリ其土地ニ於ケル諸改良物ノ代價ヲ支拂フ等ノ勞ヲ要セス然ルニ若シ他人カ一層高價ノ競争價格ヲ附シテ其借地權ヲ得ルトキハ其人ハ更ラニ鑑定代價ヲ以テ其諸改良物ヲ買得セサル可カラズ若シ夫レ諸州市ニ於テ此方案ヲ採

用センカ其諸改良物ノ價格ヲ決定スルハ双方對手人ノ間ニ於テスヘク從テ詐欺ノ行ハル、機會ナク其簡易ナル之ニ若クモノナカルヘレ又此場合ニ於テハ他ノ方案ニ依ルヨリモ更ニ一層其諸改良ヲ振起セシムルニ至ルヘキナリ我ボルチモール市ニ於テハ私人間ニ行ハル、一種ノ借地料法アリ其結果貧民ニ至ル迄家屋ノ建築及ヒ其所有ヲ獎勵シタルニ至テハ他ニ比類ナント稱セリ、即チ他ナレ其土地ハ之ヲ購買センメスシテ唯其使用ニ對シ常ニ或一定ノ額ヲ支拂フヘキヲ約センムルニアリ是レ一種ノ遊惰ナル階級ヲ生シテ人々ヲシテ優々產業ノ外ニ逸出セシムルモノナリ是ヲ以テ其利益ノ如キハ論争ノ點タルヲ免カレス去レトモ若シ右借地料法ノ利益ニシテ全ク同市ニ歸スルニ至ラハ之ニ對スル種々ノ異論モ殆ント其跡ヲ絶ツヘキナリ此方案ニ依レハ家

屋ヲ建ツルニ其土地ヲ購買スルヲ要セサルヲ以テ一家ヲ設クル甚タ容易ナリ、又其借地料ノ如キモ質入抵當トハ同シカラス、何トナレハ其土地ニ於ケル諸改良物ノ所有主ハ借地料ノ支拂ヲ怠ラサル限リハ決シテ故障ヲ受クルコトナケレハナリ、論シテ茲ニ至リ須ラク獎說スヘキハ諸州市共ニ以上ノ說示ヲ等閑視セサランコト是ナリ、又立法部ニ於テ法律ヲ制定シ若シクハ憲法上ノ條章ヲ設ケテ未タ市ノ所有ニ屬セサル土地ヲ通過スル新街路ヲ開ク可ラストノ規定ヲ設ケンコトヲ獎說セサルヲ得ス、而シテ右等ノ土地ハ耕地トシテ市ニ買收シ置キ、需要ノ生スルニ從ヒ競争ニ付シ二十五年間ノ期限ヲ以テ貸付シ、其期限ノ盡クルニ及シテ之ヲ解除スルコトナシ、若シ他人新ニ之ヲ借用スルニ至レハ鑑定代價ヲ以テ其土地ニ加ヘタル諸改良物ヲ購買セシムルノ規定ヲ設ク可キナリ、

テキサス、ネブラスカ等ノ如キ諸州ノ所有スル耕地ノ如キモ同様ニ之ヲ處分スルヲ可トス、又之ヨリ生スル收入ハ宜シク最モ廣キ意義ノ教育即チ技藝、文學、勞作、體育及其他ヲ包含スル教育上ノ目的ニ充用スヘキナリ、ネブラスカ州ニテハ學校所屬地ヲ貸付シ、一「エーカー」七弗ノ價格ヲ有スルニ至レハ之ヲ賣却スルナリ、抑モ茲ニ略叙シタル方案ハ頗ル善良ナルモノトス、若シ西部諸州ニシテ此方法ニ依頼セハ納稅者ヲシテ費用ヲ出サシムルノ煩勞ナク世界未曾有ナル教育上ノ好便宜ヲ受クルナラン、其社會上產業上ニ及ホス影響ニ至テモ亦最上乘ナルヘシ、抑モ土地小作人ナルモノハ常ニ之レ無カルヘカラス、然レトモ我西部諸州ニ於テハ外國人ニシテ地主タル者ノ數實ニ驚クヘキモノアリ、

蓋レ州ノ所有スル土地ハ州ニ於テ之レヲ監督スルヲ得ルカ故ニ、今日イリノイ州ヲ攪亂スルカ如キ弊害ハ固ヨリ之ヲ除去スルヲ得ヘレ、夫ノ一年期限ノ借地(即チ今日ニ於ケル借地中ニテ最良ナル頗ル短期ノ借地)ニ引換ヘ小作人ハ長期ノ借地ヲ得ヘク、從テ其之ニ加ヘタル諸改良費ヲ回收スルノ保證ヲ有スヘキナリ、經驗ニ徴スルニ是レ實ニ土地ヲシテ良耕地ヲラシムルノ法ナリ、英國ノ農民ハ概不皆其土地ヲ貸付シテ借地料ヲ收ム、然ルニ其耕作ノ佳良ナル英國ニ勝ル處アルヲ見サルナリ、夫レ西部諸州ニ於テ外國地主及ヒ不當借地料(Rack-rent)ノ弊害ヲ除クノ最良方法ハ外國人ノ所有スル土地ヲ買收シ而シテ之ヲ小作人ニ貸付スルニアリ、蓋レ斯クノ如キ方案ハ將來ニ於テ絶對的必要ヲ見ルコトアルヘキナリ、而シテ諸州市モ今後ハ其所有ニ屬スル土地ヲ賣却セサルヲ可

トス、又合衆國々會ニ對シテモ今後決シテ合衆國々有地ヲ賣却セサルヘキコトヲ勸告セサルヲ得ス、土地ノ公有ハ實ニ社會安全ノ一大關鍵ナリ、我公有財產ヲ舉ケテ悉ク之ヲ私有ニ移サントスルカ如キハ吾人ヲ以テ之ヲ觀レハ實ニ狂人ノ所爲ノミ、余ハ素ヨリ土地全部ヲ舉ケテ悉ク州市ノ所有ニ歸セシムルヲ得策ナリト云フニ非ス、然レトモ州市カ其一部分ヲ所有スルハ實ニ利アリト云ハサルヲ得サルナリ、

マッサチユーセツ州ハ曾テ今日ポストン府ノバックハイ區内ニ當ル一時洪水中ニ没セル百八「エーカー」餘ノ土地ヲ買收シタルコトアリタリ、而シテ更ニ其土地ヲ賣却シテ得タル利益ハ四百萬弗以上ナリ、然ルニ若シ余ノ既ニ説示シタルカ如ク此價值アル土地ヲ以テ借地トセシナラシムルニハ其結果節算スルモ一年二百萬餘弗ノ收

入ヲ生シタルナルヘク、即チ千八百八十六年ニ於ケル同州ノ直税額ヨリ多キト三分ノ一ニ昇リシナラン、
加奈陀ナルトロント市ニ於ケル諸役所ハ將ニ其位地ヲ他ニ轉移セントスルヲ以テ之カ爲メニ家屋等ノ建設ニ適當セル同市内ノ廣大ナル土地ハ公有ニ歸スルニ至ルヘキナリ、此土地ヲ處分スルニ就テハ已ニ獎說シタルカ如キ方案ヲ採用セントシテ希望スルナリ、或論者ノ說ノ如クトロント市カ方法如何ヲ問ハスレテ其土地ヲ私人ニ貸附シタルカ爲メ却テ其土地改良ヲ退步セシメタルカ如キ事實アリトセハ是レ其罪法律ノ缺點ニ歸ス可キモノニシテ固ヨリ容易ニ之ヲ改正スルヲ得ヘキナリ、然リト雖モ斯クノ如キ報告ハ最モ注意シテ受領セサル可ラス、何トナレハ公有財産ノ拂下ヲ受ケントスル者ノ私利心ヨリ往々斯ル報告ヲ作爲スルコト

アレハナリ、

第五章 自然獨占事業 (Natural monopoly)

自然獨占事業ノ定義及性質

近來自治市ノ經費次第ニ増加シ來ルニ際シ如何ニシテ之ニ應スヘキヤハ實ニ一大問題タリ、然レトモ天然ノ秘機自ラ明カニ所謂自然獨占事業ノ如キ必然ニ地方公有財産ヲ使用スル諸事業ヲ以テ之ニ充タルカ如シ、抑モ自然獨占事業ナルモノハ其固有ノ性質上應ニ獨占タルヘキ事業ナリトス、自然獨占事業ト雖モ或ハ夫ノ領地分配ノ場合ニ於テ其關係者カ連衡ノ約ヲ定メ若シクハ休戦ノ條件ヲ決スル前ニ當リテ互ニ相競争スルカ如キ場合ナキニ非サルモ自餘ノ諸事業ノ如ク着々不斷ノ競争ヲ受クルコトナキナリ、州、市及ヒ其他ノ地方政治區ノ關係セル自然獨占事業ノ主要ナルモノハ街路、橋梁、鐵道、運河、渡船、瓦斯事業、電燈事業、水道事業、港及市

内鐵道馬車等ナリトス、左ニ列記セル獨占事業ノ特質ハ本問題ニ關スル近來ノ一學者ノ論著中ヨリ引用シタルモノナリ、以テ其何故ニ獨占タラサルヲ得サルカヲ悟了スルニ足ラン、

- (一) 其事業カ供給スル事物ハ必要物ナル事、
- (二) 其事業ハ特別ニ好都合ノ地所若シクハ線路ヲ占ムル事、
- (三) 其事業カ供給スル物品若シクハ便利ハ之ヲ供給スル建物若シクハ器械ノ存スル場所ニ於テ、又ハ是等ト相連絡シテ使用セラル、モノナル事、
- (四) 其物品ト便利トハ無限ニハアラサルモ概シテ大ニ之ヲ増加スルヲ得ヘク、是ト同時ニ之ヲ供給スル建物及資本ハ比例的增加ヲ爲サ、ル事、
- (五) 事業ノ確實ト處務ノ整備トハ獨リ統一ニヨリテ之ヲ完フ

レ得ヘキモノニシテ是レ頗ル大ニ考察スヘキモノナリ、抑モ或種ノ營業カ自ラ獨占事業タル理由ノ如キハ更ニ他語ヲ以テ之ヲ解説スルヲ得シ、即チ其事業タル二三ノ人々別々ニ之ニ從事スルヨリモ一人ノ手ニ於テ之ニ當ルトキハ更ニ頗ル低廉ナル供給ヲ爲シ得ヘキコト是ナリ、今夫レ茲ニ二箇ノ瓦斯會社相對立シテ各百萬弗ノ資本ヲ以テ一市内ニ營業スルトキハ兩社ノ收入僅ニ其實費ヲ償フニ過キストセンカ、若シ此ニ社會併スルトキハ其資本ハ二倍スヘキモ其實費ハ減少スヘク、隨テ其結果利益ヲ見ルニ至ルヘキナリ、加之其供給代價ノ如キハ一層自在ニ之ヲ定ムルヲ得ヘシ、是ヲ以テホルチモ一市ニ於ケル瓦斯供給ノ事業ニ對シテ吾人カ百計ヲ盡スモ到底永久ノ競争ヲ爲ス能ハサル所以ノモノ實ニ偶然ニ非サルナリ、吾人ハ百千回之ヲ試ムルモ徒勞ニ

過キサルヘキナリ、自然獨占ナルモノ凡テ皆斯クノ如シ、故ニ此事實ヲ承認シテ之ニ應スルノ計ヲナスヲ最上ノ策ナリトス、

自然獨占事業ノ利益アル事

更ニ一步ヲ進テ論セシニ若シ所謂自然獨占事業ニシテ世間普通ノ獨占事業ニ反シ夫ノ街路等ノ如ク市ノ公用ニ供セラレ何人モ之ヲ專有スルコトナキヲ保セラル。ニ至ラハ其利益タル其市ノ興起スルト共ニ益々増進スヘキナリ、獨逸ニ於ケル伯林市ノ市有瓦斯事業ノ如キ即チ然リトス、其瓦斯ヲ供給スルヤ其代價一千ニ付キ一弗以下ニ過キサルモ頗ル有利ノ事業トナリ、同市廳ノ經費中ノ一割八分ハ其利益金ヲ以テ之ニ充ツルニ至レリ、米國諸市中ニモ多少同様ノ經驗ヲ有シタル處アリ、ヴァージニア州ノリッチモント市、ダンヴェル市及ウエストヴァージニア州ノホエーリング市

ノ如キ以テ其例トスヘシ、ホエーリング市ニ於テハ瓦斯一千ニ付キ九十仙ヲ以テ販賣シ以テ利益ヲ收メタリ、フレデリックヤ府ニテハ其瓦斯會社ニ關スル汚敗ノ弊害著シク人目ヲ惹キタルカ爲メニ其瓦斯問題ノ眞性質ハ却テ曖昧ノ間ニ埋没セララル、ニ至レリ、去レトモ其他ノ諸市ト雖モ私立會社カ政治上ニ及ホス汚敗ノ弊ニ至テハ實際果シテフレデリックヤニ及サルヤ否ヤ疑ナキヲ得ス、要スルニフレデリックヤ府人民カ其瓦斯會社ノ期限ノ盡クルト同時ニ瓦斯事業ヲ以テ公有事業トナスコトヲ決定シタルハ實ニ其當ヲ得タルモノナリ、前年間ニ該事業ヨリ生シタル利益ハ其豫期ニ超過スルコト一百萬弗ナリト云ヘリ、千八百八十七年ノ豫算上ニ於ケル同事業ノ收入額ハ殆ント三百萬弗ナリトス、余ハ是等ノ事實ヲ觀察シ種々勸告スヘキモノアリ、

勸告スヘキ諸件

余ハ茲ニ勸告セントス凡テ州立法部ハ今後州内何市ヲ問ハス瓦斯、用水、若シテハ電燈ヲ供給セントスル私立會社起ルモ其特許狀ノ付與ヲ拒絕シ、而シテ斯クノ如キ事業ハ常ニ公有事業ト爲サ、ル可ラスト、又更ニ勸告セントス諸市ハ宜シク好機會ノ起ルニ際シテ現在ノ私立瓦斯事業ヲ買上クルヲ努ムヘシト、然リト雖モ若シテ其特許狀ヲ付與スルカ如キ場合アルトキハ須ラク先ツ其期限ヲ定メ競賣ニ付シテ之ヲ賣却シ後段ニ説明セル如キ權利ヲ市ニ保握シ置カサル可カラス、

今日二三ノ市ニ於テハ直接ニ其市内鐵道馬車線ヲ管理セリ、去レトモ吾市ニ於テハ其時機未タ熟セサルナリ、余ハ勸告ス諸州立法部ハ宜シク略ホニニュー、ヨーク州ノ法律ニ倣ヒ、只少シク之ヲ修正

シテ社會公衆ヲシテ大ニ將來ニ於ケル價格自然ノ増加ノ利益ヲ享有セシムヘキ一法律ヲ發スヘキナリト、余ハ又勸告セントス市内鐵道馬車特許權ハ宜シク悉ク公然競賣ニ附シテ適當ニボルチモール、ブラデル、フヤ、ニユー、ヨーク及ボストン等ニ於ケル諸新聞ニ廣告シ、其期限ハ十五年間ト定メ其總收入中ヨリ最多額ノ割合ヲ上納スヘキ人ニ賣附スヘキナリト、其特許料ノ割合ハ決シテ純收入ヲ以テ定ム可ラス、何トナレハ斯ノ如キ場合ニ於テハ或ハ詐術ヲ弄シ其純收入ヲ最小額ニ止ムルニ至ルヲ以テナリ、其十五年間ノ期限盡クルトキハ市廳ヲシテ強制的ニ其事業ヲ買收シ得ヘキ權利ヲ保握シ置カレメサル可ラス、而シテ其會社所屬ノ土地、營造物及器械等ハ悉皆其事業上ニ於ケル狀態ト適否トヲ察シ市價ニ依リテ其代價ヲ仕拂フ可キノ約束ヲ豫シメ定メ置キ其強制的買收

或ハ將來ニ於ケル利益ノ見込等ニヨリテ買收代價ヲ附加スルカ
如キトアル可ラス、

若レ夫レ此時市カ直接ニ此營業權ヲ使用スルヲ欲セサルノ場合
ニ於テハ宜シク同様ノ條件ニ依リテ之ヲ公然競買ニ附シ之ヲ強
制的ニ拂下クヘシ、而シテ若シ前會社ニ非サル他ノ會社其購賣者
タルトキハ其會社ヲシテ市ノ買上ノ場合ト同シク鑑定價格ヲ以
テ悉皆前會社ノ財産ヲ買受ケシメ、且ツ從前ト同様ノ條件ヲ遵奉
セシメサル可ラス、此方法タル其特許權ノ實價ヲ決定スルモノニ
シテ其實價ハ當然ニ公共ノ有ニ歸スヘキモノナリ、何トナレハ其
特許權タルヤ必竟公共ノ力ニヨリテ存スルニ外ナラサレハナリ、
去レトモ此方法ト雖モ其營業上ニ投入シタル資金ニ對スル利益
ニ至テハ其市内鐵道馬車會社ノ有メラシムルモノナリ、要スルニ

*
フアーラー著
國家ト商業
トノ關係ニ九
十二頁

其特許權ノ實價ハ其線路ノ眞價如何ニ依リテ定マルモノニシテ
其眞價寡キトキハ公共ノ有ニ歸スヘキ價格モ亦寡ク其眞價多ク
レハ其價格モ亦多カルヘキナリ、

ニユー、オルリーンス並ニニユー、ヨークニ於テハ右ノ方法ト稍同
様ナル方案ヲ採用シタリ、其市内鐵道馬車線ヨリ生スル利益ノ非
常ニ鉅多ナルコトハニユー、ヨークニ於テ是等ノ特許權ヲ拂下クル
ニ毎年其營業總收入ノ三割五分乃至四割ヲ納メシムルノ約ヲ以
テシタルノ事實ヲ見テモ知ルヘキナリ、

ボルチモール市鐵道會社ノ特許狀ハ其期限千八百八十九年ヲ以
テ盡クルモノナリ、而シテ或有識ノ士ウ起草シタル同市ノ買收條
例ハ將來自然ニ増加シ來ル價格ハ之ヲ公共ノ享有ニ歸セシムヘ
キトヲ規定セリ、同條例中左ノ如キ條項アリ曰ク、

茲ニ左ノ規定ヲ設ク市長及ヒ市會ハ該命令書發表ノ時ヨリ十五ケ年ヲ經過シタル後二ケ年内ニ於テ公平正當ナル價格ヲ以テ該會社及其悉皆ノ財産并ニ前述ノ命令書ニヨリテ附與セラレタルカ若シクハ本條例ニヨリテ許容セラレタル悉皆ノ特許權ヲ買收スルノ特權ヲ有スヘシ若シ其價格ニ就テ不同意アル場合ニ於テハ前述ノ市長及市會ハ一人ノ代審者ヲ定ムヘク又其會社モ一人ノ代審者ヲ定メ其代價ニ就テ評議セシムヘシ尙不同意アルトキハ其代審者ハ更ニ一ノ審判者ヲ定メ前述ノ支拂代價ニ就テノ最終ノ裁決ヲ與ヘシムヘシ又更ニ左ノ規定ヲ設ク若シボルチモール市ノ市長及市會ニシテ前述ノ二ケ年内ニ右買收ヲ爲スヘキ意思ヲ該會社ニ通知スルヲ欲セサルカ若シノハ之ヲ怠慢ニ付レ去リタルトキハ該會社カ已ニ所有且ツ

享用レ來リタル特權ハ本條例ノ規定承認セル悉皆ノ規約及條件ニ遵ヒ最初ノ十五ケ年ヨリ更ニ十五ケ年間繼續シテ該會社ニ屬スヘシ又其後モ同様ニ前述ノ規約及條件ニ遵ヒ年々歳々之ヲ繼續スルヲ得ヘキナリト

說テ茲ニ至レハ其市長及市會ニ對シテ此條項ヲ遵奉スヘキヲヲ勸告セサルヲ得ス宜シク其特許權ヲハ前陳ノ條件ニ依リ十五ケ年ノ期限ヲ以テ最高入札者ニ拂下ク可キナリ

右ノ特許權ニ對スル特別稅ハ元來其營業總收入ノ二割ナリシモ漸時ニ無分別ナル立法者ノ爲メニ削減セラレテ其總收入ノ九分トナレリ是ト同時ニ平價(Par Value)二十五弗ノ株券ハ七十二弗乃至七十五弗ニ騰貴シ而シテ一割二分ノ利子配當ヲ爲スニ至レリ然リト雖モ聞ク所ニ據レハ實際一株ニ付キ十八弗以上ノ拂込未

濟金アリト云フヲ以テ其利子配當ノ割合ハ殆ント一割七分ナル
 へん、蓋シ其會社ノ隆昌ナルハ固ヨリ各人ノ喜フ所ナルモ公有財
 産タル公共街路ハ適當ノ報酬ナクシテ永ク其充用ヲ許容スヘキ
 ノ道理アラサルナリ、

余ノ思量スル所ヲ以テスルニ適當ニ廣告シテ其特許權ヲ公然競
 賣ニ附スルトキハ少ナクモ其營業總收入ノ二割五分ヲ收納シ得
 へん、即チ其金額丈ケボルチモ一市ノ商人等ヲシテ租稅ノ負擔
 ヲ免レシムルヲ得ヘキナリ、

右ノ方案ハ其道理ニ適スルノ點ニ於テモ又ハ其公正ナルノ點ニ
 於テモ夫ノ市内鐵道特許權ニ對シ其眞價如何ヲ問ハス悉ク同一
 ノ租稅ヲ課スル現今在來ノ方案ニ優ル一萬々ナリトス、即チ現今
 ノ方案ニ從フトハ諸會社ノ利害皆一途ニ歸スルヲ以テ租稅輕減

ニ付テハ皆一致共同ノ運動ヲ爲スヘク、往時租稅輕減ノ實効ヲ收
 ムルヲ得タルカ如キモ亦此方法ニ依リシニ外ナラサルナリ、其各
 特許權ハ一々之ヲ分離シテ別々ニ處置シ各其眞價ニ應シテ之ヲ
 拂ヒ下ケサル可ラス、果シテ然ラハ薄利ナル一線路ニシテ強大
 ナル一線路ヲ掩護シ其適當ノ租稅ヲ免レシムルカ如キ處ナカル
 へキナリ、

抑モ自然獨占事業ニ關シテ概論シタル以上ノ方案ニ就キ更ニ尙
 ホ一言スヘキコトアリ、即チ宜シク茲ニ觀察スヘキハ此方案タル敢
 テ市ニ強ユルニ特殊ノ管理法ヲ以テセサル一是ナリ、人民ハ時々
 刻々其最良ト決定スル方法ヲ行フニ於テ毫モ掣肘セラル、一ナ
 キナリ、人民若シ私人管理法ヲ採用スルヲ最得策ナリト感スル時
 ハ市ハ直チニ其方法ヲ行フヲ得へん、然レトモ又若シ自然獨占事

業中ノ或部分若シクハ其全部ヲ舉テ公共管理ニ屬セシムルヲ最利ナリト思慮スルトキハ其私有期限ノ盡クルト同時ニ之ヲ實行スルノ道アルヤ彰々タリトス、

自然獨占事業管理ノ方法常ニ二種アリ、一ハ佛蘭西法ニシテ公共監督ノ下ニ屬セル私人管理法ナリ、一ハ獨逸法又ハ英國法(英國ニ於テ益々盛ナラントス)即チ自然獨占事業ノ直接公共管理法ナリ、世ノ理論派ハ公共管理法ニ反對シテ私人管理法ニ若カスト説ケリ、然リト雖モ經驗ノ示ス所ヲ以テ之ヲ見ルニ彼等ノ説タル其根據トスル所皆空想ニシテ事實ニ非サルナリ、我合衆國及其他ノ諸國中瓦斯事業、水道事業、電燈事業ヲ公有ニ歸セシメタル都市幾百ナルヲ知ラス、然レトモ其公有ニ歸セシメタルノ結果ニシテ利益ナラザリレ例證ニ至テハ未タ嘗テ之アルヲ見サルナリ、

人或ハ曰ク吾人ハ我邦弊政ノ改革ヲ見ル迄ハ袖手ノ待タサル可ラスト、然リト雖モ苟モ所謂理論派ニ非サル以上ハ斯クノ如キ弊政ノ生スル所以ヲ聽カンテ望ムノ情ナクンハアラス、人若シ其事實ヲ檢索セハ即時ニ其汚敗ノ張本ハ自然獨占事業ノ管理ヲ以テ任セラレタル人々ニ在ルコト明白ナラン、人若シ更ニ進テボルチモール市ノ市廳ニ到ラハ其諸部ノ長タル者ニシテ市内諸鐵道ノ乗車券ヲ懷ニセルヲ發見スヘシ、是レ其汚敗ノ原因ニ非スレテ何ソヤ、若シ市廳ノ邊ヲ彷徨シ市參事會員ト相識トモナシハ少クモ一市内鐵道會社ノ社長カ彼等ノ爲メニ馭者馬丁等ヲ供レテ其恩顧ヲ表スルヲ知ルヘシ、然レトモ尙ホ此種ノ汚敗ノ弊ニ至テハボルチモール市ハ未タ他市ノ如ク甚シカラサルナリ、ボルチモール市民ハ決シテニユー、ヨーク市民及ボストン市民ノ如ク盜奪ノ

害ヲ蒙ラサルナリ、何トナレハ同市民ハ定期正税ノ外ニ街路用ノ爲メニ少ナクトモ市内鐵道馬車線總收入ノ九分ヲ領收スレハナリ、探究者若レ去リテアンナポリス市ニ至ラハ其立法部内ノ人ニレテ鐵道乘車券ヲ懷ニレテ鐵道ヨリ金錢ヲ利スル者アルヲ發見スヘシ、同市ノ鐵道會社ヲシテ其公平ナル租税ヲ負擔セシメントシタル一議案カ近時其立法部ヲ通過スル能ハサリシカ如キ豈ニ怪ムニ足ランヤ、人若レホストン市ヲ訪ハ、曾テ州立法部ノ議員トナリ同議員タル者ヲノ鐵道乘車券ノ贈與ヲ受クルヲ禁スルノ法令ヲ設ケンコトヲ試ミタルノ故ヲ以テ遂ニ合衆國會議場ニ登ル能ハサリレ尊敬スヘキ一偉人ノ芳名ヲ耳ニスヘシ、去リテ西部ノ一市ヲ訪ハンカ、其市會ノレバブリカン及デモクラチック兩黨議員ハ共ニ市内鐵道會社ヨリ撰出セラレ同社ノ勢力其兩黨ヲ左

右スルヲ知ラン、

然リト雖モ茲ニハ唯現行方法ノ不完全ナル例證トシテ余ノ知悉セル數事實ヲ掲クルヲ以テ足レリトス、或州ニ於ケル有力ナル政黨ハ最近ノ會議ニ於テ凡テ會社ヲシテ其公平ナル租税ヲ負擔セシム可キコトヲ要求セル一方針ヲ採用シタリキ、該黨派ハ固ク茲テ若レ多數ヲ占ムルノ場合ニ於テハ其已ニ採用シタル方針ニ從テ租税法ヲ改正セントセリ、當時會社ノ課税ナル語ハ其交戦ノ決勝點タリシナリ、已ニレテ該黨派ノ候補者大多數ヲ占メ會社課税ノ一議案立法部ニ提出セラル、ニ至レリ、而シテ此議案ハ合衆國ニ於ケル最モ有力ナル鐵道會社ノ一代辨者ト一大電信會社ノ代辨者トノ盡力ニヨリテ遂ニ廢棄セラレタリ、然ルニ豈ニ圖ランヤ是等二代辨者ノ一人ハ前述ノ有力ナル黨派ノ會議ニ於テ嘗テ議長

タリレ人ニレテ、他ノ一人ハ則チ夫ノ方針書ヲ起草シタル人ナラントハ、此事件ノ起リタル州名ハ茲ニ掲ケサレトモ何人ト雖モ政治ノ實際ニ通スルノ士ハ之ヲ推察シ得ヘシ、是レ實ニ單純ナル好適例ナリ、

其事實ニ至テハ到ル處同一ナリトス、又必ス然ラサルヲ得サルナリ、抑モ私立會社ヲ監督セントスルニ當リテヤ公私ノ利害自ラ相背馳シ、其結果汚敗ノ傾向遂ニ避ク可ラサルニ至ルモノトス、是ニ因テ之ヲ觀レハ事物ノ皮相ニ拘泥セル瑣々タル小略ヲ以テ我政治會社ヲ改良セント夢思スル人々ノ如キハ實ニ事理ノ根底ニ達セサルヲ遠キニ非スヤ、我政治改良ノ事業ノ如キハ公共ト自然獨占事業トノ關係上ニ於テ根本的大改革ヲ加フルニ非スレハ到底之ヲ實行スル能ハサルナリ、若レ夫レ今茲ニ一都府或ハ一小市一

小村ト雖モ、ニノ其用水供給若クハ瓦斯供給ヲ私立會社ニ委任シタリトセンカ、恐ルヘキ政弊ノ分子ハ即時ニ侵入シ來ルヘシ、凡ソ自助自立ノ道ヲ履踐シテ敢テ會社ニ依頼セサル市ハ其政治上ノ結果一層善良ナルノミナラス又一層純潔ナルヤ知ルヘキナリ、港及水堤ハ其性質上獨占事業ナルノ故ヲ以テ又ハ其歳入ヲ生スルノ故ニ依リ宜シク市有財産トナスヘキモノナリ、

屠獸場ハ法律上獨占業トシテ市有ニ屬スルモノニシテ最モ適當ナルモノトス、是レ容易ニ巨額ノ歳入ヲ生シ得ヘキモノナリ、市場ハ普通ニ市有ニ屬セリ、市場ノ市有ハ余ノ知ル所ヲ以テスレハ到ル處トシテ其便益ナルヲ證セサルハナク又歳入ノ一大財源タリキ、

諸州ハ能ク鐵道ヲ敷設シ適當ニ之ヲ管理スル能ハサルヘシ、何ト

ナレハ鐵道ナルモノハ其性質國家的ノモノニシテ充分満足ニ之ヲ處理シ得ヘキ唯一ノ權力ヲ有スルハ中央政府ニ外ナラサレハナリ、去レトモ鐵道ハ自然独占事業ナルヲ以テ諸州ニシテ其公有ノ財産及權利ノ保護ニ注意スルトキハ巨額ノ歳入ヲ收納シ得ヘキナリ、世或ハ説ヲ爲ス者アリ、曰ク諸市ハ宜シク一致シテ專制的同盟ヲ組織シ、各其諸鐵道ヲシテ同一ノ停車場ヲ使用セシメ以テ其地代ヲ納メシムヘシト、此事タル甚利便ナルヘキモ之ヲ實行スルニハ立法上ノ認許ヲ經サル可ラス、イリノイ州ニ於ケル實例ノ如キハ以テ好示針ト爲スヘシ、該州ハイリノイ中央鐵道ノ特許權ニ對シ其營業總收入ノ七分ヲ徵收スルコトシタリ、恰モボルチモール市カ其市内鐵道馬車線總收入ノ九分ヲ徵收シテ其市費ニ供シタルト異ナラス、斯クノ如キ處置ハ往時ニ於テ往々之ヲ行フヲ

得タリシモノナリ、而シテ今後ト雖モ其機會復タ起リ來ルヘシ、特ニテキザス及カリフォルニアノ如キ大州ニ於テ最モ然リトス、勿論唯其困難ナルハ通例鐵道會社カ立法部ヲ左右スルヲ以テ立法部ハ人民ヲ犠牲トシテ私立會社ノ利益ノ爲メニ特許權ヲ許容スルニ至ルコト是ナリ、

メーリーランド州政府ハ同州西部ノ石炭産出地方ナルカンバーランドヨリデストリクト、オフ、コロンビヤナルチヨールチタオンニ通スルチエサビーク及オハヨイ運河ノ主モナル所有主ナリトス、曾テ西部メーリーランド鐵道會社カ此運河ノ曳船道ニ沿フテ其軌路ヲ擴張スルニ付キ其一部分ヲ同鐵道會社ニ貸附ス可シトノ建議出テタリ、若シ此運河中右ノ部分若シクハ其他ノ部分ヲ放棄スルカ如キ場合アルニ於テハ宜シク之ヲ競賣ニ付シ其營業總

收入ノ割合高ノ上納ヲ期シテ之ヲ賣渡スヘキナリ、他州ニ於テモ亦同様ノ場合ヲ見ルコトアルヘシ、要スルニ其特許狀ハ常ニ之ヲ制限シ、而シテ鑑定價格ヲ以テ自然獨占事業ヲ買收シ得ヘキ權利ハ之レヲ州市ニ把握シ置カサル可カラサルナリ、

第六章 酒類釀造及販賣ニ課スル租稅

制限禁止法

我南部ノ諸州ニ於テハ酒類商賣ヲ制限セントスルノ說次第ニ勢カヲ増加シ來リ隨テ聲名威望アル人士ニシテ往々酒類商賣ヲ全ク禁止セント主張スル者アルニ至レリ、此說タルヤ社會ノ實狀ヨリ自然ニ湧出シ來リタルモノニシテ少ク實際ニ就テ觀察セハ夫ノ酒店ノ設アルカ爲メ國內ノ産業上及家政上ニ禍害ヲ醸スノミナラス政治上ニモ亦害毒ヲ及ホスノ事實ヲ認ムヘキナリ、輿論ハ素ヨリメリーランド州ノ如キ或州ノ全部ニ於ケル禁止ノ實行ヲ保セサルヘント雖モ酒類商賣ニ一ノ制限ヲ附スルハ今日ノ急務タルヤ明カナリ、

余ハメリーランド州ノ立法部ニ報告シタル書中ニ於テ酒類販

賣ニ關スルヲ述ヘテ左ノ如ク勸告シタルヲアリキ、曰ク

「酒類販賣所ノ數ハ宜シク自治市ニ於テハ人口二千毎ニ一箇所、自治市以外ノ郡部ニ於テハ人口一千五百毎ニ一箇所ヲ設置スルヲ制限シ以テ市及郡ヲハ酒類販賣區ニ分畫スヘシ、而シテ毎年一回其各區ニ於テ酒類販賣免許權ヲ競賣ニ附シ最高價ノ入札者ニ其權ヲ附與スルヲトナシ、且ツ日曜律及ヒ未丁年ノ幼者ニ酒類ヲ賣リタル者ニ關スル法律若シクハ其他公益ノ爲メ酒類取締法中ニ包含スヘキ條項ニ違反スル者ハ嚴罰ニ處スルヲトナシ以テ之カ取締ヲ嚴密ナラシムヘシト、

是レ豈ニ一己ノ私論ナランヤ、彼禁酒論者ハ既ニ其機關新聞紙上ニ於テ酒店ノ數減少スレハ酒類商賣モ亦隨テ減少スヘキヲ論スルノミナラス、他邦ニ於ケル實驗モ亦此事實ヲ證明スルモノ、

如シ果シテ然ラハ苟モ良民タル者皆奚ソ酒類商賣ヲ制限スルト同時ニ一大歲入ヲ生スヘキ此好法案ニ同意ヲ表スル能ハサルノ理アラシヤ、又市及郡ニ於ケル輿論ノ公票ニ依リテ酒類販賣ヲ禁止スルノ權ノ如キモ此法案ト相連合提携シ得ヘキノミナラス又正ニ連合提携セサル可ラサルナリ、

然レ此論者必ス云ハンスクノ如キ租稅法ニ依リテ酒類營業者ヨリ歲入ヲ徵收スルハ其結果其納稅者ヲ能ク其稅法ニ應スルノ策ヲナサシムルヲ以テ禁止ノ目的ヲ達スルハ爲メニ極メテ困難トナリ若クハ到底望ミ得可ラサルニ至ラント、是レ通常ノ高價免許稅法ニ反對スルモノニ外ナラス、然レ此制限禁止法ハ之ト大ニ其趣ヲ異ニセリ、蓋シ此法タル遠慮ナク酒類販賣所ノ數ヲ制限スルモノニ之ト共ニ酒類販賣規則ニ違背シタル者ハ其犯罪ノ

輕重如何ヲ論セス直チニ其免許權ヲ沒收スヘントノ條項ヲ實行スルコトヲ得ヘレ、而シテ或一區域内ニ於テ高價ニ買得レタル專賣權ヲ有スル者ハ自ラ其地方警察ノ助力者タルニ至ルヘレ、何トナレハ彼レ若シ其規則ノ嚴行ヲ幫助セサルトキハ他ノ無免許販賣者ノ爲メニ却テ自ラ倒産セサルヲ得サルニ至ルヘケレハナリ、此法案ハ毫モ夫ノ禁止策ニ反對スル者ニ非ラス、只酒類商賣ノ行ハル、所ニ於テハ其營業者ヲレテ公費ノ大部分ヲ負擔セシムヘキモノナルコトヲ主張スルノミ、而シテ政府費用ノ大部分ハ飲酒ニ基因スルコト多クナルヲ考察セハ是レ決シテ道理ナキニ非ラサル可レ、夫ノ專賣權ノ競賣ヨリ生スル大歳入アルカ爲メ自然ニ普通納稅者ノ負擔ヲ輕カラシムルヲ以テ其結果却テ或點マテ酒類商賣ヲ隆盛ナラシムルニ至ルヤ疑フヘカラストハ高價免許税法ニ反對

スル者ノ主張スル所ニシテ禁止策ノ全勝ヲ見ント欲スル論者ノ大ニ重キヲ置クモノナルヘレ、然リト雖モ制限禁止法カ占有スル他ノ便益ニ至リテハ優ニ此反對ヲ排スルニ足ルヘキナリ、何トナレハ此法タル酒類商賣ヲ宏大ナル販賣所ニ集合スルモノナルヲ以テ其商賣ヨリ生スル弊害ハ悉ク顯然公衆ノ前ニ露出スルニ至ルヘケレハナリ、抑モ私有獨占ノ如キハ有害惡ムヘキモノナリ、而シテ其弊害タルヤ夫ノ酒類醸造者及販賣者カ公費ノ巨額ヲ負擔シ以テ收得レ得ヘキ利益ヲ抹殺スルニ足ルモノトス、去レテ酒類醸造及販賣ノ全營業ヲ舉テ公衆ノ前ニ其利害ヲ明示スルモノ此方法ヲ除テ他ニ名案アルヲ見サルナリ、往昔歐洲大陸ニ於テ行ハレタル所ノ方法ハ専ラ酒店ノ數ヲ制限スルニ在リキ、而シテ酒類販賣所ヲ新設増加スルノ必要生スルニアラサレハ其免許權ヲ増加下附

スルヲ許サ、リキ、此方法ハ又往昔ニユー、イングランドニ行ハ
レタルモノナリ、左ニ掲クル引證ハ千六百七十七年九月マツサチ
ユーセツツ州スプリングフヰルドノ法庭ノ記録ニ載セタル所ナリ、
曰ク、

「我州ノ各市府ニ於テ正當ナル價格ヲ以テ酒類及其他ノ飲料品
ヲ販賣スルノ自由ヲ得ンコトヲ請願シタル者アルモ當法庭ハ
此請願ヲ許可スヘキノ理由アルヲ見ス、然レトモ當法庭ハ正當
ノ價格ヲ以テ酒類及其他ノ飲料品ヲ販賣スルヲ望ム旨ヲ通
常賣捌人ニ告示スルヲ命令スルモノナリ、若シ其命令ヲ違奉
セサル時ハ當法庭ハ更ニ他人ニ免許權ヲ與ヘテ之ヲ禁止スル
カ、若クハ他ノ方法ニ因リテ之ヲ禁壓スルノ策ヲ講スヘシ、
千六百七十五年ニ於ケル該法庭ノ布告ニ依レハ各人皆林檎酒及

強キ飲料品ヲ所藏スルヲ得タルカ如シト雖モ、正當ノ免許權ヲ
有スル正價發賣店ニ非サレハ家族ノ年長者ノ外ニハ何等ノ飲料
品ヲモ販賣スル能ハサルノ規定ナリキ、素ヨリ是等ノ偏頗ナル方
法ハ今日ニ行ハルヘキモノニ非ラサルヤ必セリ、夫ノ日耳曼國內
ニ於テハ民主主義ノ感勢ニ因リテ是等ノ舊法ヲ放棄スルノ止ム
可ラサルニ至リタリ、而シテ其免許權ヲ有スル者ノ増加レタル結
果如何ハ人民中醉狂ト困苦トニ陷ヰル者著シク増加レタルヲ以
テモ其一斑ヲ窺フニ足レリ、且ツ夫レ已ニ特權ヲ有スル少數ノ人
ニ特別ノ恩惠ヲ與フルハ不正ナリト云ハサルヲ得ス、去レトモ余
カ主張スル免許權公賣法ハ偏頗ノ方法ニ非ス、則チ此方法ニ因レ
ハ販賣免許權ハ最高價ナル入札者ノ手ニ落札スヘシ、是レ偏頗ノ
不利ヲ避ケテ舊制限法ノ利益ヲ擧クルヲ得ヘキモノナリ、

高價免許稅法

此稅法ニ依ルニ卸賣商ハ免許料トシテ各自二千弗ヲ納ムヘク、又營業稅トシテ其營業場ノ毎年ノ借地料ノ一割ヲ納ムヘキナリ、而シテ此附加營業稅ハ小賣商ニモ亦之ヲ賦課スルヲ得ヘキモノトス、

單ニ金錢上ノ標準ヨリ考フルニ高價免許稅ハ多額ノ歲入ヲ生スルモノナリ、若シ夫レ既ニ免許權ヲ下附スルノ可ナルヲ認ムル以上ハ馬ソ高價免許稅ノ非ナルノ理アラシヤ、郡部ニ於ケル免許料ハ五百弗ニシテ市府ニ於テハ一千弗ナリト雖モ未タ以テ高價ニ過クト云フヲ得ス、イリノイ州ノ如キハ其免許稅法ニ依リ悉ク地方各自治體ヲシテ少ナクモ五百弗ノ稅金ヲ賦課セシムルノミナラス隨意ニ多額ノ免許料ヲ徵集スルヲ許シ、甚レキハ全ク酒類

販賣ヲ禁壓スルヲ許セリ、獨リ麥酒販賣ニ課スヘキ免許料ハ百五十弗ヲ以テ其最低額ト爲セトモ地方各自治體ハ之ヲモ一般ニ五百弗ニ増額シタリ、故ニ酒店ノ數次第ニ減少シ一萬三千ヨリ九千ニ減シタリト雖モ、其免許料ヨリ生スル歲入ハ却テ増加シ七十萬弗ヨリ四百五十萬弗ノ巨額ニ昇リタリト云フ、

又ミズーリ州ニ於テハ最低額ノ免許料ハ五百五十弗ニシテ最高額ノ免許料ハ一千二百弗ナリトス、而シテ其免許料ヨリ生スル歲入ハ六十萬弗ヨリ二百萬弗ノ巨額ニ昇リタリ、

ミンガン州ニ於テハ其免許料ハ五百弗ニシテ一人ニテ卸賣及小賣ヲ兼ヌル者ノ免許料ハ八百弗ナリトス、ミンガン州郡部出納官ノ報告書ニ據レハ其免許料ヨリ生スル歲入ハ千八百八十五年ニ於テハ百六萬七千五百七十七仙ニシテ千八百八十六年ニ於テハ

百十八萬六千三百六十六弗九十五仙ナリキ、

ペンシルヴェニア州ハ一ノ新免許法ヲ設ケタリ、其方案ニ依レハ最大ノ諸市ニ於テハ其免許料五百弗ナリトス、而シテ飲料販賣商タラント欲スル者ハ二千弗ノ實價アル不動産ヲ所有スル二人ノ保證人ヲ有セサルヘカラス、是等ノ保證人ハ信任スヘキ公民ニシテ酒類製造業ニ従事スルヲ許サス、又一人ニシテ一人以上ノ保證人タルヲ許サ、ルナリ、此規則ノ設ケラレタルカ爲メ此州ニ於テ免許權ヲ得ント欲スル者ハ他州ヨリモ一層ノ困難ヲ感スルニ至レリ、何トナレハ他州ニ於テハ釀造者ハ販賣人ノ保證人ト爲リ得ヘク、又一人ニシテ屢々數人ノ保證人タルヲ得ルヲ以テナリ、イリノイ州ノ如キハ即チ其例ナリトス、又市民ハ其營業者ノ規則違反若シテハ破廉耻等ノ廉ヲ以テ直接ニ其免許權ヲ下附シタル當

該廳ニ出訴シ異議ヲ申立得ヘキノミナラス、若シ其事實ニシテ明確ナル時ハ其免許權ヲ沒收セサルヘカラサルノ規定アリ、此規定ヲ實施セハフ井ラデルフ井ヤ府ニ於ケル酒店ノ數ハ現在ノ六千ヨリ三千以下ノ少數ニ減スルニ至ルヤ蓋シ知ルヘキナリ、茲ニ注意スヘキノ一事アリ、抑モ此規則タル其免許權ヲ下附スル當該廳即チ地方裁判所ノ專斷ニ一任スルヲ多キニ居レリ、且ツ許多ノ競争者ヲ拒絕スルヲ以テ免許權ヲ受クル者ニ取リテハ其價值増加スヘシト雖モ公衆ニ取リテハ未タ其免許權ノ充分ナル價額ヲ取得スルヲ得ス、況シヤ政治上免許權ヲ濫用スルノ餘地尙ホ存スルニ於テヤ、然ルニ若シ公然競賣法ニ依リテ下附スル時ハ社會公衆ノ爲メ免許料ノ充分ナル價額ヲ徵集シ得ルノミナラス、又偏頗不公平ニ陥ルノ恐アラサルナリ、

予ブラスカ州ノ諸市ニ於テハ免許料ハ一千弗ニシテ、各小都會ニ於テハ五百弗ナリトス、之カ爲メオマハニ於ケル酒店ノ半數ハ閉店シ、而シテ其財源即チ免許料ヨリ生スル歲入ハ五萬弗ヨリ殆ントニ十五萬弗ニ増加シタリト云フ、ミチソク州ニ於ケル免許稅モ亦予ブラスカ州ト同一ナリトス、ミチアポリスニハ制限禁止法ト稍相似タル一種奇異ナル方法アリ、即チ其市ノ中央ニ於ケル或一定ノ區域即チ俗ニ云フ巡邏線域(Patrol Limits)以外ニ於テハ全ク酒類販賣ヲ許サ、ルナリ、是レ高價免許稅法ノ一長所ト云フヘキ乎、余ハ茲ニ贅言スルヲ要セス、聰明着實ナルミチアポリス市ノ一紳士ハ已ニ左ノ如キ言ヲ以テ之ヲ説明シタレハナリ、其言ニ曰ク、

「我等ノ目的トスル所ハ世人ノ知ル如ク、我市ノ嚴定シタル營業區域内ニ酒類商賣ヲ制限スルノ實効ヲ舉グルニ在リ、而シテ其

區域線ハ千八百八十四年ノ春市長及市會ノ始メテ設定シタルモノニシテ、一年程前ニ州立法部ニ依リテ其特許條令中ニ明記セラル、ニ至リタリ、又此方法ヲ採用スルト同時ニ酒店免許料ヲ百弗ヨリ五百弗ニ増額シ、且ツ新ニ其法律ヲ嚴行スルトトナレリ、是ヲ以テ其結果營業區域線外ノ酒店ハ悉ク閉店スルノ止ム可ラサルニ至レリ、其店數蓋シ七十五箇所或ハ百箇所ヲ下ラサルヘシ、而シテ其線内ニ於ケル酒店モ亦高價免許料實施ノ爲メニ一層多數ノ減少ヲ見ルニ至リタリ、然ルニ近來州立法部ハ諸市ニ對スル一般法律ニ依リテ其免許料ヲ一千弗ニ増額シタリ、之カ爲メニ酒店ノ數ヲ減シタルト實ニ甚シキモノアリ、余ノ計算スル所ニヨレハ酒類營業區域内ニ包括スル面積ハ當市ノ現在自治區域内ノ面積ノ十二分ノ一以上ニ出テサルヘシ、而シ

テ全市ノ人口ノ五分ノ四ハ蓋シ其營業區域外ニ居住スルコトナルヘシ且ツ酒店ノ取拂ハレシカ爲メニ其近隣ニ住スル勞役者社會ノ道德上ニ頗ル好結果ヲ來セリ夫レ然リ是ヲ以テ市民ハ黨派如何ニ關セス痛ク其營業區域ノ擴張ヲ憎ムヤ必セリ即チ其區域ヲ擴張スルハ取リモ直サス彼等ノ領内或ハ其住家ノ近隣ヲ侵蝕スルニ異ナラスト見做レ得ヘキヲ以テナリ此方法タル一タヒ設定セラルヤ他ノ幫助ナキモ自ラ存立シ且ツ殆ント自ラ實行ヲ遂クルモノナリ看ヨ是レ既ニ頗ル満足ナル好結果ヲ示シタルニ非ラスヤ』

第七章 所得稅

租稅制度ニ於ケル所得稅ノ地位

前々章ニ説明シタル租稅ハ皆地方稅トレテ適當ナルモノトス抑モ適當ナル地方稅制度ノ骨髓タル租稅ト稱スヘキハ即チ不動產稅ナリ此租稅タル地方出納部ノ需要如何ニ從ヒテ徵集スルモノナルカ故ニ年々其額ヲ一ニセサルヘシ其稅率ヲ定ムルニ當リテハ先ツ第一ニ生産的公有財產、地方的事業、自然獨占事業、酒類販賣免許稅及ヒ其他種々ノ財源ヨリ生スヘキ歳入ヲ量定セサル可ラス然ル後チ不動產ニ課スル稅率ヲ定ムヘク其稅率ハ他稅ノ不足ヲ補充スルニ足ルノ度ヲ以テスルヲ至當ナリトス米國ノ各市ニ於テハ此稅率ハ其財產ノ賣買實價ノ一分ヲ超過スヘカラサルヲ以テ制規トナセリ、

抑モ適當ナル州稅制度ノ骨髓タリ且ツ變更レ得ヘキ租稅ト稱スヘキモノハ所得稅ナラサルヘカラス、夫レ所得稅額ハ州政府ノ需要ニ從ツテ毎年變更スヘキモノナリ、而レテ其稅率ハ他ノ財源ヨリ生スル歲入ヲ量定レ然ル後チニ之ヲ算出スヘキモノナリ、

所得稅法ニ依ラサレハ租稅ノ平等ヲ保ツコト能ハス

余ハ已ニ本書ニ於テメーリーランド州及其他諸州ノ農民並ニ勤勉ナル人民カ凡テ資産アル者ハ其度ニ應レテ政府維持ノ爲メ其費用ノ一部分ヲ負擔スヘキモノナリトノ思想ヲ有スルハ至當ノ事ナリト説ケリ、然ルニ政府費用ノ一部分ヲ優ニ負擔レ得ヘキ數多ノ人民ニレテ政府ノ存在スルカ爲メ計ル可ラサルノ便益ヲ受ケナカラ其公費ヲ分擔セサル者アルハ何ソヤ、是レ豈ニ正當ノ道

ナランヤ、然ラヘ則チ此弊害ヲ矯正スルノ道アリヤ、曰ク只一ナル而已、何ソヤ所得稅法即チ是ナリ、蓋レ此稅法ヲ實施スルニハ夫ノ事ニ托レテ課稅ヲ脱セントスル者若シクハ偏僻固陋ノ徒ノ紛議ヲ排レ以テ公正無私ナル審査ヲ要スルナリ、

第一ニ此稅法ニレテ果シテ公平ニ其稅源ヲ査定レ得ヘク且ツ容易ニ徵集レ得ヘキモノナリトセハ公正ナル稅法トシテ他ニ其比ヲ見サルヘントハ一般ニ承認スル所ナリ、又夫ノ租稅負擔ノ平等ヲ規定セル租稅ノ典則ノ主旨ニ最モ適合スルヲ殆ント他稅ノ比ニ非スト云ハサル可ラス、加之ナラス此稅法タル貧民ヲシテ其營業ヲ開始シ若シクハ繼續セントスルニ當テ一ノ困難ヲモ感センムルモノニ非ルナリ、此點ニ於テハ夫ノ免許稅法ト大ニ異ナレリ、譯テ其社會ニ於ケル結果如何ヲ觀察スレハ是亦大ニ見ルヘキモ

ノアリ、何トナレハ此稅法ニ依レハ重荷ハ其負擔ニ堪ヘ得ヘキ者
ノミ之レヲ負擔スレハナリ、夫レ然リ大資産ヲ有レテ營業ニ從事
スル人々ニ向ツテモ尙ホ且ツ此稅法ノ必要ヲ獎說セサルヲ得ス、
彼等ハ或年間ニ於テハ其收益極メテ少額若クハ絶無ナルカ、或
ハ却テ損失ヲ來スコトアルヘケレハナリ、故ニ我國ニ行ハル、財
産稅ノ如キハ苛酷ナル稅法ナリト云ハサル可ラス、其稅法ニ依ル
トキハ營業者ハ其營業不振ノ年ニ在リテ纔カニ辛苦レテ之ヲ持
續レツ、アルニモ拘ハラス營業極メテ繁盛ナル例年ト同様ニ課
稅セラレ、ナリ、然ルニ所得稅ニ至テハ之ニ異ナリ、其營業者ニ於
テ多ク納稅レ得ヘキトキニハ多ク之ヲ賦課シ、其納稅シ難キトキ
ニハ其額ヲ減少シ、以テ納稅者ヲシテ財政上困難ヲ感セシムル
ナキナリ、若レ夫レ財產稅ノ全部ニ代ユルニ所得稅ヲ以テスル

ヲ得タランニハ人民ハ其恩澤ニ浴シ倒産ノ不幸ヲ免ル、モノ多
クナラント信スルナリ、之ニ付キ余力嘗テホルチモール市租稅調
査委員ノ資格ヲ以テ起草シタル特別報告書中ニ用ヒタル語句ヲ
少ク修正シテ此ニ再記シ讀者ノ參考ニ資スヘシ、

『所得稅ハ從來按出セラレタル稅法中最モ公平ナル稅法ナリ、即
チ之ヲ實施スルニ當リテハ先ツ其負擔ニ堪ユルノ時期ト場所
トヲ察シテ重擔ヲ賦課シ、若シ一時或ハ永久充分ニ其負擔ニ堪
ヘ得ヘキ力ナキノ場合アルトキハ則チ其負擔ヲ輕減スルモノ
トス、抑モ租稅ナルモノハ所得ヨリ徵集セラルヘキモノナルカ
故ニ大財産ト雖モ必スシモ常ニ租稅ヲ納メ得ヘシト斷定スル
ヲ得ス、財産ヲ調査シ稅率ヲ定ムルト云フモ畢竟間接ニ所得ヲ
査定スルノ方案タルニ過キス、夫レ然リ所得稅ハ商業不振ノ時

ニ於テ營業者ヲ救濟シ併セテ其恐慌ヲ鎮定スルノ方便タルヘキヲ以テ其不振ヲ挽回シタルノ日ニ於テハ其報酬トシテ相當ノ負擔ヲ營業者ニ請求スルモノト知ルヘシ

所得稅ハ善良ナル政府ノ發達ヲ助クルモノナリ

更ニ進ンテ一言セン、大ナル所得アリト雖モ財產ヲ所有セサルノ故ヲ以テ公共ノ負擔ヲ全ク免除セラル、者アルハ何ソヤ試ニ眼ヲ放テハ世ニハ五千弗乃至五萬弗ノ巨額ナル所得ヲ有シ保險及ヒ其他ノ方法ニ由リテ其一身ト其家族ノ將來ノ安全ヲモ保護シ願ル快樂ナル生活ヲ爲スニモ關セス毫モ租稅ヲ納メサル一ノ階級アリテ其數次第ニ増加スルヲ見ルナリ、夫レ斯クノ如キ人民アルハ他ノ納稅人民ニ對シ不公平ナルノミナラス、害ヲ政治上ニ及

ホスモノト云ハサル可ラス、何トナレハ租稅ノ輕重ハ彼等自己ノ所得ニ何ノ痛痒ヲモ與ヘサルカ故ニ從テ公共ノ義務ニ付テハ往々不注意無頓着ナルヲ以テナリ、顧フニ彼等ハ政府ニ租稅ヲ納ムルコトナカルヘシ、而レテ其毫モ政府ノ費用ヲ負擔セサルノ結果ハ遂ニ政府ノ施政如何ヲモ顧ミサルナリ、
我米國ノ各州及各市ノ政府ニ於ケル施政ノ振ハサル一原因トシテ見ルヘキハ即チ勢力アル社會ノ人民カ實際ノ政治ニ付テ冷淡ナルノ一事是ナリ、彼等ハ往々揚々トシテ政治ノ如キ賤劣平凡ナルモノハ我等ノ關スル所ニアラストノ暴言ヲ吐キ恬トシテ怪レマサルモノ、如シ此種ノ論者ハ法律家、醫師、教員等ノ社會ニ於テ往々見受クル所ナリ、是等ノ人々ハ他ノ人民ノ享有スル教育及ヒ智識ヨリモ一層高等ナル教育ヲ受ケ智識ヲ蓄フルノ機會アルヲ

以テ其社會ニ於ケル彼等ノ勢力モ亦強大ニシテ且ツ裨益ヲ及ホ
 ス丁懣カラサルヘキナリ、蓋シ彼等ト雖モ他ノ人民ト同シク租稅
 ヲ納ムヘキモノナリ、何トナレハ間接合衆國稅ハ彼等カ日常購求
 スル所ノ貨物ノ代價ノ一部分ヲ組成スルノミナラス、吾人カ納ム
 ル直稅ノ大半ハ移轉シテ遂ニ間接ニ彼等ニ及フモノナレハナリ、
 家屋稅ノ如キハ即チ其一例ナリト云フヘシ、然レトモ此事タル未
 タ世人ノ注意スル所トナラサルナリ、抑モ吾人ノ要スル租稅ハ公
 共ノ需要及ヒ行政ノ熟練ト實効トニ依リテ増減變更シ得ヘク且
 ツ人民ノ多數ニ及ホシ得ヘキ租稅、即チ直接即時ニ租稅負擔者ニ
 賦課シ得ヘキモノニ在リトス、我國ニ於テハ州市共ニ直接ノ納稅
 者ハ其數甚タ寡ナシ、然レトモ所得稅ニ至テハ租稅負擔者忽チ其
 輕重ヲ感スルノミナラス自ラ直接ニ之ヲ納メサル可ラサルモノ

ナリ、故ニ所得稅ハ正シク吾人カ要スル租稅ノ一種ニシテ之ニ依
 リテ社會人民ノ大部分カ政府ニ對スル情態ヲ一變スヘキヤ論ヲ
 俟タサルナリ、

職業家、給料取及其他ノ人々ノ所得ハ往々其人ノ能力ヲ養生セン
 カ爲メニ消費セラレタル大費用ノ結果ニシテ、是レ所謂無形ノ富
 (Personal wealth)トモ稱スヘキモノナリ、今夫レ爰ニ甲乙二人アリ、甲
 ハ利得アル地位ヲ得シカ爲メ一萬弗ヲ其準備ニ消費シ成業ノ後
 相當ノ所得ヲ收穫スルニモ關セス、乙モ租稅ヲ納メス、之ニ反シテ
 乙ハ農地耕作ノ爲メ其一萬弗ヲ消費シタルカ故ニ政府維持ノ爲
 メ毎年其所得ニ比シテ少々ナラサル租稅ヲ納メサル可ラサルナ
 リ、斯クノ如キハ決シテ公平ノ租稅制度ト云フヲ得サルナリ、

所得稅ニ對スル普通ノ反對說

所得稅反對說中稍々注意スルニ足ルヘキモノアリ、
 其一ニ曰ク、所得稅徵集法ハ審査上稍々糺問的ニ傾クノ恐レアリ
 ト、夫レ然リ、然レトモ是豈ニ所得稅ノミナランヤ、實際上果シテ所
 得稅ヨリモ糺問的ナラサル租稅アリヤ、夫ノ煙草及、ホヰスキ、酒
 ニ課スル租稅ハ如何、其一己人ノ私事ニ立入りテ糺問スルコト果シ
 テ少ナレト云フヲ得ヘキヤ、否ナ然ラス、煙草製造人及、ホヰスキ、
 釀造人ハ其營業ノ各課ニ就テ一々隱蔽スル所ナク、審査官ノ前ニ
 曝露セサルヘカラス、加之ナラス、彼等ハ皆ニ嚴密ナル探偵ニ圍繞
 セラレツ、アルナリ、是ヲ以テ租稅ヲ避ケント企ツル者ノ如キハ
 往々獵夫カ猛獸ヲ驅立ツルカ如クニ探索セラレ、遂ニ納稅者ト收
 稅吏トノ鮮血ヲ流レテ漸ク徵集ノ目的ヲ達スルコトアリ、海關稅ノ
 如キハ其調査ノ嚴密ナルコト豈ニ所得稅ノ比ナランヤ、讀者若レ

米國ニ渡來スルコトアラハ其港灣ニ入り將ニ上陸セントスルノ
 際ニ於テ己カ携帶スル革靴ヲ開キ其所有品ヲ一々明白ニ示サ、
 ルヲ得ス、而シテ若シ讀者ニシテ疑フヘキ廉アルトキハ稅關吏ハ
 讀者ノ身上ニ就キ嚴重ナル取調ヲナスヘキナリ、果シテ然ラハ動
 產稅ハ如何、其糺問ヲ要スルコト所得稅ヨリモ少ナレト云フヲ得ル
 カ、否ナ決レテ然ラス、何トナレハ所得稅ハ其賦課法簡略ニシテ僅
 カニ一問ヲ附シ以テ之カ答辯ヲ求ムルニ過キスト雖モ、若シ動產
 稅ニシテ嚴重ニ實行セラル、時ハ一己人ノ所有ニ係ル有ラユル
 財產ヲ點檢シ且ツ其家產及借財等ノ事迄細大漏サス之ヲ曝露セ
 サルヲ得サレハナリ、是ヲシテ糺問的ニ流レストセハ將々何ヲカ
 糺問的ナリト云フヲ得ヘキヤ、吾人ハ往々歐洲諸國政府カ一己人
 ノ私事ヲ探偵スル制規ノ嚴刻ナルヲ説クコトアリト雖モ、前ニ引證

シタル日耳曼ノ記者ニシテボルチモール市租稅調查委員ノ報告ヲ評論シタル男爵フホン、ライツエンスタイン氏ノ如キハ我國ノ動產稅ニ於ケル前記ノ狀態ニ就キ嚴密モ甚シキモノトシテ精密ナル注意ヲ與ヘタリ、且ツ氏ハ之ヲ評シテ同國ニ於ケル遺言檢定所ニ於テ死亡者ノ遺產ヲ審査スル場合ト相似タリト云ヘリ、世人或ハ曰ク同檢定所ノ審査ノ如キハ却テ人民ヲシテ詐欺ヲ爲サシムルノ恐アリト、然レモ我邦ニ於ル此現行ノ租稅ニ至テハ其風教ヲ害スル一層甚シキモノアルナリ、

論者又曰ク、所得稅ハ公平ニ之ヲ査定スルコト困難ナリト、然レトモ是レ其一ヲ知リテ未タ其二ヲ知ラサルモノナリ、何トナレハ所得稅ヲ査定スルハ動產稅ヲ公平ニ査定スルノ至難ナルニ比スレハ其難易殆ント同一ノ論ニアラサレハナリ、夫レ然リ所得稅ヲ查

定スルノ容易ナルハ夫ノ動產稅査定員カ往々先ツ或一人ノ所得ヲ査定シ其計算ヲ基礎トシテ動產ヲ推定スルコトアルヲ見テモ知ルヘシ、此方法ハボルチモールノ市廳ニ於テ往々實行スル所ナリ、是レ實ニ所得稅ニ反對スル偏僻論ノ一部カ世ニ存スル所以ニ外ナラスト云フヘシ、余ハ敢テ資産家ナル階級ニ對シテ非難ヲ加フルモノニ非ラス、只彼等ノ中ニ於テモ他ノ階級ニ於ケルカ如ク往々忌憚ナキ不正ノ徒少カラスト云フノミ、是等ノ輩ハ所得稅ノ賦課法ハ嚴密ニシテ動產稅ノ如ク容易ニ之カ負擔ヲ免ル、一能ハサルヲ以テ忽チ大聲疾呼シテ不平ヲ唱フルニ至ルナリ、且ツ彼等ハ勢力アル諸新聞ヲ左右シ之ヲ利用シテ不正ナル筆ヲ弄セシムルカ故ニ不當ニモ世間ノ注意ヲ惹クニ至ルモノトス、而シテ合衆國所得稅ノ場合ニ於テハ同稅法中最モ卓越シタル點却テ之カ攻

聲ノ資ニ供セラレタリ、何カ故ニ然ルカ、是レ他ナレ其稅法カ目的
 トレタル所ヲ悉ク成就シタルヲ以テナリ、
 何人ト雖モ一個人ノ動産ノ價格ヲ公示スルトハ兎ニ角其人ニ損
 害ヲ與ヘ若クハ其人ノ信用ヲ破壞スルモノナリト思惟スルモノ
 ナカルヘシ、然ルニ所得稅ニ對シテハ此點ニ於テ反對ノ議論ヲ試
 ムル者アルナリ、然ラハ二稅法ニ如何ナル差別アルヤ、只其一ハ他
 ヨリ一層精密ニ近シト云フニアルノミ、嘗テニユーヨーク及ブル
 ックリンニ於テ課稅セラレタル動産ヲ新紙上ニ公示セシ事ニ對
 シテハ世人毫モ之ヲ嫌忌スルノ色ナカリシニモ關セス、其所得稅
 表ヲ公示スルニ至リテハ大ニ世人ノ注意ト攻撃ヲ招キタリ、余ハ
 實ニ其ノ何ノ意タルヲ知ラサルナリ、
 苟モ正直ナル人ハ必ス告白セン一個人ノ動産ヲ調査スルノ難キ

ニ比スレハ其所得ヲ調査スルト甚々容易ナリト、余若レ一ノ約束
 手形ヲ所有センニ余ハ其何處ニアルヤヲ知ラス、知ラス調査員ハ
 如何ニシテ之ヲ見出ストヲ得ルヤ、假リニ之ヲ見出シ得ルトスル
 モ如何ニシテ其價值ヲ知ルトヲ得ルヤ、否余自身モ之ヲ知サルナ
 リ、何トナレハ對手者カ之ヲ支拂フト支拂ハサルトハ余ノ豫メ知
 ル所ニアラサレハナリ、然レトモ若シ其手形ヨリ利子ノ形トナリ
 テ所得ヲ得ルコトアラハ是レ即チ余ノ知ル所ノモノナリ、又若シ
 一ノ版權ヲ所有センニ其如何ナル價值ヲ有スルモノナルヤハ余
 ト雖モ之ヲ知ラス、況ンヤ調査員ニ於テヲヤ、然レトモ其版權ニ依
 リテ或ル一年間ニ於テ幾多ノ所得アリシカハ是レ余ノ能ク熟知
 スル所ナリ、然レトモ調査員タル者奚ソ能ク余カ其版權所有者タ
 ルノ事實ヲ證明スルトヲ得ンヤ、夫レ然リ一箇人ノ動産カ前記ノ

如キ形ヲ有スル場合アルトテ熟知スル者千百ノ調査員中一人モ之ナレト云フモ敢テ輕言ニアラサルヘシ、其調査ノ至難ナル知ルヘキナリ、然レモ余若シ其約束手形及版權ヨリ所得ヲ受クル時ハ願フニ恐クハ余自ラ之ヲ受取リタルノ證據ヲ示スニ至ルヘキナリ、即チ余カ生活ノ狀態、余カ購入スル家産及其他凡百ノ行爲ハ余ニ所得アリシ事實ヲ證明スルモノナリ、余ハ素ヨリ所得如何ヲ知ルト常ニ容易ナリト斷言スルモノニアラスト雖モ、夫ノ無形ノ動産ヲ調査スルノ至難ナルニ比スレハ遙カニ容易ナルヤ明ナリ、余カ前來引證シタル事實ハ是レ只其適例トシテ示シタルニ過キス、世ノ實業家ハ素ヨリ續々其實例ヲ舉グルニ難カラサルヘシ、夫レ然リ夫ノ動産稅ヲハ公正適當ナル法トシテ喜テ之ヲ贊成シ、之ト同時ニ所得稅ニ對シテハ其性質糾問的ニシテ且ツ公平ニ査定ス

ルヲ能ハストノ理由ヲ以テ之ニ反對スル人々ノ如キハ他日其說ノ妄迷ト不誠實トヲ責問セララル、トアルモ亦怪ム可キニ非ザルナリ、
更ニ一步ヲ進メテ論センニ夫ノ普通動産稅カ世ニ行ハル、ヲ得ルハ只法律及憲法ノ條項カ嚴行セラレサルカ故ニ外ナラサルトハ租稅委員ノ報告カ常ニ其功ヲ奏セスレテ消滅ノ不幸ニ遭遇スルヲ見テモ其事實ヲ知ルニ足ラン、或ル人民ハ其賦課法ノ不當ニシテ且不公平ナルカ故ニ大ニ不滿ヲ唱ヘ屢々租稅委員ノ任命ヲ促セリ、然レトモ傳説ト偏見ノ勢力ハ常ニ急激ナル變更ヲ許サスレテ只現行ノ制度ヲ嚴行セントスル法律ヲ提出セシムルノミ、然ルニ其報告ハ正當ノ儀式ニ由リ或ハ正當ノ儀式ニ由ラスレテ埋葬セラレ永遠不覺ノ睡眠ニ陥ルノ不幸ヲ見ル、

千八百八十六年租稅特別審查委員ハ租稅法ニ關シテ南カロライ
ナ州立法部ニ一ノ報告ヲナセリ其目的トスル所ハ其法律ヲ嚴行
セントレタルニ外ナラス、而シテ其租稅委員建言ノ主張者ハ其法
案ニ關シテ左ノ如ク余ニ書キ送レリ、曰ク

「該法案ハ上院ニ於テ其四分一ヲモ討論ヲ經サルニ早ク已ニ否決
セラレタリ、而シテ其理由タル其建言ハ甚ク糾問的ニ傾ケリ
ト云フニ在リキ、立法官ノ無識ヲ證スル一此一例ヨリ甚シキハ
ナレ、何トナレハ其所謂委員ノ建言ト稱スルモノ、各項ハ(即チ
其各項ハ上院ヲシテ其法案ヲ否決セシムルニ至リシ者ナリ)現
今世ニ行ハル、租稅法ヨリ拔萃シタル普通ノ建言タルニ過キ
サリシモノナレハナリ、而シテ勿論其法案ハ下院ニ回附セラレ
サリシカ故ニ該院ノ討議ヲ經ル一能ハサリキ、」

我ボルチモール市租稅委員ノ報告ハ州租稅委員ノ撰舉ニ先タチ
脆クモ實業家ヨリ攻撃ヲ受ケ遂ニ消滅ニ歸シタリ、其此ニ至リシ
一ニ就テハ敢テ深ク實業家等ヲ非難スヘキニ非ス、何トナレハ其
法案ヲ實施セハ同市一般ノ災害ヲ來スノ恐アリタレハナリ、願フ
ニ彼等ハ其法律ノ嚴行ヲ促スカ、然ラズシテ其廢止ニ向テ運動ス
ルカ、二者其一ニ出テサリシナラン、

所得稅ト動產稅トノ對比

吾人ハ熟々我國產業上ニ於ケル動產稅ノ適否如何ヲ觀察スルニ
年々次第ニ不適當トナリテ不評ヲ來スノ狀アリ、然ルニ之ニ反シ
テ所得稅法ハ民主政治ノ主義ニ最モ適合スルノミナラス、多數ノ
人民次第ニ勢力ヲ得ルニ從ヒ此稅法ハ一層普通ニ行ハル、ノ傾
向アリ、且ツ此稅法ヲ誠實ニ實行シタル處ニテハ漸次ニ其賦課法

ニ慣レ愈々公正且ツ簡便ニ之ヲ管理スルヲ得テ大ニ一般人民ノ意向ニ投レ以テ益々高評ヲ博スルニ至レリ、現今英國ニ行ヘル、所得稅ハ千八百四十二年サー・ロバート・ピール(Sir Robert Peel)氏ニ由リテ一時ノ救濟策トシテ施行セラレタルモノニシテ、其目的トスル所ハ商業貿易ノ妨礙ヲ去リ其不振ヲ挽回センカ爲メ必要ナル基本金ヲ得ントスルニアリキ、而レテ當初四年間ヲ以テ之カ實施ノ期限トナセシモ其意外ノ好結果ヲ奏シタルカ故ニ其後永ク繼續スルニ至レリ、當時海關稅ノ改革ハ所得稅ト相聯結シテ實施セラレ、ニ至リタリト雖モ所得稅ハ早晚廢止スルノ目的ナリシナリ、然レトモ幾多ノ星霜ヲ閱スルニ從ヒ其經驗ノ功著ク愈々完全公正ニ之ヲ査定スルノ方法次第ニ明白トナリ遂ニ英國ヲシテ永久不變ナル財政制度ノ一部分トシテ之ヲ保持スルヲニ決定

セシメタリ、豈ニ只英國ニ止マランヤ、瑞西共和國及普魯西君主國ニ於テモ亦同一ノ結果ヲ顯ハシタルモノ、如シ、夫レ然リ、然レトモ余ハ敢テ所得稅ヲ以テ完全無缺ナル租稅ナリト斷言セント欲スルモノニ非ス、蓋シ如何ナル租稅ト雖モ未タ完全無缺ナリト云フヲ得サレハナリ、若シ強テ之カ缺點ヲ求メント欲セハ其所得稅ノ行ヘル、各國ノ事蹟ニ照シテ之ヲ發見スルヲ得ヘシ、然レトモ同稅法ノ實施セラレ、地方ニ於テ人民カ次第ニ其便法タルヲ賞賛スルヲ敢テ之ナシト論定スル人ノ如キハ余ヲ以テ之ヲ見レハ實ニ事實ヲ觀察スルニ最モ迂遠ナル人ト云ハサル可カラス、讀者ハ宜ク租稅法ニ關スル外國ノ著書ニ就テ少シク參考スル所アルヘシ、近ク之ヲ我國ノ事實ニ徵センカ、凡ソ我米國人民ニシテ聊カ租稅ノ事ニ注目スルノ人、又ハ稍々見ルヘキノ著

書ニ至リテハ一トレテ動産稅ノ不正ニレテ且ツ實施レ難キヲ看破レ之ヲ排斥セサルモノナカルヘシ、又之ヲ外國ノ著書ニ徵センカ、所得稅ノ久シク實施セラレタル各國ニ於ケル近代ノ著書ニレテ所得稅ノ便益ヲ賞賛セサルモノ殆ント稀ナリ、即チ我米國ニ於テモ將々又諸外國ニ於テモ其經驗ノ證スル所斷乎トレテ明カナリト云フヘシ、ジヨン、スチユアト、ミルハ自著『經濟學』ニ於テ所得稅ニ付キ論述スル所アリタリ、氏カ此書ヲ著ハレタル時ハ恰モ現今英國ニ行ハル、所得稅法ノ實施口尙淺クシテ之ニ對スル一般ノ輿論ハ恐クハ之ヲ嫌忌シタルナラン、何トナレハ當時實際ニ老鍊ナル一商人ノ言ニ所得稅ハ學理上極メテ上乘ナリト雖モ實際ニ於テハ能ク其目的ヲ達スル能ハサルナリトアリシヲ以テナリ、以テ其意向ノ一斑ヲ窺フニ足ランカ、ミルノ一派トレテ有名ナル

ハフオーセツト(Lawcut)ニレテ、氏ノ經濟學上ニ於ケル大躰ノ主旨ハ寧ろ所得稅ヲ贊成セサルモノ、如シト雖モ實際ノ經驗ニ因テ始メテ所得稅ノ公平ニレテ正當ナルモノナルヲ了得レタリケン千八百八十三年自著經濟書ノ第六版ヲ世ニ公ニスルニ當リ大ニ所得稅ヲ贊成シタリ、所得稅ト動産稅トノ差異斯クノ如ク夫レ著明ナリ、後者ハ繼續スルコト久シケレハ愈々弊害ヲ醸シ其弊價次第ニ減殺セラレ、ト雖モ、之ニ反シテ前者ハ繼續スルコト久シケレハ愈々好結果ヲ呈シ其弊價次第ニ増進スルナリ、夫レ然リ所得稅ハ近世國家ノ必要ニ最モ適合シタル稅法ナリト云フモ敢テ過言ニアラス、

我合衆國所得稅ハ數多ノ點ニ於テ人民ノ反對ヲ惹起セリ、是レ蓋シ理由ナキニ非ス、第一、所得稅ハ合衆國政府ヨリモ寧ろ州政府ニ

能ク適合シタル租稅ナリ、何トナレハ合衆國政府ハ邊隔ノ地ニ存スルヲ以テ人民ハ直接ニ其便益ヲ感セス、且ツ各地方ノ納附額同一ナラサルカ故ニ人民ノ不平ト怨惡ヲ生スレハナリ、第二、奸猾ナル人ハ其稅法廢止ヲ速カナラシメンカ爲メ故ラニ之ヲ笑フヘキ法律ニ變成セシメタリ、故ニ其法律ハ細末ノ點ニ於テ不必要ナル缺點ヲ以テ充タサレタリ、第三、我國ノ或地方ニ於テ特ニ甚レキ積斥ヲ受ケタリ、メーリーランド州ノ如キハ其一例ニシテ、是レ蓋シテ獨キニ人民ノ好マサル戰爭ヲ行ハンカ爲メニ始メテ所得稅ヲ徵收シタルカ故ナラン、

所得稅ハ州稅タラサルヘカラス

所得稅ハ市ニ適合セス、何トナレハ之ヲ市ニ實施スル時ハ其結果ハ動產稅ト同様ニシテ市内ノ人民ヲ市外ノ別墅ニ放逐スルニ至

ルヘケレハナリ、米國ノ市府ハ概テ「納稅者ノ樂園」ト稱スルモノヲ以テ圍繞セラル、ナリ、其樂園トハ他ニ非ス、即チ富豪家等ノ別墅ニシテ彼等カ其生計ノ資ヲ收得スル市ニ於ケル租稅ノ負擔ヲ免レンカ爲メ姑ラク其居ヲ避クル處ナリトス、而シテ是等ノ人民ハ亦大同レク所得稅ノ正當ナル分擔ヲモ免ルヘキナリ、讀者若シ試ミニ合衆國ノ地圖ヲ披キ仔細ニ各大市府ノ位置ヲ點檢セハ必ス米國ノ各市民ニシテ租稅ノ負擔ヲ免レンカ爲メ其居住スル州ヲ去ラントスル者ノ如キハ比較的ニ極メテ稀ナルヲ見ルヘシ、夫レニユーロークノ市民ニシテニュージョルジニ移住スル者ハ或ハ之レアラシ、然レモ僅々一分即チ財產稅ノ一分ノ十二分ノ一ナル輕少ノ所得稅ヲ免レンカ爲メ相率ヒテ一州ヨリ他州ニ移住スルカ如キヲアラサルヘキナリ、蓋シ世人多クハ其所屬ノ州ヲ變更

スルヲ好マス、何トナレハ各人ノ其州ニ於ケル關係ハ其市府ニ於ケル關係ヨリモ密着ナルカ故ナリ、且ツ夫レ適當ナル所得稅ヨリ生スル商業上及財産上ニ於ケル裨益ハ甚々大ナルヲ以テ所得稅ノ實施セラル、州ヲ去ル者一人アリトスレハ更ニ他ノ十人ヲ吸集スルニ至ルヘキナリ、

所得稅ノ査定

是ニ由テ之ヲ觀レハ所得稅ハ州稅トスヘキヲ勸告セサルヲ得ス、何トナレハ自治市若クハ合衆國政府ニハ之ヲ採用スルコト適當ナラスト雖モ州ニ於テハ之ヲ査定シ之ヲ徵集スルヲ比較的ニ容易ナリ、而レテ所得稅タル必スレモ完全ノ租稅ト云フヘカラスト雖モ、他ノ諸稅ニ比スレハ稍最モ完全ニ近キモノナルカ故ナリ、抑モ所得稅ヲ査定スルノ方法種々アリ、其一ハ各自申告ノ査定

法ニレテ、其二ハ官吏査定法是ナリ、而レテ官吏ノ査定額若シ實際ニ超過スルトキハ其納稅者ヲレテ之ニ抗辯スルノ權ヲ有セシムルモノトス、夫レ萬事公明ヲ主トスル今日ニ於テ各自ノ所得高ヲ公示セハ果レテ何ノ不都合ヲ生スヘキヤ、余ハ其所得公示ニ反對スル者ニ向ヒ如何ナル注意ヲ與ヘテ可ナルヤヲ知ルニ苦シムナリ、現ニ今日諸會社ニ於テハ各商業家ノ財産ヲ計リ以テ其信用ノ多少ヲ覺知スルニアラスヤ、是レ豈ニ各人ニ對シテ更ニ有害ナリト云フヲ得ンヤ、夫レ然リ所得稅ノ行ハル、處ニ於テハ實際上此事ノ爲メニ困難ヲ來スヲ甚々稀ナルカ如シ、

又人民各自ヲレテ其所得ヲ公示セシムルトキハ夫ノ巧ニ外見ヲ裝ヒ以テ自ラ富裕ト稱スルノ徒又ハ身分不相應ニ金錢ヲ浪費スル者ノ輩出ヲ防クニ於テ多少ノ功驗アレント云フモノアリ、

然レトモ世人舉テ其所得ヲ公示スルヲ好マサルニ於テハ之ヲ公示セサルノ方法ナキニシモアラス、例セハマツサチユーセツツ州ノ如キハ動産稅納稅書式面ニ於テ其稅表ハ公開點檢ヲ許サスト明記セリ、去レハ所得稅表ニ付テモ亦同一ノ制規ヲ設クルコトヲ得ヘレ、而レテ其所得ヲ査定スルニ當リテハ各自申告査定法ト官吏査定法トヲ折衷セハ過失ナキニ庶幾カラシカ、

又所得ノ有無ヲ定ムルノ證據許多アリ、例セハ市府ニ於テハ其市街ノ住民カ納ムル借地料ハ通例所得ニ於ケル一ノ比例トナルナリ、英國ニ於テハ農民カ納ムル借地料ハ其所得ノ二割ナリト假定セラル、ナリ、去レハ合衆國ノ各部分ニ於テモ農民ノ借地料ト所得トノ間ニ於テ稍々一定ノ比例アルヘレ、而レテ若レ此比例ニレテ常ニ同一ナラサルトキハ其大躰ニ付キ之カ比例ヲ定ムルヲ敢

テ難キニ非ラサルヘレ、若レ一人ニレテ其耕作スル地ヲ所有スル者アル時ニ於テモ亦々以上ト異ナル所ナキナリ、何トナレハ此場合ニ於テハ先ツ其耕地ニ於ケル毎年ノ借地料タルヘキ額ヲ査定シ、然ル後之ヲ夫ノ借地人ノ所得ト見做スヘキモノニ合算シ以テ之カ比例ヲ立ツルヲ得ヘケレハナリ、

諸會社ノ配當金及利子ニ所得稅ヲ課シ、又凡テノ給料ニモ之ヲ課スルヲ得ヘレ、而シテ州及自治市ハ其凡テノ公債ノ利子ヨリ所得稅トシ其幾分ヲ引去リ得ベク、又各納稅者ハ其既納ノ租稅ヲ之ヨリ引去ルヲ許サルヘレ、勿論納稅者ハ納稅書式ノ各課目ノ下ニ明細ニ其所得ヲ記入スヘキヲ必要ナリトス、是レ即チ一己人カ自己ノ消費ノ爲メニ凡テノ財源、財產、商業、及職業等ヨリ得タル收入ナリ、然レトモ借家料ヲ之ヨリ引去ラントスルハ甚々不合理ノ事

ナリ、何トナレハ所得ナルモノハ他ノ諸費用ヲ支辨スルカ爲メニ必要ナルト同シク又借家料ヲモ支辨スルカ爲メノモノナレハナリ、若シ納稅者ニシテ家屋ヲ所有シ之ニ住居スルトキハ其毎年ノ借家料タルヘキ額ハ其所得ノ一部分ト看做サ、ルヘカラス、此點ニ付テハ紙幅少ナキヲ以テ茲ニ之ヲ詳論スルヲ得ス、讀者乞フ第一篇中ニ引用シタル諸參考書ニ就テ其詳悉ヲ知レ、英國内國歳入調査委員ノ報告書ハ英國ノ所得稅ニ就キ充分ナル消息ヲ與ヘタリ、又ドーウエン(Dowell)氏ノ著『英國租稅史』ノ第三卷ニ於テハ英國所得稅ノ特質ヲ論シ且ツ附スルニ其沿革史ノ要領ヲ以テシタレハ是等ヲ參考セハ蓋シ思ヒ半ニ過クルモノアラン、若シ公衆ニ對スル保證トシテ所得表ヲ公示セサルコトヲ決定スル時ハ宜シクチヨルヂヤ州ニ於ケル法案ヲ採用スヘシ、即チ各郡及

自治市ノ陪審官ヲシテ所得稅表ヲ點檢セシムルノ法案是ナリ、而シテ其陪審官ヲ煩ハスカ如キハ敢テ刑事訴訟ノ爲メニスルモノニ非スレテ單ニ其稅表ヲ點檢セシメンカ爲メナリ、チヨルヂヤ州アウガスタノ有名ナル大家ジェー、アール、ラーマル(R. Lamer)氏ハ此稅法ノチヨルヂヤニ於ケル實際ノ狀況ヲ説明スルノ勞ヲ取ラレタリ、曰ク

『陪審官ヲシテ所得稅表ヲ點檢セシムルノ條項タル其陪審官ノ爲ス事ヨリモ寧ロ之カ爲ニ弊害ヲ防クノ一事ニ於テ其價値アルヲ見ルヘシ、多數ノ人ハ所得稅表カ陪審官ノ審査ニ附セラル、コトヲ知ルカ故ニ特更ニ明細ナル表ヲ作ルハ必然ノ勢ナリ、又收稅吏中ニハ其朋友及親戚ノ者ヨリ實際ノ所得ヨリモ甚タ少額ナル所得表ヲ届出ツル時ハ往々之ヲ黙過スルコトアリ得ヘシ

ト雖モ、若シ多少多數納稅者ノ財産上ノ内情ヲ熟知スル陪審官ノ點檢ヲ經サルヲ得サルヲ知ルモハ漫ニ不公平ノ處置ヲナス能ハサルヘシ、斯ル場合屢々アリト云フニ非スト雖モ時トシテハ陪審官ハ其届出タル所得査定額ヲ増減シタルノ例アリ、余ハ陪審官ヲシテ稅表ヲ點檢セシムルカ如キ制規ヲ有スル他州アルヲ知ラサルナリ、此制規タルヤ未タ完備セルモノト云フヲ得ス、蓋シ陪審官ハ其稅表ヲ調査點檢スルカ爲メ充分ナル時間ヲ有セサルカ故ニ到底精密ナル調査ヲ遂クルト能ハサルナリ、然レトモ其制規ノ實行セラル、限リハ收稅吏ヲシテ不公平ナル處置ヲナサシムルト萬々之ナカルヘシ云々、
然ラハ所得稅表ヲ管理センカ爲メ此法案ヲ擴張スルモ可ナリト雖モ、又之ト等シキ他ノ方法ヲ採用スルモ可ナリ、只タ夫レ其充分

ナル保證ヲ與フルカ爲メ正實ニ盡力セハ之ヲ實施スル決レテ困難ノ事ニアラサルヘシト信スルナリ、

低廉ナル所得稅ヲ以テ足レリトスヘシ

余ノ所見ヲ以テスレハ所得稅ハ凡テ六百弗以上ノ所得ニ賦課スル變更シ得ヘキ租稅タラサルヘカラス、然レモ如何ナル場合ニ於テモ其六百弗以上ノ超過額ニノミ課稅セサルヘカラス、而シテ所得稅ヲ賦課スルノ目的ハ自餘ノ財源ヨリ生スル歲入ノ不足ヲ補充センカ爲ナレハ毎年歲入ノ不足額ニ應シテ稅率ヲ定メサルヘカラス、余カ計算スル所ニヨレハメーリーランド州ニ於テハ其稅率ハ一分ヲ超過スヘカラス、而シテ其一分タル夫ノ財產稅ニ於ケル一分ノ十二分ノ一ニ過キサルナリ、千八百六十六年ニ於テメーリーランド州ハ所得稅トシテ百七十萬弗餘ノ巨額ヲ合衆國政府ニ

納メタリ、即チ其額タル現今我州政府ノ凡テノ費用ヲ支辨スルニ足ルヘキ程ナリ、而シテ此金額ノ内八十萬弗餘ハ五分稅ノ收入ヨリ成リレモノナリ、故ニ之ヲ一分ノ稅率トスレハ十六萬弗ノ割合トナルナリ、然レトモ租稅ノ計算ニ於テハ二ト二カ時トレテハ只一トナルコトアルカ如ク所得稅ノ場合ニ於テハ假令其稅率ヲ輕減スルトモ其收入ハ同一ノ比例ヲ以テ減少セサルコトアリ、去レハ所得稅ニ於テ一分稅ヲ課スルトセハ其五分稅ノ三分一即チ二十六萬七千弗餘ノ收入ヲ生スルモノト計算レテ先ツ安全ナリト云フヘレ、

其九十八萬七千五百三十四弗四十一仙ノ金額ハ五千弗以上ノ所得ニ賦課レタル一割稅ヨリ生レタルモノナリ、一分稅ハ恐クハ其五分一即チ殆ント十九萬五千五百弗餘ノ收入ヲ生レタルナルヘ

レ、之ニ前段ノ二十六萬七千弗ヲ合算スル時ハ四十六萬二千五百弗餘トナルナリ、而シテ兩者共ニ其最低額タル五百弗ヲ免稅レタルモノニ非ス、又一方ヨリ之ヲ云フ時ハ財富及人口ハ次第ニ増加シタルノミナラス、州政府ニ向テハ從來合衆國政府ニ對シタルカ如キ甚シキ抵抗アラサルヲ以テ余ハ現時ニ於テ一分ノ所得稅ヲ課スルコトセハ五十萬弗ヲ徵集シ得ヘント信スルナリ、而シテ以上ノ金額ハ他ノ歲入ト相待テ不動產ニ於ル州稅ヲ全ク免除シタルカ爲メ生シタル不足ヲ補充スルニ餘リアリト思考スルナリ、我各州カ要スル悉皆ノ公費ハ已ニ説明シタル他ノ歲入ト共ニ所得稅法ニ由リテ之ヲ徵集シ得テ毫モ困難ナキヲ信スルナリ、千八百六十六年ニ於ケル合衆國政府所得稅ノ總額ハ六千七百七萬千九百三十二弗二十五仙ニシテ、千八百六十七年ニ於テハ六千四百九

十八萬四千四百三十七弗ナリキ、マサチユースツ州ノ直接州稅額ハ百五十萬弗ニ滿タス、而シテ同州カ千八百六十七年ニ於テ合衆國政府ニ納メタル所得稅額ハ八百八十四萬九千七百五十三弗ナリキ、又ニユーク州ニ於ケル千八百八十七年ノ會計年度(即チ三十日ヲ以テ終ル)間州庫ニ收メタル直接州稅額ハ五百八十萬五千四百弗ナリ、然ルニ千八百六十七年ニ於ケル其所得稅額ハ二千十萬七千五百四十七弗ナリキ、而シテ千八百六十七年及ヒ千八百八十七年ノ兩年度間ニ於ケル收入額ハ自餘ノ諸州ニ就テ之ヲ比較スルモ又同一ノ結果ヲ見ルヘシ、

州稅法ニ因リテ徵集サレタル總額ハ『米國統計年鑑』ニ據レハ殆ント六千五百萬弗ナリトス、是レ固ヨリ直接州稅以外ノ租稅ヲモ包含スルモノナリ、其他吾人ノ記憶スヘキハ南部ノ諸州ハ貧窮ナル

ヲ以テ所得稅目ニ於テハ甚々僅少ナル稅額ヲ示シタルト是ナリ、然レトモ千八百六十七年以降ハ其人口及財富上ニ於テ非常ノ增加ヲナシタリ、其千八百六十六年及千八百六十七年ノ間ニ傳唱セラレタル繁榮ノ如キハ虛妄ノ事多クシテ容易ニ信ヲ置クヲ得ス、勿論速ニ其財產ヲ増加シタル人民數多アリシニハ相違ナレト雖モ又困難ニ陥リシ者モ一層許多ナリシナリ、然レトモ六百弗以上ノ所得アル者輒近二十年前ニ比シテ其數大ニ増加シタルハ掩フヘカラサルノ事實ナリ、

米國諸州ニ於ケル所得稅

諸州中現ニ普通所得稅ヲ賦課スルモノ二州アリ、ヴァージニア州ニ於テハ利子及利潤ヨリ生スル所得ニ課稅ス、而シテ一千弗以上ノ所得アル者ハ其一分ヲ納ムヘキモノトナセリ、此稅法ニヨリテ徵

集セラレタル收入ハ千八百八十六年ニ於テハ二萬七百五十五弗ナリキ、又マサチユージェツ州ニ於テハ年金、船舶、及職業、商賣等ニ論ナク凡ソ二千弗以上ノ收入アル者ハ必ス所得稅ヲ納ムヘキノ制規ナリ、然レトモ其他ノ租稅ヲ賦課セラル、財産ヨリ生スル收入ニハ所得稅ヲ課セサルコト、セリ、

ペンシルヴェニア州ハ特別ナル種類ノ所得ニ限リテ課稅スルノ制規ナリ

ペンシルヴェニア州ニ於テハ各會社、州外保險會社、各私立銀行、兩替屋、運送會社、又ハ未タ法人トナラサル銀行及ヒ貯金所等ノ所得若クハ純益ニ三分ノ所得稅ヲ課スルナリ、而シテ千八百八十七年ニ於ケル總歲入高七百六十四萬六千四百四十七弗三十七仙ノ内以上列記シタル財源ヨリ徵收シタルモノハ實ニ八萬一千五百九十六

弗九十二仙ナリキ、

北カロライナ州ノ憲法ニ據レハ已ニ他ノ租稅ヲ賦課シタル財産ヨリ生スル所得ニ所得稅ヲ課スルヲ許サ、ルナリ、而シテ該州ノチャルロット市ノ如キハ他ノ租稅ヲ賦課セサル財源ヨリ生スル所得ニハ悉ク一分稅ヲ賦課セリ、然レモ之ヲ要スルニ凡テ以上ノ如キ所得稅制度ハ決シテ其當ヲ得タルモノニアラサルナリ、又タマサチユージェツ州ノ如キハ二千弗ノ所得及已ニ他ノ租稅ヲ課セラレタル財産ヨリ生スル所得ハ悉ク免稅スルコトトセリ、是レ所得稅法ヲシテ有名無實タラシムルモノナリ、抑モ所得稅ハ何レノ州ニテモ其租稅制度中ニ於ケル重要ノ地位ヲ占メスト雖モ、然レトモ其地位ヲ占ムルニ非ラサレハ能ク其本分ヲ盡クシ且ツ満足ナル結果ヲ生スル能ハサルナリ、且ツ又所得稅ヲ賦課スヘキ

適度ノ金額即チ六百弗以上ノ所得ニハ悉ク之ヲ賦課セサル可ラ
ス、若夫レ暫時ノ免稅ヲ許可スル時ハ行政ノ困難愈々増加レ遂ニ
詐偽ヲレテ其端ヲ開カレムルニ至ルヘキナリ、

或程度以上ノ所得ハ悉ク課稅スヘキモ
ノナリ

夫レ所得ハ何レノ財源ヨリ生スルヲ問ハス、又々其財源ニレテ已
ニ課稅セラレタルニ拘ハラズ必ス之ヲ査定セサル可ラス、租稅ハ
之ヲ大別シテ二種トナスヲ得ヘシ、一ハ財產即チ物品ニ課スルモ
ノニレテ、一ハ所得ニ課スルモノ是ナリ、財產ニ課スル稅ハ即チ物
品ニ課スルモノニレテ、例令ハ一片ノ土地ノ如キ必ス幾分ノ租稅
ヲ納メサル可カラス、而レテ此租稅ハ其所有者ノ甲、乙、或ハ丙タル
ニ關セス、其收入中ヨリ第一着ニ支拂フヘキ義務アルモノナリ、然

ルニ所得稅ハ人ニ課スル租稅ニレテ其稅法ノ人ニ對スルヤ、此人
ハ幾許ノ所得アリヤトノ問ヲ以テレ、何等特別ノ財源ヲ問ハスレ
テ凡テノ財源ヲ包括スルナリ、而レテ其營業費用及ヒ營業稅ハ所
得ヨリ控除セラレ、ト雖モ人ニ屬スル費用、例ヘハ借家料、食物、衣
類ノ費用及ヒ其他ノ如キハ之ヲ包含スルモノトス、何トナレハ所
得ノ存スルハ蓋シ是等ノ諸費用ヲ充サンカ爲メナレハナリ、若シ
一人ニレテ自己所有ノ家屋ニ居住ストセンカ、其毎年ノ家屋料タ
ルヘキ價格ハ即チ其所得ノ一部分タルヘキモノナリ、
財產所有者ハ其所謂二重稅即チ所得稅ニ向テ第一ニ反對ヲ試ム
ルノ傾向アリ、然レモ彼等ハ之ニ反對スヘキ理由ヲ有セス、何トナ
レハ所得稅ノ目的トスル所ハ蓋シ財產所有者ヲ救済スルニアレ
ハナリ、是レ所得稅法カ能ク成功スル條件ノ一ニシテ、夫ノ財產ノミ

ヨリ生スル所得ヲ有スル人々ハ爲ニ其稅額ノ減少セルヲ見ル
 ナラン、何トナレハ所得稅及財産稅ヲ合算スルモ現今ノ財産稅額
 ヨリ多カラサルヘケレハナリ、而シテ所得稅ニ由リテ徵收スル額多
 ケレハ財産稅ニ由リテ徵收スル額ハ之ニ準ノ低減スヘキ者ナリ、
 又永久ノ財源即チ財産ヨリ生スル所得ハ一時ノ財源即チ一人
 ノ有スル智識、熟練、勞力等ヨリ生スル所得ヨリモ一層重キ稅率ヲ
 以テ課稅スヘキ者ナルヲハ世人ノ承認スル所ナリ、蓋シ前者ニ於
 ケル所得ハ悉ク之ヲ消費シ得ヘント雖モ、後者ニ於ケル所得ニ至
 テハ其一部分ヲハ將來ノ爲メ若シクハ不時ノ變ニ備ヘンカ爲メ
 ニ貯蓄セサルヘカラサルヲ以テナリ、例ヘハ或ル職業ヲ有スル人
 ニシテ一年一萬弗ノ所得アリト雖モ他ノ財源ヨリ生スル收入ナ
 レトセンカ、其人ハ必ス其晩年養老ノ爲メ、生命保險ノ爲メ、若シク

ハ兒童教育ノ爲メ豫メ其幾分ヲ割キテ後日ノ備ヲナサ、ルヘカ
 ラス、然ルニ或ル一人ハ合衆國ノ公債ヨリ毎年一萬弗ノ所得アリ
 トセンカ、此場合ニ於テハ全ク之ヲ消費スルヲ得ヘシ、而シテ其死
 亡又ハ何事モナシ能ハサルノ時ニ至リテモ其所得ハ依然トシテ
 毫モ變セサルヘキナリ、又彼若シ自ラ勤勉スルトキハ其所得ヲ増
 加スルヲ得ヘシ、夫レ兩者ノ間斯ノ如キ區別アルヲ以テ所得ヲ
 生スヘキ財産ニ課稅スルノ方法ヲ設ケタルモノナリ、果シテ然ラ
 ハ單ニ所得ヲ有シテ財産ヲ有セサルノ人ハ不平ヲ唱フルヲ能ハ
 ス、何トナレハ財産ヨリ生スル所得ヲ有スル人ハ比較上重稅ヲ課
 セラルレハナリ、而シテ又財産家ニ取リテモ此稅法ニ對シ不平ヲ鳴
 ストヲ得ス、何トナレハ其稅額ハ從テ輕減セラルヘケレハナリ、
 次ニ攻究スヘキハ此稅法タル農民ニ向テ如何ナル影響ヲ及ボス

カ是ナリ、今若シメーリーランド州ニ於テ一萬弗ノ實價アル耕地ヲ有スル人アリト假定センニ、若シ其耕地ヨリ一千四百弗ノ收得アリトセハ是レ相當ノ利益ヲ得タルモノナリト云フヘシ、而シテ彼ノ納ムル租稅ハ一分ナリトセハ即チ一年百弗ヲ納ムルモノニシテ、其内十八弗七十五仙ハ州ノ爲メニ納ムヘキモノナリ、然ルニ以上説明シタル稅法ニ依ル時ハ其十八弗七十五仙ノ稅ハ刪去セラレテ之ニ代フルニ八弗ヲ納ムルトナルヘシ、何トナレハ是レ其所得中六百弗ヨリ以上ノ超過額ニ課スル一分稅ナレハナリ、故ニ農民ハ十八弗七十五仙ト八弗トノ差即チ十弗七十五仙ヲ貯蓄スルトトナルヘシ、而シテ其差ハ今日不充分ニ課稅セラル、者ヨリ納ムルトトナリテ其缺ヲ補充スヘシ、加之ナラス此稅法ニ依ル時ハ地方ノ負擔ヲ輕減スルトアルヘシ、而シテ余ハメーリーランド

州ニ於テハ殆ント平均五分ノ一ノ減額ヲ見ルナラント信ス、果シテ然ラハ農民ハ更ニ十六弗ノ餘剩ヲ生シ、前者ト合計凡ソ二十六弗ヲ貯フルト得ヘク、其毎年ノ租稅ハ百弗ヨリ七十四弗ニ減スヘキナリ、

累進稅對比例稅

累進稅率ニ關スル問題ニ就テハ古來大ニ學者ノ論究シタル所ナリ、而シテ就中其最モ卓越ナル議論ハモンテスキューカ等テ古代アセンズニ於ケルソロンノ稅法ニ就テ論シタルモノナリトス、曰ク

「アセンズノ租稅ハ比例稅ニアラスト雖モ公正ナリト云フヘシ、其之ヲ賦課スルヤ財産物件ニ由リテ比例ヲ定メスト雖モ其須要ノ度ニ由リテ比例ヲ定メタリ、其旨意タル左ノ如クナリキ、曰

ク夫レ必需品ハ其需用一般同一ニシテ貧富上下ノ區別ナカル
 ヘレ故ニ必需品ニ稅ヲ課スヘカラス、有益品之ニ次ク、故ニ之ニ
 稅ヲ課スト雖モ贅澤品ヨリ少ナキヲ要ス、而シテ贅澤品ニ課稅
 スルト多キトキハ結局其贅澤ヲ抑止スルトナルヘント、
 是ニ因リテ之ヲ觀レハ其稅法中三稅率ヲ定ムルト至當ナリト云
 フヲ得ヘキカ如シ、而シテ其三稅率トハ即チ一ハ必需品ヲ供給ス
 ヘキ所得ニ課スルモノ、二ハ有益品ヲ具備スルニ足ルヘキ所得ニ
 課スルモノ、三ハ奢侈ヲ極ムルニ足ルヘキ餘裕ノ所得ニ課スルモ
 ノ是レナリ、

累進稅率ニ於ケル他ノ理由ハ教授ダブルユニー、ヂー、サムナリ(W. G.
 Sumner)氏ノ論ニタル原則ニ於テ之ヲ發見スルトヲ得ヘレ、曰ク「租
 稅ハ抵抗ノ最モ少ナキ所ニ向テ自然ニ普及スルモノナリト」抑モ

*
 ウォーカー著
 『經濟學』第
 二版、四百九
 十八頁

下等社會ニ於テハ抵抗最モ少ナク、上等社會ニ於テハ抵抗最モ甚
 レトス、然ルニ中等社會ニ於テハ唯温和ナル抵抗アルノミ、蓋シ比
 例稅ナルモノハ常ニ逆進稅タルモノ、如シ、換言スレハ富者カ租
 稅ニ抵抗スルノ勢力ハ強大ニシテ決シテ相當ノ割前ヲ納メサル
 ナリ、而シテ租稅査定官ハ貧者ニ對シテ査定スルカ如ク嚴重ニ富
 者ニ對シテ査定スルトヲ恐ル、ナリ、何トナレハ富者ハ勢力アル
 カ故ニ之カ意ニ逆フトキハ一身ノ災害トナルトアルヲ以テナリ、
 故ニ合衆國ニ於テハ何所ニシテモ富者ニシテ正當ニ査定セラル、
 モノアラサルナリ、加之ナラス富者ハ數多ノ計策(例セハ公債買入
 ノ如キ)ヲ利用シテ以テ租稅ヲ免ル、ト雖モ小資産者ハ其費用ノ
 大ナルカ爲メ之ヲ行フ能ハサルナリ、且ツ大財産家ハ概シテ商法
 ニ慣熟シ併シテ免稅策ニ巧ナリトス、斯ク論シタリトテ余ハ敢テ

一階級ハ他ノ階級ヨリ善惡優劣アリト云フノ意ニアラス、只タ抵抗カノ強弱如何ヲ示シタルノミ、若シ夫レ下等社會及中等社會ノ人民ニシテ十分ニ其抵抗カヲ有シタランニハ彼等ハ今日其不正トシテ非難スル行爲ニ倣フヤ蓋シ疑ナカルヘキナリ、又或ハ有名無實ナル累進稅ハ之ヲ實施スルニ當リテハ比例稅ト伯仲ノ間ニアリト論スルモノアリ、何トナレハ其累進稅ハ我國ノ如キ富裕ナル邦國ニ於テハ其抵抗ヲ受クルト甚ク之ヲ實施セント欲スルハ殆ント夢想ニ類スルヲ以テナリ、若シ此法ニシテ實施セラレ、時ハ顧フニ人民ノ怨憤ト惡感情ヲ惹起スルニ至ルヘシ、故ニ吾人ノ見ル所ヲ以テスレハ及フ可キ限り精密ナル比例法ヲ立テテ之ヲ務ムルノ遙カニ勝レルニ若カザルカ如シ、且ツ吾人ハ此比例稅法ノ最モ能ク實際ニ行ハルヘキヲ信スルナリ、蓋シ此

稅法タルヤ人民ノ良心カ認メテ以テ正當トナスヘキモノナリト雖モ、夫ノ累進稅法ニ至テハ現今ニ於テハ未タ多數人民ノ良心カ認メテ以テ公平正當ナリトナスモノニ非サルナリ、累進稅ノ反對論者ニシテ往々左ノ如キ反對說ヲ唱フル者アリ、其說ニ曰ク若シ累進稅ニシテ其稅率累進シテ底止スル處ナクシハ遂ニ所得ノ全額ヲ沒收スルニ至ルヘシ、例セハ一千弗ノ所得ニ一分稅、二千弗以下ノ所得ニ二分稅ヲ課シ、而シテ益々其稅率ヲ累進セシカ、遂ニ十割即チ其所得ノ全額ヲ沒收スルニ至ルヘシト、然レトモ斯ノ如キ議論ヲナス經濟學者ハ最モ算數學ニ暗キモノト云ハサルヘカラス、何トナレハ其稅率ハ單ニ數學的ニ累進スト雖モ其所得ハ幾何學的ニ増進スルカ故ニ其稅率ハ累進スルニ尙且ツ其重キヲ覺エサルヘケレハナリ、今假リニ見易キ例ヲ以テ之ヲ示

サンニ、若シ其稅率ハ一、二、三、四、五ト漸次ニ累進シ、而シテ其所得ハ一千弗、二千弗、四千弗、八千弗ト増進スルトセンカ、其稅率ハ其所得カ八百萬弗ニ超過スル迄ハ一割五分ニ昇ラサルヘシ、而シテ世界ノ歴史ニ於テ其稅率ニ割ニ昇ルヲ決シテ之レナカルヘシト云フモ敢テ輕言ニアラサルナリ、

又所得稅ニ向テハ反對說甚ク強力ナルヲ以テ之ヲ租稅制度中ニ編入スルハ到底出來難キヲナリトノ說ヲナス者アリ、然レモ是レ揣摩ノ臆說タルニ過キサルナリ、何トナレハ所得稅ハ一般人民ノ意向ニ投合スルノ狀アレハナリ、余ハ嘗テ租稅審査委員ノ資格ヲ以テナシタル報告ニ付テ四名ノ經濟學教授ノ說ヲ聽キタルヲアリ、而シテ各々余カ主張シタル所得稅法ニ賛成ノ意ヲ表示セラレタリ、余ハ嘗テ合衆國大都府ノ一ニ於テ商業會議所、穀物麪粉取引

所、商工協會等ノ總代ヨリ招待ヲ受ケ租稅法ニ付キ余カ持論ヲ開陳シタルヲアリシカ、列座ノ諸氏中一人トシテ所得稅法ニ反對スルモノアラサリシナリ、其有力ナル一員ハ語リテ曰ク、余ハ全然此稅法ヲ排斥セサルハ勿論十分ノ時間ヲ得テ再三熟慮センヲ欲スルナリト、又他ノ一員ハ曰ク、余ハ嘗テ合衆國政府所得稅ニ反對シタルヲナシ、余ハ各人カ其所得ニ應シテ相當ノ所得稅ヲ納ムルハ至當ノ事ナリト信スルナリト、又有名ナル一商業家ハ其集會ノ終ルヤ余カ許ニ來リテ余カ說ニ全ク賛成スル旨ヲ告ケラレタリ、余カ以上ノ如キ私事ヲ語ルハ聊カ憚ル處ナキニシモアラスト雖モ稍々注意スルニ足ルヘキ事ナルカ故ニ之ヲ記シタルナリ、而シテ余カメーリーランド州立法部ニ提出セル報告書中ニ論シタル所得稅法ニ反對シタル者ハ十中ノ一ニシテ十中ノ九ハ之ヲ賛成

レタリ、若レ夫レ租稅改良論者ニシテ所得稅ニ注意ヲ傾クルニ至ラハ彼等ノ爲ス處一トシテ成就セサルハナカルヘシ、而シテ其之ヲ査定シ且ツ之ヲ徵收スル完全ナル方法ヲ設ケンカ爲メニハ他ノ至難ナル動產稅法ヲ實施センカ爲メニ費サレタル勞力ノ十分一ヲ盡サハ遺憾ナカラシ、左ニ掲クルモノハニユーヨークノ郡裁判所判事カ余ニ送リタル書翰ノ大要ナリ、

『余ハ足下カ租稅法ニ關シメリーランド州ノ立法部ニ追加報告書トシテ提出セラレタルモノニ付キ仔細ニ點檢セリ、而シテ其中ニ獎說セラレタル法案ニ付テハ余ハ全ク贊成ノ意ヲ表スルモノナリ、且ツ足下カ州歲入ノ爲メニハ不動產ニ課稅スヘカラス、只地方歲入ノ爲メニノミ之ニ課稅スヘントノ建言ハ余ニ取リテハ甚々嶄新ノ論ナリトス、此問題ニ付キ從

來余カ思考シタル處ニヨレハ是レ甚々得策ニシテ、此法ニ從フ時ハ或ハ從來ニユーヨーク州ニ於テ不動產稅ノ公正ナル平等ヲ保タンカ爲メニ感シタル最大困難ノ一ヲ除去スルニ至ランカト信スルナリ、

余ハ多年ノ間熱心ニ五百弗以下ヲ免除スル等級アル所得稅ニ贊成シタリ、其六百弗免除ニモ決シテ反對スルモノニアラサルナリ、余ハ又其金高五百弗ニ超過スル凡テノ遺產、遺言ニ依リテ讓リ受ケタル財產、分配シタル財產及ヒ相續等ニ課スル等級アル遺產稅ハ至當ノ租稅ナリト確信ス、又會社、殊ニ其商業ハ益々増加スル收入ヲ得ルノ見込アリ且ツ競争ノ法則ニヨリテ左右セラレサル會社ノ所得ニ課稅スルハ實ニ正當ノ事ナリト考フルナリ、

余ノ見ル所ヲ以テスレハ凡テ自餘ノ歳入ハ補助稅トシテ之ヲ論スヘキモ決シテ直接歳入ヲ得ンカ爲メニ課スヘキモノニ非スト愚考スルナリ云々、

又々左ニ記スルモノハ前ト同シク書翰ヨリ引用スル處ナリ、而シテ書中論スル處ハ本書ノ他ノ部分及ヒ本章ニ關スル事ナリト雖モ今之ヲ其題目ニ從ヒ箇々ニ分離シテ挿入スルノ煩ヲナサシヨリ寧ロ此所ニ其全文ヲ掲タルニ若カサルヘント思考スルナリ、其論旨ノ卓絶ナルト其筆者ハ現ニ高貴ナル地位ヲ占メ居ル人ニシテ嘗テ我大州中ノ一ニ於ケル高等裁判所ノ法官ナリントノ二點ニ於テ大ニ注意スヘキモノアリ、其文ニ曰ク

『數キニ「租稅報告書」一部ノ贈與ヲ忝フシ厚意深謝スル所ナリ、依テ之ニ付キ卑見ノ一二ヲ開陳シ聊カ參考ノ一端ニ供セン

トス、右報告書中ニ記スル建言中甚々嶄新ナルモノアリ、又多年來余カ思考セシ處ノ問題ト大同小異ノモノ少カラズ、就中動産即チ金錢及ヒ信用ヲ包括スル動産ニ課稅スルコトニ付テ足下ノ批評ハ余カ全ク同意ヲ表スル所ニシテ其卓見誠ニ感服ノ外無キナリ、實ニ動産稅ハ高示ノ如ク正直ナル者ニハ壓制ニ流レ易ク不正直ナル者ニハ行届カサルハ是レ一般ノ通弊ナリトス、然レトモ之ヲ全廢スルノ利害得失ニ付テハ余ハ未タ一定ノ意見ヲ有セサルナリ、又余ハ所得稅法ニ關シテハ足下ト同一ノ意見ヲ有スルモノナリ、若シ其所得高ニシテ明白ニ之ヲ査定シ得ル以上ハ所得稅法ハ實ニ最モ公平ナルモノト信スルナリ、然レモ此點コソ所得稅ノ得失ノ分ル、所ニシテ足下ニハ其困難ヲ推知スルコト難

カルヘント思考ス、……余ハ此ノ如キ租稅カ我國ノ租稅法中ニ加ヘラレント切望スルモノナリ、且ツ余ハ夫ノ甚々貫徹スルニ困難ナル目的ヲ達センカ爲メニハ此ノ如キ糾問的器械ヲ用ユルニ反對スルモノニアラス、足下ハ單ニ所得稅ヲ以テ累進稅トナス可キヤ如何ヲ指示シタルニ過キスト雖モ余ハ必ス之ヲ實行スヘント斷言スルヲ憚ラサルナリ、夫レ租稅ノ目的タルヤ要スルニ歲入ヲ得ンカ爲メニ外ナラスト雖モ又他ノ目的ノ其中ニ含蓄スルヲ忘ルヘカラス、凡テ政府ノ權力ハ公共ノ安寧ヲ增進スルト共ニ權力其物ノ直接ノ目的ヲモ實行セサルヘカラサルカ如ク、租稅法ニ於テモ一方ニ於テハ財産ノ甚シキ不平均ヲ救フノ方便トナルヘキモノナリ、試ミニ實際ニ付テ觀察スレハ大金滿家ハ貧窮ナル人

民ヨリモ比較的ニ少額ノ租稅ヲ納ムルモノ、如レ、輕少ナル租稅ト雖モ貧者ニ取リテハ往々堪ヘ難キ重擔タルコトアルヘキモ、之ニ反レテ富者ハ重歛ヲ課セラル、モ之カ爲メ不便ヲ來ス、ナカルヘキナリ、例セハ今茲ニ五萬弗ノ所得アル者ニ一萬弗ヲ課稅スルモ未タ以テ被稅者ニ取リテハ堪ヘ難キノ重擔ナリト云フヲ得サルノミナラス、却テ貧富ノ不平均ヲ防クノ方便トナルカ故ニ社會ノ幸福トナルヘキナリ、余ハ土地所得及ヒ其他ノ課稅物ニ對シ悉ク累進稅トナサント主張スルモノナリ、又株式相場ノ如キモノニヨリテ收得シタルモノハ其人ノ所得ト見做シ以テ前同様ニ課稅スルニ至當ナリト思考ス、

足下ハ借地料ニ課スル租稅ノ至當ナルヲ勘考シタルヲ

リヤ如何、我國土地所有ノ關係ハ理論上封建的ナリト云フコト至當ナリ、現ニ英國ノ如キハ全ク然リトス、抑モ封建時代ニ於テハ諸侯ヲ統卒スル霸王ハ兵役ト貢稅ノ條件ニ依リテ大諸侯ノ間ニ其封土ヲ分配シ、又諸侯ハ同一ノ方法ニ因リテ其領地ヲ其配下ニ分配シタリ、當時彼等カ兵役ニ服シ且ツ貢稅ヲ納メタルハ今日借地人カ其地主ニ借地料ヲ納ムルト全然同様ナリレモノニシテ其分配セラレタル土地ニ對スル唯一ノ報酬ナリレナリ、又古來其國王ト諸侯トノ間ニ起レル葛藤ハ重ニ借地料ニ關スル事ナリ、蓋シ諸侯ハ土地ヲ占領シ以テ借地料ヲ免除セラレシメテ企圖シ、國王ハ諸侯ニ對スル負擔ヲ増加センコトヲ欲スルカ故ニ其爭端ヲ開クニ至リレハ勢ノ止ムヘカラサル所ナリキ、其結果ハ如何ト云フニ英國憲法

ノ發達ト共ニ遂ニ大地主ハ全ク負擔ヲ脱シ借地料ヲ免除セラレタル土地ヲ所有スルニ至リタリ、然ルニ彼等ノ配下ニアリテ土地ヲ所持スル普通ノ人民ニ至テハ其借地料ハ二倍、四倍ト次第ニ増加シタルヲ見ル、今ヤ封建ノ武士制度及ヒ貢稅ハ存セサルカ故ニ各大地主ハ其當初ノ土地受領ニ對スル義務ヲ盡スカ爲メニ其徵收スル借地料悉皆ノ四分一乃至半額ヲ國庫ニ納メサルヘカラス、右ト同一ナル歷史上ノ理由ハ我國(米國)ニ於テ求ムルコト能ハサルヘント雖モ之ヲ比較スレハ我國ノ州ハ恰モ封建時代ノ國王ノ如クニテ土地全躰ノ所有權ヲ有シ、凡テノ財產ニ課稅スルノ權利ノ外ニ土地ニ課稅スルノ權利ヲ有スル者ナリ、余ハ今茲ニ之ヲ詳論スル能ハサルカ故ニ此點ニ關シテ只一言ノ注意ヲ與フルノミ、然レトモ余

ノ考フル所ニ據レハ動産、勢力、若レシハ商業ヨリ生スル所得ニ課稅セスレテ夫ノ所有者ノ勢力ニ因ラスレテ土地ヨリ生スル所得即チ借地料ニ課稅スルハ至當ノ事ナリト信ス、人民一般ノ利害ニ關スル凡テノ公共事業ハ州又ハ合衆國若クハ自治市ノ所有ヲラサルヘカラス、此點ニ付テハ大ニ論スヘキ事アリトス、

足下ハ州ノ歲入ヲレテ地方歲入ヨリ分離セシムルニ付キ鞏固ナル理由ヲ舉示セラレタリ、若レ所得ニ課稅スルトセハ悉皆ノ所得ニ課稅スルヲ得可レ、然レトモ同種ノ財産ヲ評價スルニ當リテ不平均ノ評價ヲ爲レ大ニ不公平ニ陷ルノ弊ナレト云フ可ラズ、云々、

第八章 遺産相續稅及遺産贈與稅

此章ニ於テ用ユル遺産相續ト云フ義ハ遺言ナレト雖モ法律上相續スヘキモノトシテ一人カ受ル財産ヲ示スモノナリ、而シテ遺産贈與トハ即チ死者ノ遺言或ハ遺書ニヨリ若クハ本人ノ死後ニ其効力ヲ見ルヘキ贈與トシテ受ケタル財産ヲ示スモノナリ、此故ニ遺産贈與ハ遺言書及ヒ遺言財産ニ關スルモノニシテ、遺産相續ハ則チ無遺言財産及ヒ無遺言死亡者ニ關スルモノナリ、此區別ハ一般ニ承認セラレタルモノニ非スト雖モミル氏ノ『經濟學』中ニモ既ニ之ヲ使用シタルノ先例アリ、且ツ今之ヲ論スルニ當リ甚々適當ノ區別ナリト思惟スルナリ、

ミル曰ク

「抑モ財産制度タル其最モ主要ナル原素ヲ舉示センニ各人カ自